

2020年度三重大学人文学部における

# F D 活 動

報 告 書

2021年（令和3年）3月

三重大学人文学部



## 2020 年度 FD 活動報告書に寄せて

FD (ファカルティ・ディベロップメント Faculty Development) とは、「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。その意味するところは極めて広範にわたるが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げるができる。」(中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像」答申 2005 年) という定義があります。

2003 年より人文学部には FD 委員会が設置されており、本学部の FD 活動は比較的早く始まり、現在まで継続して全員参加の形で行われてきました。その様子は毎年発行されるこの『FD 活動報告書』に詳しく記載されています。

<現在の主な取り組み>

- (1) カリキュラム・プログラム単位等で行われる FD 研修会
- (2) 全員が参加する FD 講演会
- (3) 学部学生・大学院生を対象とした授業評価アンケート
- (4) 教員を対象とした授業運営や発表会等のアンケート
- (5) 教員対象の FD 活動に関するアンケート調査

かつて行われた教員による他の教員の授業参観や新人研修会は近年開かれていません。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で通常の対面式授業の実施が困難でした。代わって行われたのが、インターネットを利用した遠隔授業で、学生・教員の双方とも手探り状態の中どうにかやり遂げることができました。

その際に FD 委員会ではオンライン交流会を何度も開き、Zoom の利用方法や PC・カメラ・マイク等についての教員の不安と知識不足の解消を図るべく、教員間の交流の場を設けることに努めました。在宅での勤務時間が増加し、他の教員と交わることが激減した昨年度は、これまで予想できなかった事態に多くの教員が精神的にも影響を蒙りましたが、オンライン交流会はそうした孤立しがちな教員の支援に大いに役立ったものと信じます。

学生の要望に応じて授業内容を改善していく努力は、困難な状況でこそ重要であることを改めて確認した一年でした。

2021 年 3 月

三重大学人文学部長 藤田伸也



# 目 次

2020 年度 F D 活動報告書に寄せて

I. 2020 年度 F D 活動の総括 .....	1
II. F D 研修会 (7 月 F D 研修会) .....	3
III. F D 講演会 .....	9
1. 9 月 F D 講演会の記録 .....	9
2. 講演会のアンケート結果 .....	28
IV. 学部生による「授業改善のためのアンケート」 .....	33
1. アンケートの概要 .....	33
2. 分析結果 .....	46
V. 教員による「授業に関するアンケート」 .....	49
1. アンケートの概要 .....	49
2. 分析結果 .....	49
VI. 大学院に関する F D 活動 .....	61
1. 大学院生による「授業改善のためのアンケート」 .....	61
2. 「三重の文化と社会」報告会、修士論文発表会への教員の参加 .....	61
3. 大学院に関する F D 研修会 .....	66
VII. 教員による「F D 活動に関するアンケート」 .....	87
1. アンケートの概要 .....	87
2. 分析結果 .....	87
巻末資料 .....	93
巻末資料 1 授業に関する教員アンケート	
巻末資料 2 「三重の文化と社会」報告会、修士論文発表会に関する教員アンケート	
巻末資料 3 F D 活動に関するアンケート	
巻末資料 4 2020 年度 F D 委員会年間活動	



## I . 2020 年度 F D 活動の総括





## I. 2020年度FD活動の総括

2020年度はコロナ禍に見舞われた年であった。前期後期ともに授業が全面オンラインとなり、入学式が中止となるという異常事態の中、教員は待ったなしのオンライン授業導入となった。緊急事態宣言による構内立入制限や在宅勤務の推奨、ソーシャルディスタンス等による物理的な孤立が生じ、教員は大学での同僚との接点を失い、この非常に困難な問題を一人で抱え込まざるを得ない状況に追い込まれがちであって、誰もがこの状況に困惑し、心身共に苦しみ、疲弊した一年間であった。

人文学部では、毎年定期的実施してきたFD活動の成果を踏まえた上で、予定していたFD活動の一部を急遽変更して、コロナ禍の教員が抱える諸問題を少しでも解決するような、参加者にとって「いますぐに役に立つ」、有意義な取り組みを行うことにした。

毎年恒例の研修会として、7月(例年は6月)に両学科のカリキュラム・プログラム単位で実施する「前年度の授業アンケートの自己分析と授業の改善方法」をテーマとするものがある。例年と異なりオンラインでの実施となったことで開催場所の収容人数などの制約がなくなったこともあり、新機軸による意見交換の活性化も狙って、2カリキュラム・プログラム単位を合同にした合計4グループに分かれて実施した。オンライン会議に慣れていない時期の開催ということやZoomの機能の制約もあって、対面のときのようなスムーズな討論が難しかったり時間が足りなくなったりという課題はあったものの、例年にはなかった、他のカリキュラム・プログラム単位の報告に接する機会を設けたことは、新鮮味をもって受け止められた。

9月のFD講演会は「大学教育におけるオンライン授業が提起したもの」をテーマとして、シンポジウム形式で実施した。パネリストの3名は、文化学科教員の森脇由美子氏、法律経済学科教員の田中亜紀子氏、「学生なんでも相談室」教員の鈴木英一郎氏に依頼した。森脇氏と田中氏には、前期に実施したオンライン授業の報告と問題提起を行っていただいた。鈴木氏には、学生の相談状況とオンライン対応のメリットとデメリット、そして学生を支援する側である教員のメンタルケアについても指摘をいただき、教員が直面する問題を解消するヒントを提供できた。講演会終了後のアンケートでは、特に自由記述による感想が多数寄せられ、内容も具体的かつ切実なものが多く、いかに教員がコロナ禍の教育とオンライン授業の実施に苦勞し、心を砕いているかを物語るものであった。

これと並行して、定例の研修会や講演会では教員が抱える悩みや困難にスピーディーに対応できないと考え、FD委員会主催のインフォーマルな活動として、人文学部教員のためのオンライン交流会(自由参加)を9月から不定期に実施した。この交流会は12月まで合計7回実施された。この時期、休校やオンライン授業による学生の孤立は社会問題となっていたが、オンライン授業と学生のケアに追われる大学教員の孤立は注目されなかった。FD委員自身も教員としての孤立に直面しており、何か少しでも状況を変えたいと考えての企画であった。大学構内で人と会うことが激減してから、コロナ前には対面での会議や構内でのすれ違いなどの何気ない機会にどれだけ多くのコミュニケーションを取っていたのかと

いうこと、それがすべて奪われてしまうと「ちょっとした疑問や困りごと」を聞く相手も機会もなくなってしまうことを実感した教員は多いであろう。コロナ禍での教員の孤立を解消するのが目的であったが、主に Zoom や Moodle の使い方やオンライン授業の方法について、「ちょっとした疑問」を気軽に質問できる場として参加者からは好評であった。特に新任教員にとっては、他に教員との交流の機会がないに等しく、このオンライン交流会は人文学部として必要な機会であった。

大学院FD活動もコロナ禍に対応する形になった。11月の大学院FD研修会は、「コロナ禍と大学院教育」のテーマで、法律経済学科教員の豊福裕二氏と岩崎恭彦氏をパネリストとしてシンポジウム形式で実施した。オンラインの授業の「時間と空間の制約がなくなる」というメリットについて、特に社会人院生が大学院の授業に参加しやすくなるという指摘は、対面授業に戻った後も、社会人院生の教育のあり方として検討されることになるかもしれない。しかしやはりオンライン授業で大学院としてのレベルにふさわしい教育がどこまで可能なのか、という大きな課題は残る。

学生による「学びの振り返りと授業改善のためのアンケート」は、例年、人文学部の回答率が低いことが指摘されてきたが、今年度の前期は回答率が少し上昇した。学生がオンライン授業に慣れたことでアンケートの web 回答に移行しやすかった可能性が考えられるが、後期では回答率が下がってしまったのもまた学生の「慣れ」によるものかもしれない。

大学院生によるアンケートは、本研究科の規模を鑑みると有意な回答を得るのが困難であり、本研究科の学生と指導教員にとって意味のあるFD活動を検討する必要があるが指摘されていた。一昨年度から導入された「複数指導体制」の実態と効果の検証も必要であったが、コロナ禍ということもあって取り組むことが困難であり、次年度以降の課題として見送りたい。

コロナ禍によって教員は Zoom や Moodle の利用が必須となったが、副産物として、授業で身につけたオンラインのノウハウを委員会運営やFD活動に応用できたということがあった。特にこれまで紙媒体で配布・回収していた各種アンケートを Moodle のアンケートモジュールを使って実施したことで、アンケートの回答率向上と、集計の効率化に繋がった。今後、FD活動が対面実施に戻っても、アンケートのオンライン化は有益であろう。

FD委員会は第1回を除いて全面的にオンライン会議となり、それに伴う不便もあったが、FD委員会用（委員専用／参加者用）の Moodle コースを作成してそこに情報を集約する等の工夫によって、円滑な運営に努めることができた。

コロナ禍の2020年度ほど、「すぐに役に立つFD活動」の意義を実感した年はなかったと言って良い。それだけ未曾有の事態であった。早くコロナ対応以外の、本来のFD活動に戻れる日が来ることを願うとともに、コロナ禍で蓄積された有用なノウハウが、今後の効率的かつ有用なFD活動のために活用されることを願う。

2020年度FD委員会委員長 川口敦子

## Ⅱ. F D 研修会



## II. FD研修会（7月FD研修会）

### 1. 7月FD研修会

日時：2020年7月8日（水）14:00~15:00

テーマ：2019年度実施学生アンケートの自己分析と改善方法

7月のFD研修会では、例年通り前年度（2019年度）に実施された「授業に関するアンケート」の集計結果を用いて、10人前後のグループごとに、報告と意見交換が行われた。とくに今回は、例年カリキュラム・プログラムごとに実施していたものをいかにどのようにグルーピングして実施した。なお、オンラインにての実施である。

グループA：日本+ヨーロッパ・地中海

グループB：アジア・オセアニア+アメリカ

グループC：統治システム+企業経営

グループD：生活法システム+地域経済

また、法律経済学科は、専門PBLセミナーについての反省会も兼ねて実施した。各グループごとの研修の概要は以下の通りである。なお、文化学科の報告は従来のカリキュラム単位でなされた。

#### [1] 文化学科

##### (1) 日本地域

出席8名、欠席0名

[2019年度実施授業アンケートの自己分析と改善方法]

◇報告者 森正人（記録者 森正人）

[報告の概要]

人文学部で開講する3つの授業、地理学概論、日本の風土と地誌AおよびBについて、それぞれの進め方や評価方法と、それに対する学生のアンケート結果をもとにして分析する。

授業の進め方としての特徴は、授業開始前にMoodleを用いて事前学習教材を配布し、その内容をまとめたものを回収している。また授業終了後3日以内に授業の内容をまとめたものをMoodleで回収している。

アンケートの結果から、授業の進め方や評価方法は学生の授業外学習を促し、かつ理解を助けたと判断された。

[議論の概要]

・事前学習を行い、それが授業時間でどのように活かされるのか。

事前学習は完全な反転授業のためではなく、あくまで授業時間内の説明分の時間を削減す

るとともに、学生自らの学習への取り組みを促すものである。

・授業内に付箋を使う場合の授業展開について

付箋は3枚程度授業開始時に配布し、授業に関する内容確認や、これから話す授業内容に関する簡単なことを学生に書かせている。難しい内容の質問はしない。また時間を3分や5分に区切って、できるだけ授業を円滑に展開するように努力している。

・授業内容の質問の受付について

授業内容の質問は基本的に受け付けていない。授業のスライドの最初に当該授業の参考文献を明記している。

## (2) ヨーロッパ・地中海地域

出席9名、欠席1名

◇報告者 ティエリー・グットマン（記録者 村上直樹）

[報告の概要]

資料に沿って、まず、教養授業科目「比較文化論」の概要、目的、到達目標、成績評価方法と基準、学修内容に関する説明が行われた。同授業のテーマは、日本文化の絶対的特殊性を前提とした日本人論の批判的検討であり、13回分が学生の報告にあてられている。この報告に関する質疑を活発にするために、受講生を小グループに分け、その小グループで報告に対するコメントを考えてもらうというやり方が紹介された。また、この方法がとても有効であることも報告された。

授業内容の説明の後、学生による授業アンケート（回答率50%）の結果が報告された。数値の平均がどの項目でも4点を超えており、学生による評価が高いことが示された。そのこともあり、今後大きな改善は考えていないことも報告された。

[議論の概要]

報告の後の質疑においては、以下のようなことが話題となった。

\*授業で使用されている文献・ビデオ教材の内容について。

\*報告の後の議論を活発にするための方法について——小グループによる話し合いを使った方法は、他の教員によっても用いられていることが確認された。別の方法については、意見が出なかった。

\*最終的な報告において、教員の意図にかなうような内容のものが出たのかどうか——日本特殊性論に依拠したような日本人論に批判的な報告が実際に出ていることが確認された。

\*学生による報告の順番について——1回目の報告と2回目の報告の順番は同じにしてあるので、時間的にきびしいスケジュールにはなっていないことが確認された。

## (3) アジア・オセアニア地域

出席8名、欠席0名

◇報告者 久間泰賢（記録者 三根慎二）

[報告の概要]

担当科目（アジアオセアニアの思想C・Dおよび比較思想）について、各授業の概要・目

的、到達目標の説明をシラバス等を参照しながら行った後、授業実施形態(構成と時間配分、レポート課題の詳細、成績評価など)の紹介があった。授業アンケートの結果と分析についても集計結果を参照しながら報告があり、回答者が少ないこと(10%台)、シラバス活用の割合が低いことなどの問題点が指摘された。最後に、反省点・今後の改善点として、アンケートの授業時間中の回答実施、シラバス記述(発展内容)の詳細化、レポート課題の出題方法の工夫、提出課題の返却(受講者のモチベーション維持の効果を考えてコメント付与と返却)などが提案された。

#### [議論の概要]

質疑応答では、アンケート回答率の傾向、各授業と卒論指導との関係(たとえば、ゼミ生以外を考慮した授業内容の配慮)についてやりとりがあった。

あわせて、アジア・オセアニアコースにおける卒業論文中間発表会についての概要紹介があり、他分野からの教員・学生からの質問やコメントを受けることの意義(視野を広げる、指導教員決定の参考になるなど)が指摘され、改組後も同様の試みを継続することの必要性への言及もあった。

#### (4) アメリカ地域

出席 8 名、欠席 0 名

◇報告者 中川正(記録者 江成幸)

#### [報告の概要]

「アメリカの風土と地誌 B」の授業構成と、アンケート結果の分析について報告された。上級生の卒論を読んで批評し、書き方を学習する授業を行っている。学生アンケートの結果でも高い評価を得ている。

#### [議論の概要]

- ・卒論を後輩が読んで意見を述べることは、書いた学生にもよい機会である。
- ・配慮が必要な学生等のグループ学習への参加について。各回の前日までに Moodle に課題を提出し、その内容をカードに転記して議論に参加するようにしている。
- ・アジオセの卒論中間発表会とアメリカの卒論発表会は、様々な分野の教員および学年を越えた交流の機会である。卒論執筆の準備としても有効で、続けていくことが望ましい。

#### [2] 法律経済学科

##### (1) 統治システム+企業経営履修プログラム

出席 13 名、欠席 0 名

報告者 内野広大(アンケートの分析)、前田定孝(専門 PBL セミナー)(記録者 岩崎恭彦)

#### [報告の概要]

授業アンケートの自己分析と改善方法

学生の多様なニーズのすべてに応えようとするのではなく、教えるレベルを「公務員試験に必要な水準」と設定して明示している。予習・復習課題を設定して、何をどの程度まで理



解する必要があるか、理解したことの応用に求められる水準はどの程度かを明確にしている。学生の集中力維持のためインターミッションを設けている。等の教育実践を、アンケート分析に基づきながらご報告いただいた。

### 専門PBLセミナーの実施報告

専門PBLセミナーは、人文社会科学分野として「価値を創造するということに役立つ」のにふさわしい科目になっているか、そうなりうるか、という問いを出発点に、教育実践のご報告をいただいた。

#### [議論の概要]

・学生の到達目標を概念化、構造化して、それを学習課題や成績評価に反映するというのは優れた教育実践である。今後、カリキュラムを構造化し、それとの関係で各教科・科目ごとの成績評価基準の精緻化を図ること等がより一層求められるだろうが、そのためにも、各教員が教師として抱える悩みを共有したり、その試行錯誤の成果を報告しあうなどの交流を図ることは有益である。

・講義で学んだ内容を理解するのに加え、それを学生自身の問題意識に引きつけて考え表現させる、というのが科目の違いを問わず共通の課題になっている。一方で、学生の学習時間が足りていないとの問題がある。Moodle等を活用して学習を促す工夫も必要である。

以上の代表的意見にみられるように、有益な意見交換が行われた。以上の報告を受けて、討論に入った。そこでは、参加者から、専門PBLで実際に行っていることが紹介されるとともに、そこで問題として感じている〈専門PBLの担当者1人あたりの数問題〉に言及された。

### (2) 生活法システム+地域経済履修プログラム

出席13名（オブザーバー1名）、欠席0名

報告者 藤本真理（専門PBLセミナー）、田中亜紀子（アンケートの分析）（記録者 藤本真理）

#### [報告の概要]

今回の研修会は二つのテーマを持ち、ひとつは専門PBLに関する研修、もうひとつは例年通りの授業アンケート分析及び改善についてである。それぞれ報告と議論とが行われた。前半では、藤本先生よりPBL研修の報告が行われた。昨年からのPBLのクラス編成方法が、志望調査に基づく方法から学籍番号で自動的に決める方法に変更された。そこで、藤本先生から所属ユニットで提示されるテーマに興味を持たない学生が増える懸念が指摘された。藤本先生が実際に講義を行った感触では、概ね動機付けは以前と変わらないようである。また、以前に経験された複数教員によるPBL指導と現状の一人の教員による指導とを比較し、複数分野の教員から質問がないことで、受講生が視点の豊富さを感じにくいことが指摘された。法律経済学科のPBLは1年生後期と2年生前期の二つで構成され、二つの講義の連続性に関して藤本先生による工夫例が紹介された。

後半は、田中先生（担当科目：刑法総論、刑法各論、その他）より、授業アンケートの分析・授業改善についての報告が行われた。専門科目では、1コマ90分中の80分は説明に充



て、各回の内容に関する確認問題を公務員試験、司法試験択一などから提示し、次回に解説を実施されている。また、任意のレポート課題を提示するとともに、中間試験も実施されている授業アンケートでは、「4つの力」のうち学生が身についたと思うものは考える力（専門知識・技術）が多く、授業外学習時間は30分未満が少ない。自由記述欄では、授業の分かりやすさ、各回の確認問題や中間試験前の説明などが充実していることから、成績評価の公正性を評価する声がある。学生からの要望としては、質問の時間を設ける・説明をゆっくりにするなどがあるが、授業で取り扱うべき事項が多く、難しい面が多いとのことであった。

#### [議論の概要]

参加の先生からは、PBL受講生へ動機付けをどう与えるかが肝心という点から意見が交わされた。幾人の先生から、1年生に比べ2年生は学習に対する動機付けが低下するとの懸念が示された。この点に関して、作業グループの中で個別学生の頑張り度合を上手く区別する必要性が議論された。抜粋すれば、グループと個別に対話、個人の貢献度を把握、ミニレポートの評価（藤本先生）、さぼるのを減らすには先生の丁寧な巡回が必要（稲垣先生）、モデルを利用した作業日誌により学生個別の学習状況を教員が確認する（中西先生）、グループ作業の分担での貢献度や個人の努力を評価する仕組みを作る（朝日先生）などの意見が挙げられた。

田中先生の報告については、成績評価の基準と任意レポートの提出者数の質問（高橋先生）があり、成績評価は中間試験と期末試験の成績を平均し、二にレポートを10%加算して算出（110点満点）している、任意レポート提出者は全体の四分の一程度であるとの回答があった。また、学生の授業外学習時間が比較的良好であることから、どのような工夫をされているか質問があり（嶋先生）、任意レポートや確認問題への取組む学生もいることが背景にあるのではとのことである。宿題を多く課しているのに、アンケートでは「30分未満」との回答が最多というケースもあり、学生の「授業外学習時間」の認識にかなり幅があるのではないか、との意見があった。

## 2. 11月FD研修会

11月11日（水）に大学院教育に関するFD研修会を実施したが、その内容については、本報告書の「IV. 大学院に関するFD活動」に記載した。



### Ⅲ. F D講演会



### Ⅲ. FD講演会

#### 1. 9月FD講演会の記録

9月のFD講演会は、新型コロナウイルス感染症対策として実施された遠隔授業等を通じて課題とされたさまざまな問題を可視化し、今後の課題とすることための経験等の共有を図ることを目的として実施された。

日時：2020年9月9日（水）14:00～15:00

テーマ：大学教育におけるオンライン授業が提起したもの

講師：森脇由美子氏（文化学科）

田中亜紀子氏（法律経済学科）

鈴木英一郎氏（学生なんでも相談室）

「FD委員会 2020年9月9日 シンポジウム」

【司会（川口）】 お世話になっております。FD委員会の委員長の川口です。本日、司会を務めさせていただきます。9月のFD講演会はシンポジウム形式で行います。

今から3人のパネリストの先生方、森脇先生、田中亜紀子先生、それから、学生なんでも相談室から鈴木英一郎生にお越しいただきまして、テーマは「大学教育におけるオンライン授業が提起したもの」ということで、前期の急きょ導入されたオンライン授業と高等教育のあり方という形で、テクニカルな部分よりはどのような課題が今浮き彫りになっているかというような形で、パネリストの先生方各10分、合計約30分お話いただきまして、その後、質疑応答あるいはフロアの皆さまからの討論という形で約30分、25分ですかね、ぐらいを予定しております。終了後にはMoodleにアンケートがありますので、必ずこちらのアンケートのほうもご回答いただきますようお願いいたします。

なお、このシンポジウムに関してはFD報告書、年度末の報告書に記載するために録音・録画させていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは早速ですけれども、森脇先生からですね。森脇先生、田中先生、鈴木先生の順番でご発表、ご報告、お願いいたします。森脇先生、よろしくお願いいたします。ちょっと私のほう、ミュートにさせていただきます。

【森脇】 再共有させていただきます。共有できていますでしょうか。私の音声、聞こえておりますでしょうか。それでは始めさせていただきます



ます。10分ということですので、なるべく短くお話していきたいと思えます。

それでは、前期に私がオンライン授業した科目について簡単に示させていただきます。見ていただいたらおわかりかと思えますけれども、それほど大人数の授業というのは、

私の場合、今年度はなかったということで、教養教育が履修登録者もうちよつとあったんですけれども、50人弱の履修登録者で実際に出ていたのが、出席したのが44名ということで。あとは専門の授業で、講義科目がアメリカの歴史は15名が最終的には残ったか。履修登録者は実際にはもうちよつと最初は多かったですけれども、だいたい15名ということになります。あとは演習が2つと大学院の授業ということになります。

実施状況についてなんですけれども、授業自身に関しては田中先生のほうでより詳しくお話していただけると思えますので、私の場合には簡単に紹介して私の責をふさがせていただきたいというふうに考えております。

教養教育のほうの授業なんですけれども、これが一番大人数の授業ということになりました。初年度の学生が、1年生が非常に多いということで問題が生じるのではないかというふうに思いましたけれども、ほぼ対面授業と近い形で実施ができたんじゃないかというふうに思っております。ちなみに、先ほど挙げました授業は全部Zoomで実施いたしました。ですので、もともと講義科目ですので、これについては比較的従来とそんなには変わらないんじゃないかと勝手に思っております。

特徴としては、特徴でもないですけれども、9、10限であったためにみんな疲れているということもあって、途中でブレイクを入れたということで、画面を通して5分弱の休憩を入れたということが、意外と最後のアンケートの中で「目が疲れてたので助かりました」というような意見がありました。

あともう1つなんですけれども、ビデオの視聴というのを従来2回ぐらい、テーマと関係するもので入れていたんですけれども、ちょっとそれはちゃんと見られる形にならないんじゃないかということで、しませんでした。市販のビデオの一部分を見せるという形ですので、オンデマンド形式はなかなか難しいということで実施しないという形をとりました。ですから、その辺は従来とは違うということになります。

毎回Moodle上の課題を出した結果、実際内容としては、授業内容の理解度というのは、むしろ従来よりはよかったというのが期末のレポートでは見られたということにな

1. 前期に実施したオンライン授業科目	
<p>前期においては以下の授業のすべてをZoomによるオンライン授業の形式で実施した。 (資料の提供および課題の提出にMoodleを使用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西洋史B(教養教育)講義科目 (44名)</li> <li>・ アメリカの歴史E(専門教育)講義科目 (15名)</li> <li>・ アメリカ史演習C(専門教育)セミナー(精読演習)(7名)</li> <li>・ アメリカ史演習G(専門教育)セミナー(研究発表中心)(5名)</li> <li>・ アメリカ史料論特講(大学院)セミナー (3名)</li> </ul>	2

授業の実施状況(教養教育)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学の授業を初めて経験する1年生が大半を占めていたためスムーズな実施ができるか懸念していたが、不慣れな時期を経過した後は、ほぼ対面授業に近い形で実施できた。</li> <li>途中1回休憩(5分弱) 学生に好評</li> <li>・ 従来の対面授業であれば、2回のビデオの視聴を行うが、個々の学生のネット環境にばらつきがあるため実施を見送った。シラバスには「ビデオの視聴」が記入されていたため、前期終了時のアンケートではビデオを見たかったとの声も散見された。</li> <li>・ 毎回Moodleの「課題」の提出を求めた結果、授業内容の理解度はむしろ高まった。</li> </ul>	3

ります。

駆け足にお話しさせていただきます。専門のほうの授業なんですけれども、専門の講義は実は講義とセミナーの中間程度の授業を講義科目として実施しておりました。その場でグループに分かれて実施することに今年度はしたんですけれども、実際それはあまりうまく運営できたとは言えなかったということが言えます。基本的には講義科目というふうにして、学生の報告とかは今回はしなかったということで、従来とはちょっと実施形態を変えたということになります。

こちらのほうは従来よりやや不評な部分がありました。学生と議論とか

いうのが全然できなかったということで不評な点もありましたし、小グループにその場で分ける、即席で分ける小グループというのは、教員としてもなかなかどんなディスカッションをしてるのか把握できないという、そういう問題があったかと思います。

あと演習ですね。それは講読演習と研究報告の演習と2つ私は開いておりますけれども、そちら側はだいたいスムーズにいったのではないかと思うんですけれども、研究報告の場合には、学生それぞれの関心に従って報告内容というものが変わってくる、そういう授業なんですけれども、資料というのを、最初のころ図書館の利用というのが制限されていたためになかなか難しかったということなんです。これはZoomのオンライン授業とはまたちょっと違うテーマになるかと思しますので、ここではこの辺にしたいというふうに思います。

それから大学院の授業なんですけれども、それについてが次にお話することと関係する内容に実際にはなりませんので、こちらのほうでお話していきたいと思えます。なかなか時間がなく焦っておりますけれども、まずZoomについてなんですけれども、皆さんもご存じの方も多いかと思うんですけれども、

オンライン管理ソフトによる授業の問題点として、三重大学ではZoomというのが採用されるということが最初決まってしまうと、Zoomありきみたいなことだったかと思うんですけれども、Zoomというものに対しては、脆弱性の問題であるとかいろんな問題が指摘されています。Zoomは便利ですが、導入に当たって安全性とか、そういう問題というのはどの程度考えられてみたのか、ほかのソフトとの比較、ほかのシステムとの比較というのがどのぐらい考えられているのかなというものが、少し気になったということがありました。

というのは、当初からIDおよびパスワードの管理というのはいないと、たとえば荒

実施状況と課題（専門教育の講義科目）	
	<p>講義科目の「アメリカの歴史E」では、講義とセミナー（グループごとの報告とディスカッション）の中間的授業を行っていたが、オンライン授業ではグループ報告を取り止めて講義中心の授業に変え、時間的余裕があるときにグループ（その場でグループ分けを決定）・ディスカッションを行った。また毎週、Moodleに課題の提出を求め、それを出席点の代わりとした。最後の1回は全体を通した課題を設定して、グループ・ディスカッションをおこなった。</p> <p>演習（講読）は、英語文献をテキストに用いた少人数授業であり、通常の対面式の授業とそれほど変わらない授業を実施することができた。演習（研究報告）は、学生の図書館の利用が制限されていたため、教員の負担が大きかった（後述）。</p> <p>大学院の授業は英語文献を用いたセミナー形式で行った。少人数によるZoom授業は後述する問題を除くと、比較的スムーズに行うことができた。</p>
	4

2. オンライン会議ソフトによる授業の問題点	
	<p>三重大学で使用されているZoomに対しては、ソフトの脆弱性が何度か指摘されている。Zoomは便利なソフトであるが、導入にあたって安全性の問題は十分に検討されたのか。このような会議ソフトを今後も使用し続ける場合、他のソフトとも比較検討するべきかもしれない。</p> <p>「荒らし」の可能性 IDおよびパスワードの管理をすることによってある程度は防衛できる。 前期に実施した授業では特に問題は生じなかった。</p>
	5



らしと言われるようなとんでもない飛び入りが入ってきて、変な情報を流すというようなことが起こりうるので、それについては注意するようにと言われていたと思いますし、その辺の管理してやっていく中で、基本的には私もほかの先生も同様だと思いますけれども、問題なく実施できたと思うんですね。これは問題としてはないわけではないんですけども、管理の仕方次第で対応が可能な領域だろうというふうに思います。

もう1つの問題は、情報漏洩あるいは検閲の可能性についてということになります。Zoomに対する批判というのは、実はZoomに関しては安全上の理由から使用を回避する組織というものもあるということです。幾つもの問題、あるいは疑いというものが指摘されており、データの管理における問題

情報漏洩（あるいは検閲）の可能性について	
Zoomに対する批判	安全上の理由から使用を回避する組織もある。 いくつかの問題（あるいは疑い）が指摘されている。 データの管理における問題、漏洩の危険性 アカウントの一時停止（中国政府の要請による）
	使用者自身によるこれらの問題への対策は、不可能と見てよい。 中国以外の使用者のデータ・プールの場所を「設定」の変更で選択することはできる。

とか漏洩の危険性ということがありました。あまりありていに書くのも何かと思ったんですけども、たとえば天安門の何か会議をしてるときに一時ストップしてしまったとか、アカウントが停止される人が出たとかというようなことがあったというふうに伝聞では聞いております。

このようなことというのは、Zoom というものに対する安全性というものは、個人の使用ではこれに対応することは不可能というふうに言えると思いますね。大学がこれを使うものとして選んだ以上これを使うわけですけども、それに何らかの対応というのできるかといえ、なかなかできないということになると思います。

現在、Zoom の批判というのは、とくに米中対立の中で意図的な批判も含まれるとは思いますが、批判が出ていて、いろいろデータがどこに管理されているかというような疑念も持たれていたわけなんですけれども、中国以外の使用者に関しては、データプールの場所を設定で変更することは可能ということで、どこにプールされているかというのを確認することも可能なように設定変更、3月だったかいつだったかちょっと記憶がありませんけど、比較的近い過去に変更されておりますので、いちおう私も確認はしてみました。いちおうチェックをどこに付けるか外すかという選択をさせてもらいました。

これに関係することなんですけれども、そういうことで、留学生の問題をとくに意識したということがございました。というのは、前期の大学院の授業、これは留学生2名を含む授業だったんですけども、アメリカの歴史の話だったんですが、その中で民主制だとか自由だとかという問題について議論する機会があったわけなんですけれども、その際に、たとえば留学生に対して非

オンライン会議ソフトによる授業の課題（つづき）	
留学生への「配慮」は必要か	前期の大学院の授業（留学生2名を含む）の中で、政治体制や思想について論じる機会があった。留学生に対しては、明確な発言を促すことに躊躇せざるをえなかった。 思想に関わる内容は大学の授業では不可避（むしろ自由な議論が保証されていなければならない） 昨今の国際情勢では、政治思想に関わる発言は、特に留学生の場合、学生の不利益につながらないかと懸念してしまう。 しかし、そのような「配慮」自体、授業内容の「自己検閲」ともいえる。 （「学問の自由」が脅かされる可能性）



常に明確な発言を促すということに関して、ちょっと私の側が躊躇してしまったところがあったんですね。さらに突っ込んで聞くということがなかなかしにくかったということがあったんですね。対面の授業だったら、そこまで躊躇しなかったんじゃないかというふうに思うんですけども、オンラインの場合にはちょっと躊躇してしまったということがあったということになります。そこにかかる内容というのは、大学の授業においては不可避だと思いますし、むしろ自由な議論が保証されてなければならないというふうに考えております。それは皆さん共有のことだと思いますけれども、そういうふうに思っております。

昨今の国際情勢では、政治思想にかかわる発言というのは、とくに留学生の場合、留学生の不利益、本人の不利益にならないかということの懸念というのが発生しがちではないかというふうに感じたわけです。しかし、そのようなことに配慮するということが自体も、実は授業内容の自己検閲になってしまうかもしれないということで、大学の授業としてそれでよいのかということがとくに感じたということがありました。

この話題についてはこれで終了したいと思います。あともう2点ほどあるんですけど、あとは時間があまりありませんので、簡単に流したいと思います。

オンライン授業に関してなんですけれども、オンライン授業に関しては、学生に対していろんな配慮をするようにということは、たとえば相互性が保証されてなければいけないとか、いろんなことがあるかと思えます。そういう話題というのは尽きないと思うんですけども、教員自身のやる側自身の負担というものもやはり考え、とくに短期、前期だけとってたのが、後期も続くとなると考えざるを得ないのではないかというふうに思っております。

オンライン授業は物理的な負担、たとえば資料の用意とかそういうのに負担が掛かるとかいったもののみならず、

実は心理的負担も大きいのではないかと感じました。というのは、リモートでは資料が十分にそろえられないとかいろんなことがありますし、それから文献、資料を見つける方法も、それ自体を学生が学ぶべきなんですけれども、つい教員が代わりにやっちゃうというようなこととか。すみません。行き過ぎちゃいました。ということもあつたりしますが、先へ行ってしまうました。どうもすみません。

オンライン授業は、今申しましたような物理的な負担も大きいんですけども、まず最初に何がつかったかということ、私自身の個人的な見解ですけれども、真っ暗な画面

教員の心理的負担	
	<p>オンライン授業については、学生への対応や配慮が求められてきたが、その一方で、教員の負担は見逃されてはいないだろうか。</p> <p>オンライン授業は物理的な負担（仕事量の増大など）のみならず心理的な負担も大きい。</p> <p>例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>真っ暗な画面に向かった授業（学生の多くはビデオ・オフ。反応が振れない）</li> <li>教員同士のコミュニケーションの減少</li> <li>一人でパソコン相手に仕事し、職場の誰とも顔を合わさない。活動領域・活動量の低下。</li> <li>大学教員は「心理的負担」を受けていること自体に気が付きにくい？</li> <li>共働きの場合、在宅勤務の難しさ（音・空間・ネット環境など）もある。</li> </ul> <p style="text-align: right;">8</p>

学生との関係について	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顔が見えない中での授業（次第に慣れてはきたが、反応や空気がわからない）</li> <li>・利用可能な電子書籍がほとんどなく、リモートでは授業に必要な資料を十分に揃えられない。</li> <li>・文献や資料を見つける方法も学生が学ぶべき内容だが、教員が代わりにやることになる。</li> <li>・コピーやスキャンなどに手間がかかり、研究のための時間を確保することが難しい。</li> <li>・学生と教師、学生間の交流ができないため、学生にとって耳の痛いような指摘はしにくい。</li> <li>・コンパに代わる相互交流の場（言うは易く、行うは難し。）</li> </ul> <p style="text-align: right;">9</p>

に向かって授業しなければならぬというのはけっこう負担でした。学生の多くはビデオ・オフです。それから、多人数の授業ではオフにしないとうまく動かないということもありますので、とにかく反応がつかめないということがあります。

それから、教員同士のコミュニケーションというのが非常に減少したというのは感じました。1人でパソコンを相手に仕事して、職場で誰とも顔を合わさないということと、活動領域、活動量が著しく低下したというのが、自分自身のやった、実施した感想です。大学教員は、とは言いながらも人文、社会科学の先生というのは、皆さん、どちらかという個人で動かれているわけで、孤立とかということに関しては強いつもりでいる方が圧倒的に多いと思います。私自身もそのつもりでいたんですけども、それがどういうことかという、自分が心理的負担を受けているということ自体が気がつかないうちに蓄積してしまわないかということがあるというふうに感じました。

あと、共働きの場合には在宅勤務の難しさですね。というのが、音や空間、ネット環境など、そういった問題も生じてくる場合があります。ちなみに私もパートナーが実は同業なんですけど、別の大学に勤めておりますけれども、2人が同じところでオンライン授業を在宅勤務ではできませんので、私は大学で実施しておりました。

それでは最後、ちょっと飛ばしてしゃべってしまいましたけれども、何よりも顔が見えない中での授業をしなきゃいけない。先ほどもお話ししましたけれども、次第に慣れてはきましたし、それはそれでいいやというふうに思ってきましたけれども、反応や空気感というのが全然わからないということがあります。あと、先ほど言いましたように、リモート授業ではいろんな雑事というのが多くなり、学生とかかわろうとすればするほど雑事が増えるというようなことがありました。

あと、反応が見えないというのは、たとえばどういうことを生じるかということ、普通の講義科目であっても顔色を見ながらやってるんだなというのをあらためて認識したというのは、わかっていそうか、わかっていそうでないかとか、どのぐらい感じているのかとかということを見ながら指導を行っていたということで、とくに学生にとって耳の痛いようなことというのは、オンライン授業だとなかなか言いづらいというか、ちょっと傷つけそうな気がするということがあったりしますので、ちょっと踏み込みが弱くなるというのを感じたということがあります。

それから相互交流の場というのは、たとえばオンラインで設けたらいいじゃないかということなんですけれども、やはりオンラインでの場というのはなかなか難しいかなというふうに思いました。というのは、今回だとけっこうみんながしゃべるときもあるし、何人かずつ小グループで適当に話しているというようなときもあって、そして全体がコミュニケーションできるというところがあるかと思うんですけど、そういうことがなかなか難しいということで、後期もオンライン授業が続くわけですけども、皆さんどのようになさるつもりなのか、ぜひご意見を伺いたいというふうに思います。

だいたい、以上で私のほうからのお話は終了させていただきます。よろしくお願ひいたします。

【司会】 ありがとうございます。すみません。ちょっと押し気味ですけれども、そしたら森脇先生のご報告は以上です。次、田中先生、よろしく願いいたします。森脇先生、資料を。今日の会議の。

【森脇】 はい、すみません。

【田中】 それでは、田中のほうから報告いたします。原稿を作ったら25分になっておりましたので、頑張って10分に省略したいというふうを考えております。では、いきます。今回のオンライン授業につきましては、いわゆる放送大学とかサテライト講座ではなく、非常に特殊事情であったということをまず確認したいと思います。4点ございます。

まず感染拡大予防の要請下の緊急対応でして、そもそも教室でやるんだという授業を代替して、遠隔授業をいきなりやることになったということがあります。

2点目なのですが、ノートパソコンは必携化されていたんですけれども、学生側のオンライン授業の受講環境がわからなかったというところと、サーバを落としてはいけないということで、データダイエットの要請もあつたりしました。既に森脇先生のほうで指摘がございましたけれども、学生の諸活動が制限されており、図書館もいつときは利用が困難な状態でありました。授業開始が少し遅れましたので、回数が不足しました。しかしながら、単位認定の関係では、内容は従来どおりという無茶振りがあつたということもあつたりします。なので、もう少し混乱があるかなと思っていたんですが、先生方非常に頑張ったなというふうに思っております。

私の授業は、今ご覧になってると思うんですけれども、基本的に人数が多い科目というのがございまして、オンデマンドでやっておりました。授業は講義関係がオンデマンド、ゼミだけがZoomでやっておりました。Zoomでゼミをするときの感覚の取りづらさにつきましては、既に森脇先生から指摘があつたと思いますが、私もゼミが一番辛らつな物の言い方をしますので、それでダメージを受けてはいけないということで、割合、

## 人文学部9月FDシンポジウム

2020年度前期オンライン授業の振り返りと  
今後のオンライン授業の課題に関する話題提供  
ー主にオンデマンド式授業実施の立場からー

法律経済学科 田中亜紀子

### 報告概要

1. オンライン授業実施例
2. 受講生の感想に見るオンライン授業のメリット・デメリット
3. 授業担当者としてのオンライン授業のメリット・デメリットと課題

### 1. オンライン授業実施例

#### 2020年度前期オンライン授業における特殊事情

- ①感染拡大予防要請下の緊急対応  
+ 面接(対面)授業が困難な場合の代替措置としての遠隔授業
- ②通信状況を含む学生側のオンライン授業受講環境が不明  
ー「データダイエット」の要請
- ③感染防止のため学生の諸活動は制限、図書館をはじめとする施設利用が困難
- ④授業開始が遅れたことで回数が不足  
ただし、単位認定の関係で内容としては例年通りを目指す必要があつた

褒めて伸ばす的なことを柄にもなくやっておりましたので、後期はゼミは対面授業を一部予定しております。

上のほうです。オンデマンドを選んだ理由なんですけれども、まず受講生が多いということで、トラブルった場合に対応しづらいということがあると。あるいは授業が説明型であったり、そもそも教室の質問のときも「聞き逃しました」とか、「板書見えません」という質問が多いので、思う存分見てくださいということで、オンデマンドを選んだというふうなことがあったりします。

実際なんですけれども、いざ授業の準備をしたら、通信状況もさることながら学生がプリンターを持っていないと。なので、コンビニに印刷しに行くというふうなことが明らかになりましたので、授業におきましてはプリントアウトしなくても大丈夫なように作り変えたんですけれども、本学の学生はまじめな方が多いので、

プリントアウトしたいんだということがあったので、時間割の前日の午後の段階で授業一式全部、Moodle に上げるということをしました。夜にコンビニに行かせることがなかったので、早めにやっただと。

また、授業の時間割の時間帯もいちおうパソコンの前でスタンバイしておりましたので、物理的に授業にかかわる時間というのは3倍ぐらい増えたかなというふうな体感があります。成績につきましては、レポートと、あるいはレポートと試験の真んなかみみたいなことをやっておりました。

レポートにつきましては、法学のAなんですけれども、1年生も対象科目になっておりますので、そもそものレポートの書き方がわかってないということもありましたので、早いうちにこのレポートはこういうことを要求しますよということと、既にサンプルも示して、だいたいこういうふうなレポートでこういう点を付けてますということは明らかにしておりました。

## 1. オンライン授業実施例

### ○オンデマンド

- ・法学A（教養教育科目 主に1年生対象 週1回） 179名
- ・刑法総論（専門選択科目 主に2年生対象 週2回） 97名

### 選択理由

- ・受講者が多く、Zoomでトラブルが発生した場合の対応で授業に支障が生じるおそれ
- ・議論型ではなく説明型 ・聞き逃した場合に受講者が聞き直せる
- ・学生の通信環境不明 ・授業形態の多様性（すべてがZoomでなくても良いのでは）

### ○Zoomによる同時型

- ・刑法演習（専門演習科目 3年生対象 週1回） 10名

## 1. オンライン授業実施例

### ○オンデマンド型の授業進行

- ・前日午後（夕方前）に授業資料一式をMoodleへ
  - ① 解説付きのppt（動画 Stream配信）
  - ② 上記pptのpdf版
  - ③（従来の授業で配布している）授業プリント
  - ④ 毎回の授業内容に関する復習問題（48時間以内に回答する様に設定）
- ・②か③をプリントアウトして、授業時間（時間割時間帯）に視聴
- ・④の復習問題をアンケートで回答
- ・次回授業資料掲載時に④の回答に対するコメント、解説をまとめた「ページ」掲示
- ・質問はコース内の「質問用掲示板」かメールで受け付ける

## 1. オンライン授業実施例

### ○オンデマンド型の課題や成績評価

- ・「法学A」 5月末、6月末、8/7締め切りのレポート3回+各回のコメント
  - ・5月末レポートは「お試し」で学生のレポートレベル確認
  - コメントや過去のレポート例を通じてレポートの書き方などを説明
  - ・レポート提出可能な期間は3週間程度であったため、提出遅れはなし
- ・「刑法総論」6月上旬、8月上旬 レポートと試験の中間形態を実施+各回のコメント
  - ・基本問題はあらかじめ授業中に候補を提示、応用の事例問題は当日発表
  - ・受講者を学籍番号で3組に分け、当日発表した問題を解かせて提出（3時間）
  - ・「下書き」のまま、時間内に提出できなかった者が数名
    - ↑ 当日開始時刻以降にMoodleにアクセスしているかどうかを確認して判断



刑法総論のほうは、たしか事前に受け付けた質問におきまして、期限内に提出できなかった、通信状況が悪いということで後出しする学生に対してはどうしたらいいんだろうかというふうな質問があったと思うんですが、実際、私も中間、期末でやったときに下書きのまま放ったらかしになってるというものの、本人は出した気なんです、下書きなんですってというものと、時間内に通信状況がいきなり悪化するみたいでして、出せなかったという方が1名ぐらい出ました。後者につきましては、基本的には Moodle にアクセスしているということがありますので、受け取るよということをやっております。多分、ごまかす気になればいくらでもごまかせるんですが、1名ぐらいであればいいかなということで、私の場合は見逃したということがあります。

実際に右側が法学Aの授業資料のサンプルで、左側が刑法総論なんです、まず右側なんですけれども、レポート3回やっておりまして、早めにこういうレポートが必要なんですよということを全部情報は提供いたしました。また、授業で取り上げなかったけれども授業に関係するインターネット資料につきましては、すべてそこにリンクを貼りまして、それを楽しみにしてる学生もおりましたので、割合、法学のAについてはオンデマンド授業で楽しく教員としてはやっておりまして。

刑法総論、左側なんです、中間って書いてるところなんです、ごまかし方はいくらでも学生考えつくと思うんですが、取りあえず当日にグループ分けをしまして、当日に問題出してどうぞということをやっております、だいたいはその不正行為はしなかったかなというふうに考えております。

急ぎます。これは発言まとめメーカーを使いたかただけなんですけれども、オンデマンド授業を踏まえたオンライン授業のメリット、デメリットを学生に聞きました。だいたい、対になっておりまして、「通学時間がなくなったから自由だ」というところと「自由過ぎてモチベーションが下がる」というものと、「定期代が浮いた」というのと「光熱費掛かる」とか「プリントアウト代かかる」という感じで、どれもプラスマイナスゼロという感じだなというふうに思っております。

まじめにしたのがこちらでして、オンデマンドと同時型の赤字がデメリットなんですけれども、メリット、デメリットというものも学生的にはこういうふうに考えておりま

2. 受講生の感想に見る  
オンライン授業のメリット・デメリット

オンデマンド	同時型
体調や都合に合わせて受講可能	その場で質疑応答などができて対面に近い形で授業を受けることができる
繰り返し視聴することが可能	1回きりなので集中する
質問しづらい、視聴や回答を後回しにしてしまってしまう	カメラオンの授業が落ち着かない カメラオフだと集中力が続かない
一旦停止して考えたりメモをとりながら受講することができる	集中しなければならないのでZoomの授業ばかりだと消耗する
通信状況を心配する必要がない	通信状況によって発言が聞き取れなかったり、入室することができなかったりする。 教員側の技術や通信面での事情で十分な授業を受けることができなかった。

2. 受講生の感想に見る  
オンライン授業のメリット・デメリット

- ①緊急対応にそれなりに順応
- ②課題へのコメントを丁寧に行うことで授業全体の満足度は確保できる  
(距離があるデメリットを学生への働きかけは例年以上に丁寧に行うことで解消)  
←教員の負担は増える
- ③「課題が多すぎる」という不満が多い：総合的な課題の状況確認が必要
- ④学生側の通信状況やプリンターの不所持などの学習環境への配慮は必要
- ⑤不満の対象が「授業そのもの」「課題」「それ以外の学生生活」「行動の制限」のいずれかが不明。あるいは複数の不満を持つ結果として「オンライン授業」への不満。  
←例年とは異なる環境への戸惑いやストレス、家族とのストレスあるいは孤独感

すと。学生によれば、こういったデメリット、メリットがあるので、学生の側で Zoom を使った同時型とオンデマンドを組み合わせるといった形が一番いいかなというふうなことを言い出している学生もいたりします。ずっと Zoom は疲れちゃうので、中にオンデマンド授業が1個あると、ちょっとリフレッシュできるというふうな言い方もしております。

総括いたしますと、受講生につきましては、こちらもばたばた騒ぎがあったんですが、学生さんも頑張ってくれてくれたというふうな実感はございます。距離が空く分、フィードバックは例年以上に丁寧にやったんですが、それを丁寧にすれば、授業全体の満足度はそれなりに確保はできます。ただ、課題が多過ぎるといった不満は、これは本学だけじゃないんですが、圧倒的に多いです。

4番目。通信状況が悪くなって Zoom で落ちちゃったとか、プリンターがなくてプリントアウトに困ったというふうなことを言っておりますので、その辺りは今後も配慮が必要かもしれません。

5番が一番悩ましいところで、われわれの授業が駄目なのか、あるいは大学に来れないから不満がたまってしまったのかわからないという、オンライン授業そのものの不満なのか、大学に来れないという不満なのかわからないというふうな不満がどんどん学生には蓄積されていって、それが最終的にオンライン授業の不満にぶつかってくるんじゃないかというふうな懸念があったりします。孤独感というものをどうやって解消するのかというのが課題かもしれません。

こちらが、いわゆる8月以降にあらゆる大学がアンケート結果を出してきております。関西大学のものを持ってまいりました。わかりやすかったので。上がメリット、下がデメリットなんですけれども、上側がメリットのほうで「移動しなくていい」とか「自分のペースで学習できる」と。下側が圧倒的に「課題が多い」と。次、「先生の指示がわからない」とか「集中力が続かない」というふうな話が出てきてまして、これは本当にオンライン授業一般の問題かなというふうに考えております。なので、「自分のペースで学習できる」というメリットを少し強化し、なおかつ「課題が多い」という皆さんの不満を減らせば、オンライン授業のクオリティーは満足度が上がるかなというふうに思っております。こちらが、最後のほうに来ましたけれども、急いでます。授業担当者として課題はこういうところかなというものを6つ挙げます。

1つ目なんです、森脇先生も指摘されておりますように、理解度というか反応はいいんですよ。反応がいいというのが、恐らくはギャラリーに巻き込まれることなく集中できた、孤立感が逆に勉強に向かったのかなと思うんですけども、しかしながら、これが長期的に維持できるのかというところがあったりします。教員側も半年間だからかなり

### 3. 授業担当者としての オンライン授業のメリット・デメリットと課題

- ①学生の出席率、課題などを通じた理解度は、例年以上（良好）  
 ・良くも悪くも周囲に影響されることが少なかったため集中できた  
 ・パソコンで作成、回答期間に幅を持たせたことで各回のコメントが充実  
 →課題：「長期戦を視野にいたれた学生のモチベーション維持」
- ②オンライン向けに授業を再構成する必要があった  
 ・例年よりも回数が減ったため、わかりやすさを重視して細かい点を削除  
 →課題：「オンライン授業で授業の『質』は低下したのか？」  
 課題：「オンライン授業ならではの授業を提供する必要はどこまであるのか？」  
 代替措置としてのレベル維持か、通常以上のレベルを目指さなければならないのか



頑張ったと思うんですが、学生側も半年間我慢すればと思ってきたので、それが当てが外れてしまって、1年間学校にオンライン授業になってしまうということのダメージというか、落胆というものを、われわれどうフォローすればいいんだろうかというところがあったりします。

2番目。外部からオンライン授業で質が落ちたというふうな、よくわからない批判を受けているんですけども、たしかにオンライン授業にすることによって多少は再構成しております。基本的に私の理想は、授業を受けることで学生がわからなくなるというふうなことをしたいんですけども、それをするとストレスがたまるかなと思いましたので、けっこうわかりやすさを重視してしまいましたが、果たしてそれでいいんだろうかというところが悩ましいところがあります。

また、先駆的な事例として、海外の研究者をゲストスピーカーに呼ぶとか、そういう頑張り過ぎたオンライン授業もあつたりしますと。われわれマニア集団ですのでどんどん頑張っちゃうんですけども、そこまでしてしまっているんだろうかというところも少し気になる場所であつたりします。最低ラインと上のラインというものがあったほうがいいのかというふうなことを考えたりします。

3番目。これは教員側なんですけれども、負担に関しては森脇先生も指摘していただきましたが、時間的、空間的、経済的には負担が増えたということがあります。これをずっと続けたら、われわれ倒れるんじゃないかというふうな不安があります。

4番目。専任教員同士はメールとかで気軽なやり取りもできますので、情報共有ができると思うんですが、われわれ非常勤講師に対しましてどれだけサポートをしてきたのだろうかとか、今後、非常勤の先生はオンライン授業を続けてくれるのだろうかという不安があつたりしますので、非常勤の先生方に対するオンライン授業サポートというのは専任の教員以上、同等ぐらいにやっていたらいいんじゃないかなというふうに思っております。どういうトラブルが発生したかもわれわれ知らないというところがあつたりします。

急ぎます。5番目、6番目、教員関係です。5番目が圧倒的です。課題が多過ぎるということで、やり方がわからないのか、フィードバックが不足してるのかわからないんですが、そこは少し悪口になりますが、体育の科目の実技を置きましたけれども、これは一番保護者が不満

### 3. 授業担当者としての オンライン授業のメリット・デメリットと課題

- ③ オンライン授業により授業準備にかかる時間は格段に増加した
- ・もともとMoodleは資料配布や課題提出などで利用してきたが、毎回のコメントや課題などのフィードバックに時間がとられたため、土日を含む毎日が授業準備状態
  - ・自宅パソコンの買い替えやマイクなどの備品を個人で準備
- 課題：「教員の労働環境を悪化させない工夫」
- ④ オンライン授業のガイドライン、技術的な情報共有
- ・法律経済学科の専任教員間では情報共有が一定程度行われていた
- 課題：「非常勤講師に対するオンライン授業サポート」  
オンライン授業のサポート、経済的援助、授業でトラブルが発生した場合の窓口など（窓口教員ではなく、制度的な窓口）

### 3. 授業担当者としての オンライン授業のメリット・デメリットと課題

- ⑤ 課題が多すぎるあるいは処理が不十分
- ・良かれとおもって課題を出したことが学生を苦しめている
  - ・教養の体育科目（実技）など、普段課題を出していないことに由来する、課題の量やフィードバックの不十分さをどこか把握する必要がある
- 課題：「オンライン授業で学生を消耗させない課題の適正化、課題調整」
- ⑥ 教員が気付かないままに脱落する学生、学生のオンライン授業疲れや孤立問題
- ・オンラインでサークル活動に参加している人としていない学生、学生間格差
  - ・前期中で既に力尽きてしまっている学生
- 課題：「オンライン授業期間中の授業外の学生サポートの必要性」  
↑ 教科担当者では十分サポートできない



を持ちやすい科目になってまして、部屋でドスドスンするのですごく保護者が不憫だと。その結果、保護者が大学の敵に回ってしまうということもありますので、どうにかならないかなというところと、やっぱりレポートはフィードバックが必要かなと。当然なんです、それが不十分な科目があったりしたらしいので、やっぱり課題を少し軽めに適正にということと、きちんとこれやってほしいんですよということを言わなければ、学生が戸惑うんだらうなというふうなことを考えております。

6番が多分、鈴木先生につながると思うんですけども、やっぱり気になるのが、気づかないうちにドロップアウトする学生の存在というものがあつたりします。当然、教室の授業でもドロップアウトはいるんですけども、それが今後一気に増えないかなというところがあつたりしまして、オンライン授業と直接関係ないんですけども、間接的に関係するということで、オンライン授業期間中の授業外の学生サポートというものをやっていかないと、多分、後期、脱落していく学生が出るんじゃないかなということをお心配しております。

まず私からは、時間も迫ってまいりましたので、以上となります。

【司会】 田中先生、ありがとうございました。そしたら、ちょっと時間急ぎますので、次、学生なんでも相談室の鈴木先生からご報告お願いいたします。

【鈴木】 学生なんでも相談室の鈴木です。共有できてますでしょうか。大丈夫ですか。学生なんでも相談室の専任カウンセラーの鈴木です。よろしくお願いします。私のほうからはオンライン授業下での学生相談ということで、この間に起こったもろもろの状況について、なんでも相談室という場所から見えたこととか感じたことというのを、あまり時間もありませんので、手短にご報告をしていきたいと思っています。

まず、相談室での学生の対応の変遷というか、この間の対応の状況ということですが、4月の段階ではひとまず新規相談の受付を原則中止にしました。それから継続相談の学生もメール、電話ないしは延期という形にしました。Zoomを使うということは早くから想定はしていたんですが、ちょうど盛んにセキュリティーについて話題にされてたころでもありましたし、われわれも全く予備知識がない中で学生さんを危険にさらすのはどうなのかというところもスタッフ間で話し合った中であったので、ちょっと様子を見ようと。授業で使われるということもあるの

2020年9月9日  
人文学部FDシンポジウム  
『大学教育におけるオンライン授業が提起したもの』

## オンライン授業下での学生相談

学生総合支援センター 学生なんでも相談室  
鈴木英一郎

### 今年度の相談室の状況

- 4月
  - \* 継続対応が必要な新規相談の受付を原則中止。
  - \* 相談継続中の学生は「メール」「電話」「延期」で対応（一部例外を除く）。
  - \* 対面による窓口業務の中止（事務的な質問や軽微な相談は、電話やメールで）。
- 5月
  - \* zoomによるオンライン相談を導入（申し込みフローをHPで公表）。
  - \* 継続対応が必要な新規相談の受付を再開。
  - \* HPに学生向け、保護者向けの相談室からのメッセージをそれぞれ掲載。
- 8月
  - \* 「直接対面による相談」の復帰を企てるも、県内の感染者数増を受け撤回。
  - \* 引き続き「電話」「メール」「オンライン（zoom）」を主な手段として展開中。



でちょっと様子を見ようということで、しばらく4月の間は取りあえずメール、電話ないしは延期という形の対応にしました。

5月に入りまして、われわれ自身も授業とか会議とかでZoomを使うようになりまして、学生も慣れてきたというところもあったので、セキュリティーについての懸念がないわけでもないですし、先ほど森脇先生のほうから荒らしの話がありましたけど、実は相談室のほうにも某学部でそういう事例が1つあって、よくよく聞くと同じ所属の学生がいたずらで別の授業に入ってきて荒らしをしたという。それは防ぎようがないんじゃないかというような、そういう事例が1つ、相談室でも聞いてるんですが。

いずれにしても、セキュリティーについての懸念はないわけでもないんですが、ほかのツールなら大丈夫というようなものでも、この時点ではわからないというか、いえないかなというのと、学生がZoomを使っているということによって、利便性ということではそれが一番優先されるだろうということ、取りあえずやるしかなかろうということ、5月にZoomによるオンラインの相談を始めました。

それに伴って、申し込みフローを整備したりとか、新規の受付というのも再開していきましました。そのままずっと続けて、8月とありますが、7月の終わりごろから8月の初めにかけてぐらいですけど、もうそろそろ直接対面による相談にしてもいいんじゃないかと。それを中心にした相談活動にもどうしてもいいんじゃないかというふうに考えて、そのような形の準備も目論んでいたんですが、ちょうどまたそのころ、下火になっていた感染者数というのが少し上がってきたというような時期でもあって、ちょっとこちらは断念するという形になりました。引き続き、現状でも電話相談、メール相談、Zoomによるオンライン相談というものを行っています。

一部例外を除いて、発達障害の方でなかなかZoom上でうまくコミュニケーションできない方とかもおられるので、感染には対策を施しながら一部対面の相談も行ってますが、それ以外ほとんどは電話、メール、オンラインという形で進めていきました。

これが、このコロナ禍が相談室の業務にどのような影響を与えているのかということのを数字で見てみたものですが、4月、5月、6月、7月、横に並んで、それぞれ新規の受付件数と延べの相談件数ということで出てます。一番上の段が「コロナ禍が影響したと考えられる相談対応件数」です。相談している内容から判断してます。それから2段目のBがAのうち継続的な相談対応、カウンセリングを行った件数なので実数となっております、という数字です。Cが全体的な利用総件数ですね。赤字で書いてあるのが今年度の数字で、黒字で書いてあるのが昨年度の数字ということになります。

これを見ると、コロナ関連の相談、問い合わせが多いのか少ないのかというのは、比較対象がないのでよくわからないところもあるんですけど、少なくともどの月も

**今年度の相談室の状況**

・相談件数にみる「コロナ禍」の影響

	4月		5月		6月		7月	
	新規受付数	延数	新規受付数	延数	新規受付数	延数	新規受付数	延数
A 「コロナ禍」が影響したと考えられる相談対応件数	6	7	17	26	12	22	11	19
B Aの内、継続的な相談対応（カウンセリング等）を行った件数（内数）	0	0	2	10	5	8	7	8
C 相談室利用総件数 今年度（赤） 昨年度（黒）	<b>36</b> (211)	<b>83</b> (252)	<b>43</b> (40)	<b>101</b> (98)	<b>27</b> (20)	<b>140</b> (96)	<b>27</b> (16)	<b>139</b> (103)
「コロナ禍」が影響したと考えられる相談の割合（A/C）		8%		26%		16%		14%

一定数あったというのが事実かなと思います。ただ、面白いものと言うのも正しいかわからないですが、コロナウイルスへの感染それ自体に関する不安とか恐怖を訴えるような相談はほとんどありませんでした。それはそれで面白いかなという気もしていません。

それから新規の受付に関しては、その後継続的な相談につながっていったという実数が徐々に増えていってるなというのが見えますし、それから、直接の来談はずっとできない状況が続いているにもかかわらず、実は5月以降の利用件数は昨年度の同時期と比べていずれも若干増えているという状況ができてきているというのが、ちょっと数字をまとめてみる中でわかってきました。

ほかの大学の学生相談の担当者とも少し最近話をする機会があったんですが、どうも4月辺りの学生のメンタルヘルスに関する指標を見ると、どこの大学も実はそんなに悪くないんですね。例年よりもむしろいいという大学もけっこうあって、何でだろうといういろいろ

### オンラインによる学生相談の特徴

#### メリット

- \* 大学に出て来られない学生（不登校、障害など）でも相談が可能。
- \* 背景（自室の様子）から学生のリアルな生活状況を推測できる。
- \* 予定の調整がしやすい。
- \* 互いにウイルスへの感染を防ぐことができる。
- \* 「整理された情報」のやり取りだけに限ってみれば問題はない。

#### デメリット

- \* 通信環境の不具合に影響を受ける。
- \* 家族など親しい人が近くにいることで話せないことが出てくる。  
（相談のための時間帯や場所を学生自身で確保しなければならない）
- \* 「整理されない情報」の伝達が困難。

ディスカッションしてたんですけど、1つは通常時に元気だった学生は4月の段階ではまだ何とかやれるだろうと見込んでいたでしょうし、通常時に支障があったり不適応があった学生については、大学に出て行かなくてもよくなったとか、人に会わなくてもよくなったというのが、逆にかえって従前からあった不安とかストレスを低減させてたんじゃないか、というようなことをディスカッションの中でみんなと話して、なるほどなという感じでした。

ただ5月以降は、先ほども申し上げたとおり、ずっと昨年度よりも増えてるというような数字であることはここ最近まとめている中でわかってきて、むしろ時間が経つにつれて、その差が少し大きくなっているような感じも受けています。表にはありませんけど、8月のデータも最近まとめたんですが、例年は夏休みに当たるので、全然、相談件数としてはだんと落ちる月なんですけど、ほとんど変わってないというような数字が出ています。なので、コロナ禍によるメンタルヘルスへの影響というやつは、むしろ最近になって少し遅れて出てきている可能性があるのかな、というようなことを感じている次第です。

これもスタッフの中で、オンラインを使った相談の良し悪しみたいなところをディスカッションした中で出てきた意見なんですけど、メリットとしては大学に出てこられない学生、たとえば不登校気味の学生とか、自宅が遠方にある学生とか、障害があって移動制限があるような学生とか、そういう学生でも通信環境さえあれば、どこでも相談ができるというようなことが1つあるかと。

それから背景の様子ですね。自室の様子が見えるので、学生のリアルな生活状況がちょっと推測できるというのがあります。本人の背景に写り込んでいるものが、多くの、

とくに下宿している学生さんはほとんどワンルームの下宿先だったりするので、ワンルームでいろんなものをこなしているわけで、かなりいろんな物が写り込んでたりするわけですね。たとえば全然部屋が片付けてられない状況だったりとか、そんなのが見えるので、今リアルな生活どんな感じなんだろうというのがちょっと推測する情報が1つできるというのがあるかと思います。

それから、「予定の調整がしやすい」とかというのは、移動の時間がないからですね。感染を防ぐことがもちろんできるというのがありますが、あとよく言われるのが「整理された情報のやり取りだけに限ってみれば問題ない」とありますが、ここで言う整理された情報というのは、いわゆる言葉ですね。テキスト情報としての言葉、言葉にすることが可能な情報みたいなことを媒介する、そういうものを使ったコミュニケーションということ自体は問題ないかなと。そういうものをやり取りすること自体は問題ないかなと。

むしろ非常に効率的な、それをするには効率的なツールなのかなという部分も一方であったりするんですが。先に言うと、デメリットのほうの一番下に「整理されてない情報の伝達が困難」とあるので、言葉にならないような情報ですね。言葉にできないような情報、口にするのでできない思いとか、情報というものの未満のやり取りみたいなものは、かなりオンラインの中でろ過されてしまうというような印象がありました。

たとえば、学生さんが「大丈夫です」と言ってくれたとして、日常の対面の状況なら「大丈夫です」という言葉の背景にある、たとえば違和感みたいなものをもっと感じやすいんですけど、オンラインの中だとなかなかそれがわからない。もちろん感じられるときは突っ込みは入れられるんですけど、「本当に大丈夫？」みたいなことは言えるんですけど、日常の通常の対面のときと比べるとかなりそれはわかりづらいということがあったので、こちらの慣れとか学生さんの慣れとかいう問題もひょっとしたらあるのかもしれないんですが、そういう意味でのやり取りというのが、ちょっときれいになり過ぎちゃうとか、そういう感覚をすごく受けていました。

それから、ごめんなさい。先に1つデメリット言っちゃいましたけど、ほかにも「通信環境の不具合にかなり影響を受ける」と。相談中にいきなりずどんと落ちちゃうというようなことが、たしかにときどきあったりとかもしましたので、それは困ったなど。もう1つ大きいなと思ったのは、「家族など親しい人が近くにいることで話せないことが出てくる」ということですね。「今、家族が隣の部屋にいるので今日はちょっと話の内容を控えときます」みたいな、そんな学生も時々いたりとかして、多くの事例で何らかの形で家族って話題になってて、もちろん自分自身の悩みの対象そのものになっていることもありますし、家族の影響って、実際実家で過ごしているような学生さんほどウエートが大きいと思うんですけど、逆に言えば、実家で過ごしている学生さんほど1人で守られた空間をつくるのってかなり難しいということがあったりもするわけですね。なので、本来であればわれわれ自身が相談室という場所を構えて、誰からも守られる時間と空間というのを担保してあげることができるんですけど、オンラインという状況だと学生自身でそれをつくらなきゃいけない。そういう環境を自分でつくらなきゃいけな

いというところが、ちょっと申し訳ないというか、かわいそうだなというか、そんな気持ちでいたりしました。

次にいただいたご質問で、実は「大学で顔を合わせなくなった精神的に不安定な指導学生とのかわり方」。とくに「精神的に不安定な学生との卒論指導での距離の

作り方」というようなご質問をいただいたので、それへのお答えも兼ねながら、現時点で私自身が考えているコロナ禍における学生対応の留意点というところをまとめたいと思いますけど。

そもそも、事前の関係性が良好であったか否かという影響が大きいかなと思います。基本的に人間関係の構築の仕方自体が、今後はひょっとしたらニュースタンドアができるのかもしれませんが、現時点ではお互いにそういうものがあるわけではないので、それ自体が本質が変わっているというわけではないかなと思います。

なので、これまでの関係性の持ち方の中でそれぞれ先生方、注意していただいていた点を今後も継続していただくというのが基本路線だし、重要だと思うんですが、これまで関係性がよかったような学生さんについては、そんなに問題なくできたんじゃないかなと思うんですが、関係性が悪かった学生さんがオンラインだからよくなったということは、多分あまりないかなと。オンライン様様ですみたいなことはあまりないかなというふうに思うんですね。もともとの関係性がどうだったかというところがあるので、あまりオンラインで無理しないということも実はだいじなところかなという気がします。もちろん、やらなきゃいけないことはそれぞれあるとは思うんですけども。

オンライン授業下で調子を崩してる学生、通常であれば問題なかったであろう学生というのは、「つながりの喪失に起因している可能性」というふうに書いてますけど、オンラインの授業下でなければ調子を崩してなかったであろう学生さんであれば、つまり、結局つながりがなくなってしまったということがその違いだと思うので、ここがかなり大きなポイントだろうと考えます。

ここでいうつながりというのは、先生との間のつながりでもあるし、友だち同士の間のつながりでもあるしという、そういう人とのつながりという部分が大きいと思うんですが、それだけじゃなくて二次的にはいろんな情報とのつながり、自分自身と大学から出てくるいろんな情報とのつながりとか、あるいは自分自身の中にあるポジティブな感情とのつながりとか、そういうものも影響してくるかなと。そういうつながりみたいなことがなくなっているということが大きいかなと。

なので、いかにつながりという物語を担保してやれるか。積極的に誰かがつながっていく努力をしなければならぬと思いますけど、これもつまり物理的なつながりの話じゃなくて、もちろんそれは物理的につながっているということは大前提ではあると思う

### コロナ禍における学生対応の留意点

- \* そもそも、事前の関係性が良好であったか否かの影響も大きい。(オンラインのおかげで好転した、という方向は考えづらい)
- \* オンライン授業下で調子を崩している学生(通常であれば問題はなかったであろう学生)の抱える困難は「**繋がりの喪失**」に起因している可能性。
- \* いかにか「**繋がり**」(という物語)を担保してやれるか。**積極的に誰かが繋がっていく努力**をしなければならない。
- \* 「**心地よい距離感**」はオンラインであっても人それぞれにある。ご自身のそれ、指導学生のそれ。それぞれの特徴に合わせての微調整が求められる。



んですが、実際的にはもっと、私は何々とつながっているんだという感覚をいかにその対象となってる学生が感じられるような、そういう状態をこちらが提供してやれるかという、実は物語の話なんだというふうに思います。だから、「何かあったらメールで問い合わせてください」というような一方的なメッセージをメールで伝えるというだけでは、物理的なつながりの手段としてはそこにあるとしても、つながっているという物語はそこにはないというふうに思うんですね。

よく小中高校生の引きこもりとか不登校の対応のときに出てくる言葉で、「節度ある押し付けがましさ」ということをわれわれよくいうんですが、詳細はちょっと省きますけど、メールでの連絡ではなくて、電話とかオンラインをうまく使いながら、生きてるというか、生きてる人とのやり取りであるということが感じられるようなやりとりをだいたいすることとか、「困ったらいつでも連絡ください」という言い方ではなくて、「また連絡をするから嫌でなければ少し話をしようね」と。むしろ積極的にこっちから行って、最終的にそれに乗っかるかどうかはお任せする、というような感じのつながり方というのを意識していくほうが、ちゃんとした物語がつかれるんじゃないかなという気がします。

心地よい距離感というのは、オンラインであっても人それぞれであるので、ご自身の、先生方のそれもあるし、指導学生のそれもあるので、その中で微調整が求められるということはあるかなと。ちょっと詳細はまた。時間のかぎり飛ばしていきます。

ごめんなさい。これも本当はもう少し説明したかったんですが、まさにお2人の先生方が言われたみたいに、対応するわれわれの側にも考えなきゃいけない疲れといいますか、われわれ自身もコロナという災害に対する被災者であるという視点はだいじかなと思うんですね。だから、われわれ自身もちゃんとケアされる、自分のケアに意識するという感覚が重要かなということで、1つがご自身のつながりを維持、確保するというので、1つはそれこそ仲間とかとのつながり。こんな状況の中でも、オンラインではあっても、やり取りしないよりはすることによっていろいろ癒される部分があるだろうということと、それからご自身の身体、ご自身の感情とのつながりということもご自身で管理していただいて、今ご自身の心や身体がどんな状態にあるのかということをご自身でチェックしていただく。その中で、癒

### 支援者のケア

- ご自身の「つながり」を維持・確保する。
- 誰かとつながること、自分の心や体とつながること

iPhone用アプリ「きもちのどびら」

### 支援者のケア

- ご自身にとって適切な「活動量」を維持・確保する。
- 「活動量が減る⇒元気がなくなる⇒益々活動量が減る」の悪循環を克服する。

iPhone用アプリ「いっぶく堂」

すときには癒すということも必要だろうということです。

これがそれを簡単に管理できるというか、そういう自分の心、身体に気づくということの練習が簡単にできるアプリということで、東大の臨床心理学のゼミのほうで開発された iPhone 用のアプリということなので、もしご関心あればいちど見てみていただくといいと思います。

これも同じようなことで、先ほど森脇先生が活動領域、活動量の低下というようなことを話題にさせていただいてましたけど、この中で活動量が減ると、活動量が減ること自体がますます私たちの元気をなくしてしまうということになって、元気がなくなるとわれわれの自尊心とかそういうものも低下して、ますます活動量が減るという悪循環が起こるということがあると思うんですね。

なので一定のレベル、もちろん休むときは休まなきゃいけないんですが、一定のレベルの活動量はキープしなきゃいけないという考え方があるので、そういうときにその辺の管理を簡単にできるアプリということです。やはりこれも東大の臨床心理学のゼミで開発されているものですが、「いっぷく堂」という名前の iPhone 用のアプリがあったりするので、ご関心あれば、ぜひこういうものご自身の中のいろんなものというのをチェックしていただくというのもだいじなことかなというふうに思います。

ごめんなさい。少々オーバーしてしまいましたが、これで終わりにしたいと思います。

【司会】 鈴木先生、ありがとうございます。3人の先生方、ありがとうございます。盛りだくさんで随分時間が押してしまったんですけども、今から早速、質疑応答の時間に移りたいと思います。ご質問のある方は参加者のところの手を挙げる、あるいはマイクオンで発言していただきまして、具体的に質問先の先生を指名していただくといいかなと思いますが、よろしくお願いします。どなたか。

【教員A】 Aですが。

【司会】 はい、どうぞ。

【教員A】 鈴木先生に質問なんですけれども、コロナになって、オンライン授業になって、そのことに関してのストレスとか、何か、今回の全部オンラインになったということ自体とか授業のやり方とか、そういう私たちに関係するような相談みたいなのがありましたか。

【鈴木】 最初のころは、やはり相談というか、質問のようなレベルですけど、オンラインの授業の受け方とか、先生とのコミュニケーションの仕方とか、先ほど田中先生も言われてましたけど、レポートの評価についてあまり、レポートは出したもののフィードバックがないので、それでよかったのかわからないとか、そのような不安がかなり最初のころずっとあって。それから最近はかなりもう少し、授業が終わったということもありますけど、少しメンタル面の孤独感みたいな話とか、そういうことの相談が最近、流れとしてはできてきている。そのような感じになってますね。

【教員A】 そのような孤独感の相談というのは、今までとはちょっと種類が違う、そういう相談ですか。

【鈴木】 種類が違うというふうに言い切れるかどうかわからないんですが、少なくとも

もきっかけがオンラインの授業下の中で、ほかの人とつながることができなかったり、あるいは下宿生は、とくに1年生の下宿生はほとんど人とつながる、この半年、全然人とやり取りできてないというようなこともあったりして、そういうところをきっかけにして孤独感を訴えているというところがあるので、1個1個、話を聞きながら、必要な対応を考えているというような状況ではあります。

【教員A】 すみません。もう1つですけど、今までほとんど大学に来たことのない1年生の質問というものと、2年次以上の質問というものには何か違いみたいなのはありますか。

【鈴木】 そうですね。現時点ではっきり違うということはあまり頭にはないんですが、ただ、置かれてる状況はたしかに違うので、たとえば2年生、3年生とかだと実習のこととか話題になってたりとか、3年生、4年生ごろだと就職、進路のことでコロナの影響でというところの話が出てきたりとかというところはあったりするので。もともと学年に応じて悩む領域というのはそれぞれあると思うんですが、そういうのがそれぞれコロナに影響を受けててというところで、みんなちょっとずつ違っているかなとは思いません。

【教員A】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに何かご質問とか、あるいは話題提供とかでもよろしいですが、どうでしょうか。

そしたら、司会のほうからで申しわけないんですけど、質問というか、これは森脇先生、田中先生、お二方に対してなんですけれども、授業の出席率ですね。これは先生方皆さん全員にかかわるとは思うんですが、「出席率がよくなった」、あるいは「理解度が高まった」というのがあるんですが、先日、指導学生、1年生とかの、あとゼミ生もですけど見ると、全落ちというか、単位をことごとく落とすという子が少数ではあるんですけどいて、今まではもう少しただらに取れてたり落としたりがあったのが、全部落とすみたいな、ほぼ全滅みたいな形になってしまって、対面のときよりも悪くなってる、あるいは1年生で「起きられませんでした」という。なぜ？ と思うんですけど、生活のルーティンが崩れてしまったということらしいんですね。

先生方、ほかの先生方でそういう極端な、全体を平均してみると出席率はいいいんだけど、個人面で見ると、オンラインで授業、逆に効率が学生にとって悪くなってる事例とかあるでしょうかという、ちょっと問いかけというか。皆さん、どうなんでしょう。私のところだけなんでしょうかという。

【森脇】 森脇です。例年とどのぐらい比較できるかという、例年も全然ないわけではないと思いますので、何とも言い難い部分はあるかと思いますが、オンライン自体が無理な学生さんというのは途中からいなくなるというか、そういう学生さんというのはあったと思います。途中までは出てたけど、途中から全然出られなくなるという学生さんですね。

【司会】 ありがとうございます。先週ちょっと履修指導したときに聞いたら、課題が多過ぎて付いていけなくなったというような、脱落の仕方が普段とちょっと違うという

のはあったんだろうなと思うので、後期、授業運営のときのよく考えないといけないなと思ったんですが、難しいなとは思いますが。ありがとうございます。ほかの先生、田中先生とかどうですか、その辺は。

【田中】 私のほうはアトピーの学生がいて、それは逆にオンラインになって生き生きとして全部取ったというのがいまして、もう1つ、もともと難がある人なんですけれども、学校に来ることがもともとしんどかったという6年生のうちのゼミ生は、今回頑張るかなと思ったらずっぱり脱落したなというぐらいで、川口（司会）先生のタイプの学生はまだ私は感知できてないという状態です。

【司会】 ありがとうございます。いろいろそういう情報共有が今、横でしにくいという状態も、授業運営、今後、後期をどうしていくかというので知りたいなと思うところではあります。ありがとうございます。ほか。はい、どうぞ。

【森脇】 課題の問題なんですけれども、難しいなと思ったのは、本来講義の単位というのは単に講義に出ているだけじゃなくて、それに対して勉強する時間というのを含めて単位数というのは設けられているというのが建前だと思うんですね。授業の単位数というのは。それを考えると、かなり実は前期のオンライン授業というのはそれを実質化してしまったのかなというふうに思っていて、レポートも非常に今年度は出来がよかったというのがあったんですね。ただ聞くだけというんじゃなくて、実質化してしまった。実質化するということがこういうことに近いのかなというのが私の感じたところでもあったということ、少し付け加えさせていただきたいと思います。

【司会】 ありがとうございます。それは一部、私も実感してます。予習復習の実質化ですよ、単位の。

【森脇】 はい。

【司会】 そろそろ時間になりますが、ほかの先生方、何かご意見、ご質問ないでしょうか。そしたら、もっと質疑応答とか皆さん活発な意見交換の場が設けられたらよかったんですが、非常に大きな課題ということもありますので、報告の先生方、盛りだくさんに報告していただきました。Moodleのほうに参考資料を上げておきましたので、まだ目を通されてない先生、追加資料とかもご覧になっていただければと思います。

あと、Moodleのコースのほうにアンケートを載せておきました。今週の金曜、明後日までの回答期限ということですので、できれば、終わりましたらすぐ回答して提出していただきますと助かりますので、よろしく願いいたします。

それでは時間になりましたので、9月FDシンポジウム、これで終了とさせていただきます。よろしいでしょうか。ありがとうございました。鈴木先生もありがとうございました。（終了）

## 2. 講演会のアンケート結果

回答者数：44名（参加者61名）



Q01. 今回のシンポジウムについて、総合的な評価をお聞かせください。

- a) 大変良かった 48% (21名)
- b) 良かった 45% (20名)
- c) 普通 7% (3名)
- d) あまり良くなかった
- e) 良くなかった

Q02. 今回のシンポジウムの感想、大学教育におけるオンライン授業についてのご意見など、自由にお考えをお書き下さい。

- ・1時間では足りないくらい充実した内容でした。
- ・オンライン授業がかかえる問題が共有できてよかったです。自分が感じていることを他の先生も感じておられるのだということがわかっただけでも。
- ・オンライン授業における表現の自由、学問の自由の問題が大きな問題になることがよくわかりました。
- ・オンライン授業になったことによる教員の負担など、共感できる点が多々ありました。学生へのケアのみならず、教員へのケアについてもお話しただけなのはありがたかったです。
- ・オンライン授業には一長一短がありますが、学生の声をしっかりと聞きつつ、改善点を出し合って対応していかなければならないと痛感しました。
- ・オンライン授業によって教職員も疲弊していることを自覚すべきだ、とのお話がありました。学生の方がつらいのだから自分は我慢しなければ、とおもっていたのですが、少し気持ち楽になりました。
- ・オンライン授業の課題について他の教員の考えを聞くことができ、有意義であった。
- ・オンライン授業の実施状況を理解できて大変参考になった。
- ・パネリストの方のお話をお伺いして、前期のオンライン授業で個人的に疑問に思っていたことや不安点などをパネリストの先生方も同様に考えていらしたことがわかり、よかったです。学生を見ていると、オンラインでも自己学習する子はどんどん自己学習していくので、そういう能動的な学生はいいのですが、授業内容についていけない学生へのフォローがなかなかできず、そこが悩みどころです。
- ・メリットを活かしつつ、デメリットが報告された部分は、その改善方法などを、教員間、専門家からの具体的な方法提案などで、共有できるような方向を希望している。
- ・やはり対面授業の方がいいと思います。
- ・よい催しだと思います。時間に余裕をつくり意見交換ができる時間があつたほうがよいと思います。
- ・レポートの負担が大きいという意見は、私の指導生からも多く寄せられた意見だったので参考になりました。後期の講義を考える材料を与えていただき大変ありがたいです。
- ・各教員がどのようなことを考え、講義資料や学生指導について準備をし、コロナ対策とし

でのオンライン講義、オンデマンド講義をしているかが大変良くわかりました。

・具体的で問題点がわかりやすく整理されていたと思います。

・今年度は教員とも学生とも話す機会が激減した。そうした中で、他の教員の実践や学生の意識などについて学ぶことができ、大変参考になった。もう少し時間をかけて議論しても良かったかもしれない。

・私は着任後初めての授業でしたので、学生がどのような手ごたえなのかがよく分からず進めていました。今回のシンポジウムで、それぞれの先生の試みなどをお聞きでき、大変参考になりました。

・授業のことは教員同士で情報が入ってくるが、学生なんでも相談室の鈴木先生から得られた情報はほかで得られないもので貴重だった。

・Zoomのアプリケーションとしての安全性についてあまり認識がなかったので、参考になった。これについては、できれば何か必要な対策や注意点などをまとめて示して頂ければありがたい。またオンライン授業に対する学生の認識や他の先生方の授業の方法についても、今後に資するところがあった。

・オンライン授業にしているのは新型コロナウイルス対策であるということを考えると、やはり感染して休まざるを得ないという学生に対する授業のバックアップを保証するのは必要なのではないか。オンデマンド型なら教材はそのままに課題提出の期限を延ばせばいいが、同期型だと録画してアーカイブとして取っておいて必要な際に提供するなどの手間が余計にかかるので、簡単ではない。が、学部としてそのためのルールを作り、授業担当者をサポートする仕組みを作っておくことは、今後のことを考えても必要になるのではないか。もう一点。FD講演会前後の会議で発言者の音声安定しなかったり割れたりしているのを見ると、授業は大丈夫なのかと不安になってしまった。学部として、PC接続するマイクを購入するなどの予算措置を取った方がよいのではないか。

・オンライン授業のなかでグループ分けするやり方とか、技術的な話をもう少し伺いたかった。

・ご報告いただいた先生方の内容はとても貴重なもので、ありがたかったです。非常勤講師の先生方へのサポートは、窓口教員任せになりすぎているきらいがあり、複数の先生方に対応していると、自分の講義のことも考えると、負担感はかなりあり、大事な指摘だと思いました。

・学生・教員ともオンライン授業疲れが出てくる頃だと考えられるので、オンライン授業関係に重点を置いた支援が必要になってくると思う。

・学生のメンタル面での悩みのあり方についてご説明があり、イメージを掴みやすかったです。

・学生相談室の状況を知ることができたことがよかったです。それから、ほかの先生の対応の様子も知ることができました。

・技術的なことはクリアされていた前提でお話になりましたが、Zoomを使う上での苦労とか、もっと初歩的な話も聞きたかったです。

・教員2名の発表は講師側の立場からの問題の指摘で、鈴木先生の発表は学生側の立場か

らの問題の指摘。両方の面がわかってよかったと思う。

- ・授業の準備等での負担は大きいですが、これまでの対面授業では異なる授業の組み立てや内容を再考する機会となった。

- ・授業本体はオンデマンドではあるが、授業時間帯の最後に〇×式の要点確認テスト、次の授業の冒頭に理解度確認テストを実施、それぞれ正答・解説も Moodle で配布し、理解度の低い項目は次回以降の授業資料で補足する、任意レポートについては全て添削も行って返却するなどしてきたが、期末試験の成績は例年と比べて良いとはいえない（成績分布が二極化した）印象がある。やる気のある学生とそうでない学生の落差が大きくなった気がするが、それが良いのか悪いのかは分からない。

- ・情報共有ができてよかった。

- ・森脇先生がご指摘されていたように、今回のオンライン化によって、授業の実質化が進んでいることが分かったことはよかったと思います。通常に戻った時に、事前事後の課題が習慣化していることを望みます。また、鈴木先生から学生相談に関する情報をいただいたのは有意義でした。

- ・真面目で熱心な学生ほど、対面授業の再開を願っている。強いてオンラインのメリットを考えれば、オンデマンドの活用によりリピート授業を解消できる（教員の負担を軽減する）ことくらいであり、事務的な会議ならばともかく、教育面でのメリットなど考えられない。この半年だけでも教育効果の低下を感じており、今後どれだけ挽回できるかを案じている。一日も早く対面の再開に向けて努力すべきである。

- ・他の教員の状況が知れて、それだけでよかった。オンライン授業だと、そういった教員間の横のつながり自体が失われていたので、すべて自分の個人的な感想でしかなかったものが、ほかの教員の話聞くことで相対化できて参考になった。

- ・非常勤講師によるオンライン授業サポートについて、制度化も含めてもう少し具体的に話し合うべきだと思います。今の状況ですと、自分の授業準備や研究等のための時間を割いて非常勤講師のサポートを行わざるを得ない教員もいれば、全く行わないで済む教員もあり、全教員が多忙を極める中ではやはり不公平さを感じます。

- ・平等な試験をすることが難しい。

- ・確かにオンライン授業は教員の負担が大きいですが、教育面の成果、特に単位の実質化という点では対面授業を上回ることも多いと感じる。教員としても、オンライン授業に一層習熟する必要があると思っている。対面授業を再開できる状況になっても、オンライン授業自体及びその利点を活用したいと考えている。

Q03. 今後、FD 講演会・シンポジウムで取り上げてもらいたいトピックがありましたら、お書きください。

- ・オンライン授業のパート2など。

- ・Moodle で紹介されていますが、Microsoft Teams を使ったオンライン授業について、関心があります。特にグループワークをする際に、話し合いながら PPT など資料が作成できるだとか…。ZOOM のブレイクアウトルームも話し合うにはいいのですが、その場で皆で

資料を作成することはできないので、グループワークにおける Microsoft teams の活用方法を学びたいと思っております。

- ・本日のテーマでの講演会・シンポジウムは、またやるべきかと思えます。
- ・コロナの状況にもよると思うが、今後も機会があればオンライン授業を取り上げていただきたい。
- ・後期もオンライン授業ですし、また今回の話題の延長のものをお願いできれば有り難いです。
- ・オンラインによる卒論指導の可能性、具体的な方法、学生とのコミュニケーションのコツなど。
- ・オンライン講義の実践例についての報告会。
- ・今後も Moodle を用いた講義をしていきたいと考えています。Moodle の効果的な使い方、学生にとって評価の高い、評価方法としての利用等について紹介する場を FD で取り上げていただきたい。
- ・今後も、このような内容のシンポジウムを続けて頂ければと存じます。
- ・文化学科の演習の授業と、指導学生への指導の二重体制をどうするのかは、FD レベルの話じゃないかもしれないが、皆さんがどのように対処しているのかお聞きしたい。
- ・オンライン授業における講義資料の作り方の変化について。
- ・今回の続きのようなものを、年度内にもう一度やってもいいのではないかと思います。
- ・教育に関する教員の負担一般
- ・オンラインベースのゼミ運営において、授業時間外に先生方がゼミ生とどのような交流を試みられているかについてお聞きしたいです。
- ・コロナ対応についていろいろ通達があるが、個人的には整理できていません。大学における感染予防について、わかりやすい説明を聞きたいと思えます。
- ・社会人教育について

#### IV. 学部生による 「授業改善のためのアンケート」





## IV. 学部生による「授業改善のためのアンケート」

### 1. アンケートの概要

#### ① 授業評価実施の目的と方法

三重大大学では、前期・後期の各学期末に全学生を対象とした「授業アンケート」を実施している。これは、「学びの振り返りシート」と「授業改善のためのアンケート」の二部構成となっており、学生にとっては自ら得た学力を確認するデータ、教員にとっては授業改善を行う際の情報源となっており、毎年入力する「教員活動データベース」においても、当該アンケートの結果に基づいて行ったその年次の授業改善を記入する項目が設定されている。

さらに本学部では、学部として組織的に教育効果を高めることを目指し、定例FD研修会においてこのアンケート結果を活用し、授業改善のための情報共有や議論を行う素材としてきた。

学生の「授業アンケート」に基づく授業改善に当たっては、基本的に従来の方法を踏襲することで資料の継続性を維持するとともに、学生の自由な意見・感想の表明の機会となるように工夫を行ってきた。その一例がアンケート入力方法の改善であり、かつての紙媒体によるアンケートに替わり、2017年度からUNIPAを通じたWeb入力となり、さらにスマートフォンからの入力も可能となった。その結果、学生は自分が履修した全ての授業科目について、パソコンやスマートフォンからアンケートに回答することが可能となった。こうした方式の変更の背景には、学生のアンケート回答の手間が省けることから回答率が上昇することへの期待があった。しかし、これまでのFD活動報告書では、本学部におけるアンケート回答率の低下が問題視されてきた。

#### ② 質問項目

学生自身への情報提供である「学びの振り返りシート」は、「Ⅰ. あなたの学びに関する項目」、「Ⅱ. 地域に関する学びの項目」、「Ⅲ. 4つの力に関する項目①」、「Ⅳ. 4つの力に関する項目②」から成り、「授業改善のためのアンケート」は、「Ⅴ. 教育改善の項目」、「Ⅵ. 授業改善に関する記述欄」から成る。「Ⅴ. 教育改善の項目」は、学生の視点から授業をよりよくするための改善項目を項目リストから選択することになっている。「教員から指定のある項目」もここに含まれる。そして2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンライン授業への全面的な切り替えが生じたために、この部分のアンケート項目において、新たな質問が追加された。それらは、「この授業で利用された遠隔プラットフォーム、またはツールは何でしたか」、「この遠隔授業に関する次の質問にお答えください(4項目)」、「以下の項目を従来の対面式授業と比較して、この授業で自分にあてはまると思う選択肢を選んでください(9項目)」という質問項目である。そして「Ⅵ. 授業改善に関する記述欄」は、「先生に続けてほしいと思うこと」、「自分が先生だったらこうしたいと思うこと」をそれぞれ自由に記述する項目となっている。

なお今回の分析にあたっては、上記の「学びの振り返りシート」の中の「あなたの学びに関する項目」、および「授業改善のためのアンケート」の中の「教育改善の項目」を主な対象とした。

### ③ 分析対象科目

全学統一で実施される授業アンケートであるが、対象とする授業科目の選択は学部の判断にゆだねられてきた。本学部では基本的に通常の講義科目は全て対象とするが、アンケートの趣旨や学生の自由な意見・感想の表明の機会を確保するという点を踏まえ、従来、以下の原則を定めて実施してきた。

- 1) 専任教員および特任教員の担当する科目は原則として実施対象とするが、非常勤講師による授業は実施対象としない。それゆえ、集中講義についても実施しない。
- 2) 語学関係科目・演習科目は実施対象としない。
- 3) リレー講義については実施対象とする。
- 4) 資格科目の講義科目は実施対象としない。
- 5) 登録受講生数が3人未満の授業科目では実施しない。

紙媒体によるアンケート実施に際しては、上記原則に従って、該当科目のみでアンケート用紙を配付していた。しかし、2017年度にWebアンケートが導入されたことにより、学生自身が履修している科目について回答・入力することになった。その結果、現時点では、これまで上記原則によってアンケートを行ってこなかった科目も含めた全ての科目が分析対象となっている。

### ④ 分析結果の取り扱い

アンケートがWeb入力になるとともに、アンケート結果についても各教員がUNIPAを通して確認することが可能になった。学生の意見・乾燥が迅速かつ確実に伝えられることにより、各教員が担当する翌年度以降の授業改善に資することになっていると考える。

期間：2020/07/16（木）00:00～2020/07/31（金）23:59

対象人(延べ数)：5221人 回答人(延べ数)：1557人 回答率 29.8%

### 2020年度授業アンケート 前期 Review of STUDY in the 1st semester of 2020

この調査の目的は、学生が自らの学びを振り返り改善できるように、学びの履歴を提供すること、そして大学が教育を改善するための情報を得ることです。

以下の設問には、すべて、授業だけではなく、授業外学習も含めて、回答してください。

The purposes of this survey are 1) to offer students a record of progress in study so that they will be able to look back and improve own study, and 2) to collect information for the university to improve education.

## 学びの振り返りシート Review of Your Study

### I あなたの学びに関する項目

#### Items on Your Study

以下の項目について当てはまると思う数字を選んでください。

Please select the number which you think most applicable to each statement.

項目	比率	人数	平均点
1 総合的に判断して、この授業に満足できた。 The class was satisfactory generally. (必須)			4.2点
あてはまらない/Not at all applicable	2%	27人	
あまりあてはまらない/Not applicable	4%	69人	
どちらともいえない/Neutral	10%	153人	
ややあてはまる/Somewhat applicable	44%	681人	
あてはまる/Applicable	40%	627人	
2 授業内外の学習に取り組むために、シラバスを活用した。 I used the syllabus to tackle the study in and out of class. (必須)			3.1点
あてはまらない/Not at all applicable	15%	237人	
あまりあてはまらない/Not applicable	21%	320人	
どちらともいえない/Neutral	20%	306人	
ややあてはまる/Somewhat applicable	29%	445人	
あてはまる/Applicable	16%	249人	
3 この授業の内容について理解できた。 I was able to understand the contents of the course. (必須)			4.1点
あてはまらない/Not at all applicable	2%	25人	
あまりあてはまらない/Not applicable	3%	43人	
どちらともいえない/Neutral	9%	146人	
ややあてはまる/Somewhat applicable	58%	908人	
あてはまる/Applicable	28%	435人	
4 新しい知識・考え方・技術などが獲得できた。 New knowledge, thoughts and techniques were acquired. (必須)			4.3点
あてはまらない/Not at all applicable	1%	22人	
あまりあてはまらない/Not applicable	2%	29人	
どちらともいえない/Neutral	6%	89人	
ややあてはまる/Somewhat applicable	45%	702人	
あてはまる/Applicable	46%	715人	
5 この授業の受講によって、学業への興味・関心（意欲）が高まった。 This course heightened your interest and desire for study. (必須)			4.1点
あてはまらない/Not at all applicable	2%	28人	
あまりあてはまらない/Not applicable	5%	73人	
どちらともいえない/Neutral	13%	202人	

#### IV. 学部生による「授業改善のためのアンケート」

ややあてはまる/Somewhat applicable		45%	695人	
あてはまる/Applicable		36%	559人	
6 この授業で学んだことや考え方について、意識するようになり実際に試してみたりした。 I tried to think and practice what I have learned in this course. (必須)		比率	人数	3.4点
あてはまらない/Not at all applicable		6%	86人	
あまりあてはまらない/Not applicable		14%	213人	
どちらともいえない/Neutral		27%	426人	
ややあてはまる/Somewhat applicable		39%	601人	
あてはまる/Applicable		15%	231人	
7 学びを深めるために、調べたり尋ねたりした。 In order to deepen the study, I did research and questioned. (必須)		比率	人数	3.7点
あてはまらない/Not at all applicable		4%	63人	
あまりあてはまらない/Not applicable		12%	188人	
どちらともいえない/Neutral		19%	298人	
ややあてはまる/Somewhat applicable		42%	652人	
あてはまる/Applicable		23%	356人	
8 授業1回当たりの授業外学習(予習・復習・課題や試験のための学習・関連する読書や活動など)は何時間でしたか。 How long did you study for each class(preparation, review, assignment, report)? (必須)		比率	人数	2.0点
3 0分未満/Almost nothing		35%	545人	
3 0分~1時間未満/About 30 minutes		37%	573人	
1時間~2時間未満/1 to 2 hours		19%	302人	
2時間~4時間未満/2 to 4 hour		6%	93人	
4時間以上/Over 4 hours		3%	44人	
9 この授業を何回欠席しましたか。How many times were you absent from the class? (必須)		比率	人数	1.3点
0回/0 time		82%	1280人	
1回/1 time		11%	175人	
2回/2 times		4%	65人	
3~4回/3 to 4 times		1%	22人	
5回以上/Over 5 times		1%	15人	

#### II 地域に関する学びの項目(関連がなかった授業では回答しないでください) Concerning your study on Mie (Please do not answer if this class is irrelevant to Mie).

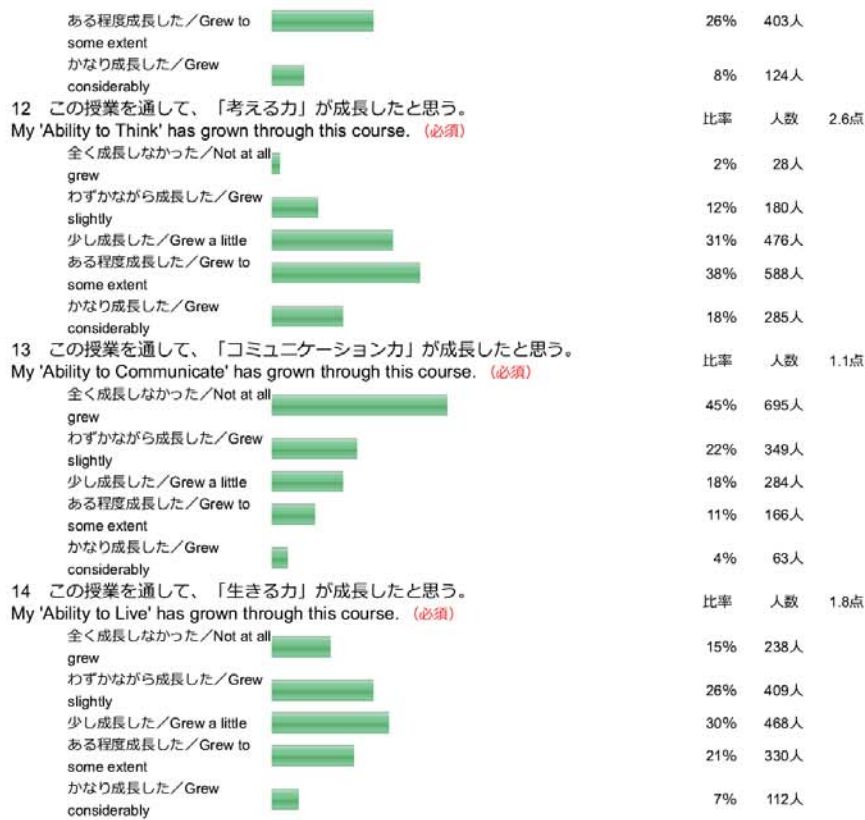
10 この授業の受講によって、三重県や地域への興味・関心が高まった。(地域のことを扱わなかった授業では、「該当なし」を選び、扱っていた授業では「あてはまらない」~「あてはまる」を選んでください) This course has increased your interest in issues related to Mie. (Please select the "The course isn't applicable to this Q" if this class is irrelevant to Mie). (必須)		比率	人数	0.8点
該当なし/The course isn't applicable to this Q		70%	1097人	
あてはまらない/Not at all applicable		3%	47人	
あまりあてはまらない/Not applicable		5%	79人	
ややあてはまる/Somewhat applicable		16%	251人	
あてはまる/Applicable		5%	83人	

#### III 4つの力に関する項目① Items on Four Key Abilities ①

以下の項目について当てはまると思う数字を選んでください。(4つの力は、大学生としての活動のすべてを通して身につけるものです。また、各授業においても、4つの力の重点度には軽重がありますが、4つの力のすべてに回答してください。)

Please select the number which you think most applicable to each statement.(The four Key Abilities are acquired through all activities as a university student including out of class study. Please respond to all the four key abilities.)

11 この授業を通して、「感じる力」が成長したと思う。 My 'Ability to Empathize' has grown through this course. (必須)		比率	人数	2.0点
全く成長しなかった/Not at all grew		8%	123人	
わずかながら成長した/Grew slightly		23%	362人	
少し成長した/Grew a little		35%	545人	

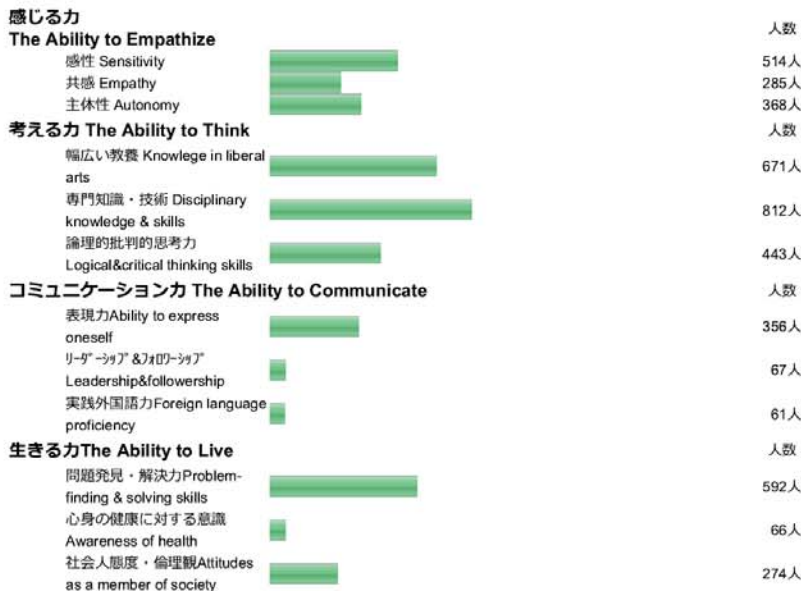


IV 4つの力に関する項目②

Items on Four Key Abilities ②

以下の「4つの力の構成要素」の観点について、この授業を通して成長したと思えるものを選んでください。なお、いくつ選んでもかまいません。

Among the components of the four key abilities shown below please select those you feel grew through this course.



(以下、「授業改善のためのアンケート」です。)

Questionnaires on Improving the Quality of Education are as follows

授業改善のためのアンケート



## Improve the Quality of Education

### V 教育改善の項目

#### Items for the Improvement of Education

この授業をもっとよくするためには、どのような点を改善すればいいと考えますか。以下の項目から選んでください。なお、いくつ選んでもかまいません。In order to make this course better what do you think should be improved?

Please select from Items below. You may select as many as you Method to answer this question is the same as IV.

授業の概要の説明（口頭、シラバスなどによる） Course Description(oral and by syllabus)	人数
授業目的の説明Objectives of the course	50人
授業内容の説明Course planning&contents	129人
評価方法Methods and criteria of evaluation	73人
教室内で使用する教材 Teaching Materials in Class	人数
授業内で提示される資料 Materials presented	95人
配布資料/Web資料/Moodle Distributed materials	117人
教員の行動(話し方、わかりやすい説明、発展的な内容の説明、学習内容の活用の説明、不謹慎行動への対処など) Behavior of the instructor (including Speech(easy listening comprehension),Explanation easy to understand,Explanation of contents in development,Explanation of practical application,Actions toward indiscreet students' behaviors)	人数
話し方Speech(easy listening comprehension)	70人
わかりやすい説明Explanation easy to understand	115人
発展的内容Explanation of contents in development	56人
学習内容の活用Explanation of practical application	56人
不謹慎行動への対処toward indiscreet behaviors	2人
授業における学生参加の機会について Opportunities for Students' Participation in class	人数
学生に考えさせる工夫Means to make us to think	85人
質問の機会To ask questions in class	53人
学生との対話の機会To discuss with each other	71人
学生同士の交流To deepen mutual understandings	56人
補足(グループ活動の実施や支援など) Note:Opportunities among students to mutually dig problems deeply(group works and support for them)	
授業外学習のための支援 Support for Off Class Learning	人数
自学自習のための情報 Information on self-study	78人
授業外での課題や宿題Subjects for off-class study	51人
学習に対する助言や補足 Advising for learning	65人
質問や課題への適切な対応 Responses to questions	37人
Moodleや電子メール等の使用Use of Moodle or email	23人
補足:参考図書・参考資料等も含む Note.inc.reference book & materials	
その他教員から指定のある項目 Items specified by the Instructor	人数
教員の指定項目Items specified by the Instructor	1人
この授業で利用された遠隔プラットフォーム、またはツールは何でしたか?なお、いくつ選んでもかまいません What kinds of ICT tools were used in the lesson (multiple choice)	人数
三重大学Mie Univ. Moodle	1191人
Zoom	1313人
Google Classroom	12人
Google Meet(Hangout)	2人
Microsoft Teams	112人



Line	1人
Telegram	0人
Skype	0人
その他Other 空欄にご記入 を.Pls fill in the blank	40人

**この遠隔授業に関する次の質問にお答えください。To what extent do you agree or disagree with the following statements about the lesson.**

この遠隔授業では、遠隔プラットフォームやツールを使用する際トラブルや不明点がありましたか。Did you have any trouble or questions when the online class started? 比率 人数 1.9点

(必須)

非常にそう思う Strongly agree	5%	76人
そう思う Agree	14%	216人
あまりそう思わない Disagree	48%	745人
全くそう思わない Strongly disagree	33%	520人

この遠隔授業では、心理的抵抗感がありましたか。Did you feel nervous when the online class started? (必須) 比率 人数 2.0点

非常にそう思う Strongly agree	6%	101人
そう思う Agree	18%	276人
あまりそう思わない Disagree	46%	709人
全くそう思わない Strongly disagree	30%	471人

自身のネット環境等は、遠隔授業がスムーズに行える状態でしたか。Was the Internet connection at your home good enough for online classes? (必須) 比率 人数 3.2点

非常にそう思う Strongly agree	37%	573人
そう思う Agree	52%	811人
あまりそう思わない Disagree	9%	147人
全くそう思わない Strongly disagree	2%	26人

後期や来年度もオンライン授業を受講したいですか? Would you like to take classes online next year or next semester? (必須) 比率 人数 2.3点

非常にそう思う Strongly agree	15%	227人
そう思う Agree	27%	426人
あまりそう思わない Disagree	32%	502人
全くそう思わない Strongly disagree	26%	402人

**以下の項目を従来の対面式授業と比較して、この授業で自分にあてはまると思う選択肢を選んでください。3.Compared to traditional face-to face lessons, in this long-distance lesson,**

理解が深まったI had a better understanding of the content. (必須) 比率 人数 2.6点

非常にそう思う Strongly agree	10%	150人
そう思う Agree	45%	703人
あまりそう思わない Disagree	38%	590人
全くそう思わない Strongly disagree	7%	114人

勉強の時間が増えたI spent more time studying (必須) 比率 人数 2.6点

非常にそう思う Strongly agree	13%	198人
そう思う Agree	44%	687人
あまりそう思わない Disagree	34%	531人
全くそう思わない Strongly disagree	9%	141人

学習意欲が上がったLearning motivation was increased. (必須) 比率 人数 2.4点

非常にそう思う Strongly agree	8%	121人
そう思う Agree	34%	522人
あまりそう思わない Disagree	47%	728人
全くそう思わない Strongly disagree	12%	186人

積極的に取り組んだI was more engaged in the lesson. (必須) 比率 人数 2.6点

非常にそう思う Strongly agree	13%	198人
そう思う Agree	46%	712人
あまりそう思わない Disagree	35%	544人
全くそう思わない Strongly disagree	7%	103人

Zoom等ICTツールの使い方が上達したICT tool skill use was improved. (必須) 比率 人数 3.0点

非常にそう思う Strongly agree	28%	435人
そう思う Agree	52%	804人
あまりそう思わない Disagree	15%	226人
全くそう思わない Strongly disagree	6%	92人

比較的発言・質問が多くなったI spoke out and asked questions more often than before. (必須) 比率 人数 1.9点

非常にそう思う Strongly agree	4%	69人
そう思う Agree	16%	242人
あまりそう思わない Disagree	47%	737人

IV. 学部生による「授業改善のためのアンケート」

全くそう思わない Strongly disagree		33%	509人	
教師とのやり取りが多くなった The interaction with the professor was more often than before. (必須)		比率	人数	2.0点
非常にそう思う Strongly agree		5%	73人	
そう思う Agree		17%	260人	
あまりそう思わない Disagree		48%	742人	
全くそう思わない Strongly disagree		31%	482人	
あまり集中できなかった I couldn't concentrate on that lesson. (必須)		比率	人数	2.5点
非常にそう思う Strongly agree		11%	174人	
そう思う Agree		39%	614人	
あまりそう思わない Disagree		39%	615人	
全くそう思わない Strongly disagree		10%	154人	
比較的疲れた I felt more tired than usual after the lesson.		比率	人数	2.9点
非常にそう思う Strongly agree		30%	449人	
そう思う Agree		44%	663人	
あまりそう思わない Disagree		19%	282人	
全くそう思わない Strongly disagree		8%	126人	

VI 授業改善に関する記述欄

Further description space for improvement

それぞれ240文字以内で記入してください。

Please describe within 240 characters for each question below.

※Please follow instruction from the faculty, if any

先生に続けてほしいと思うこと。

What you want the instructor to continue

自分が先生だったらこうしたいと思うこと。

What you want to do if you were the instructor

回答お疲れ様でした。右下の回答ボタンをクリックして回答を送信してください。

Thank you for your cooperation. Please complete this questionnaire by clicking the [回答] at the right-bottom of this screen.

期間：2021/01/21（木）00:00～2021/02/03（水）23:59

対象人数(延べ数)：5562人 回答人数(延べ数)：1256人 回答率 22.6%

### 2020年度授業アンケート Review of STUDY in 2020 online 後期

この調査の目的は、学生が自らの学びを振り返り改善できるように、学びの履歴を提供すること、そして大学が教育を改善するための情報を得ることです。

以下の設問には、すべて、授業だけではなく、授業外学習も含めて、回答してください。

The purposes of this survey are 1) to offer students a record of progress in study so that they will be able to look back and improve own study, and 2) to collect information for the university to improve education.

## 学びの振り返りシート Review of Your Study

### I あなたの学びに関する項目

#### Items on Your Study

以下の項目について当てはまると思う数字を選んでください。

Please select the number which you think most applicable to each statement.

1 総合的に判断して、この授業に満足できた。 The class was satisfactory generally. (必須)	比率	人数	4.2点
あてはまらない／Not at all applicable	2%	22人	
あまりあてはまらない／Not applicable	5%	57人	
どちらともいえない／Neutral	12%	147人	
ややあてはまる／Somewhat applicable	40%	508人	
あてはまる／Applicable	42%	522人	
2 授業内外の学習に取り組むために、シラバスを活用した。 I used the syllabus to tackle the study in and out of class. (必須)	比率	人数	3.0点
あてはまらない／Not at all applicable	17%	218人	
あまりあてはまらない／Not applicable	20%	252人	
どちらともいえない／Neutral	22%	274人	
ややあてはまる／Somewhat applicable	27%	344人	
あてはまる／Applicable	13%	168人	
3 この授業の内容について理解できた。 I was able to understand the contents of the course. (必須)	比率	人数	4.1点
あてはまらない／Not at all applicable	1%	12人	
あまりあてはまらない／Not applicable	4%	44人	
どちらともいえない／Neutral	10%	122人	
ややあてはまる／Somewhat applicable	56%	709人	
あてはまる／Applicable	29%	369人	
4 新しい知識・考え方・技術などが獲得できた。 New knowledge, thoughts and techniques were acquired. (必須)	比率	人数	4.4点
あてはまらない／Not at all applicable	1%	7人	
あまりあてはまらない／Not applicable	1%	18人	
どちらともいえない／Neutral	6%	70人	
ややあてはまる／Somewhat applicable	43%	541人	
あてはまる／Applicable	49%	620人	
5 この授業の受講によって、学業への興味・関心（意欲）が高まった。 This course heightened your interest and desire for study. (必須)	比率	人数	4.1点
あてはまらない／Not at all applicable	2%	22人	
あまりあてはまらない／Not applicable	4%	45人	
どちらともいえない／Neutral	13%	167人	

IV. 学部生による「授業改善のためのアンケート」

ややあてはまる/Somewhat applicable		45%	569人	
あてはまる/Applicable		36%	453人	
6 この授業で学んだことや考え方について、意識するようになり実際に試してみたりした。 I tried to think and practice what I have learned in this course. (必須)		比率	人数	3.6点
あてはまらない/Not at all applicable		4%	45人	
あまりあてはまらない/Not applicable		10%	126人	
どちらともいえない/Neutral		26%	326人	
ややあてはまる/Somewhat applicable		42%	525人	
あてはまる/Applicable		19%	234人	
7 学びを深めるために、調べたり尋ねたりした。 In order to deepen the study, I did research and questioned. (必須)		比率	人数	3.7点
あてはまらない/Not at all applicable		4%	55人	
あまりあてはまらない/Not applicable		10%	124人	
どちらともいえない/Neutral		18%	223人	
ややあてはまる/Somewhat applicable		43%	537人	
あてはまる/Applicable		25%	317人	
8 授業1回当たりの授業外学習(予習・復習・課題や試験のための学習・関連する読書や活動など)は何時間でしたか。 How long did you study for each class(preparation, review, assignment, report)? (必須)		比率	人数	2.2点
30分未満/Almost nothing		32%	399人	
30分~1時間未満/About 30 minutes		35%	435人	
1時間~2時間未満/1 to 2 hours		23%	283人	
2時間~4時間未満/2 to 4 hour		9%	111人	
4時間以上/Over 4 hours		2%	28人	
9 この授業を何回欠席しましたか。How many times were you absent from the class? (必須)		比率	人数	1.3点
0回/0 time		80%	1005人	
1回/1 time		13%	163人	
2回/2 times		4%	50人	
3~4回/3 to 4 times		2%	28人	
5回以上/Over 5 times		1%	10人	

II 地域に関する学びの項目(関連がなかった授業では回答しないでください)  
Concerning your study on Mie (Please do not answer if this class is irrelevant to Mie).

10 この授業の受講によって、三重県や地域への興味・関心が高まった。(地域のことを扱わなかった授業では、「該当なし」を選び、扱っていた授業では「あてはまらない」~「あてはまる」を選んでください) This course has increased your interest in issues related to Mie. (Please select the "The course isn't applicable to this Q" if this class is irrelevant to Mie ). (必須)		比率	人数	1.0点
該当なし/The course isn't applicable to this Q		65%	818人	
あてはまらない/Not at all applicable		2%	30人	
あまりあてはまらない/Not applicable		5%	68人	
ややあてはまる/Somewhat applicable		17%	217人	
あてはまる/Applicable		10%	123人	

III 4つの力に関する項目①  
Items on Four Key Abilities ①

以下の項目について当てはまると思う数字を選んでください。(4つの力は、大学生としての活動のすべてを通して身につけるものです。また、各授業においても、4つの力の重点度には軽重がありますが、4つの力のすべてに回答してください。)

Please select the number which you think most applicable to each statement.(The four Key Abilities are acquired through all activities as a university student including out of class study. Please respond to all the four key abilities.)

11 この授業を通して、「感じる力」が成長したと思う。 My 'Ability to Empathize' has grown through this course. (必須)		比率	人数	2.1点
全く成長しなかった/Not at all grew		6%	79人	
わずかながら成長した/Grew slightly		21%	262人	
少し成長した/Grew a little		32%	400人	

ある程度成長した/Grew to some extent	34%	423人	
かなり成長した/Grew considerably	7%	92人	
12 この授業を通して、「考える力」が成長したと思う。 My 'Ability to Think' has grown through this course. (必須)	比率	人数	2.7点
全く成長しなかった/Not at all grew	2%	20人	
わずかながら成長した/Grew slightly	10%	131人	
少し成長した/Grew a little	26%	322人	
ある程度成長した/Grew to some extent	41%	510人	
かなり成長した/Grew considerably	22%	273人	
13 この授業を通して、「コミュニケーション力」が成長したと思う。 My 'Ability to Communicate' has grown through this course. (必須)	比率	人数	1.5点
全く成長しなかった/Not at all grew	30%	372人	
わずかながら成長した/Grew slightly	23%	290人	
少し成長した/Grew a little	23%	283人	
ある程度成長した/Grew to some extent	18%	230人	
かなり成長した/Grew considerably	6%	81人	
14 この授業を通して、「生きる力」が成長したと思う。 My 'Ability to Live' has grown through this course. (必須)	比率	人数	2.0点
全く成長しなかった/Not at all grew	9%	111人	
わずかながら成長した/Grew slightly	25%	312人	
少し成長した/Grew a little	30%	377人	
ある程度成長した/Grew to some extent	29%	364人	
かなり成長した/Grew considerably	7%	92人	

IV 4つの力に関する項目②  
Items on Four Key Abilities ②

以下の「4つの力の構成要素」の観点について、この授業を通して成長したと思えるものを選んでください。なお、いくつ選んでもかまいません。

Among the components of the four key abilities shown below please select those you feel grew through this course.

<b>感じる力 The Ability to Empathize</b>	人数
感性 Sensitivity	454人
共感 Empathy	271人
主体性 Autonomy	391人
<b>考える力 The Ability to Think</b>	人数
幅広い教養 Knowledge in liberal arts	663人
専門知識・技術 Disciplinary knowledge & skills	679人
論理的批判的思考力 Logical&critical thinking skills	419人
<b>コミュニケーション力 The Ability to Communicate</b>	人数
表現力 Ability to express oneself	416人
リーダーシップ & フォロワーシップ Leadership&followership	124人
実践外国語力 Foreign language proficiency	29人
<b>生きる力 The Ability to Live</b>	人数
問題発見・解決力 Problem-finding & solving skills	656人
心身の健康に対する意識 Awareness of health	55人
社会人態度・倫理観 Attitudes as a member of society	282人

(以下、「授業改善のためのアンケート」です。)  
Questionnaires on Improving the Quality of Education are as follows

授業改善のためのアンケート



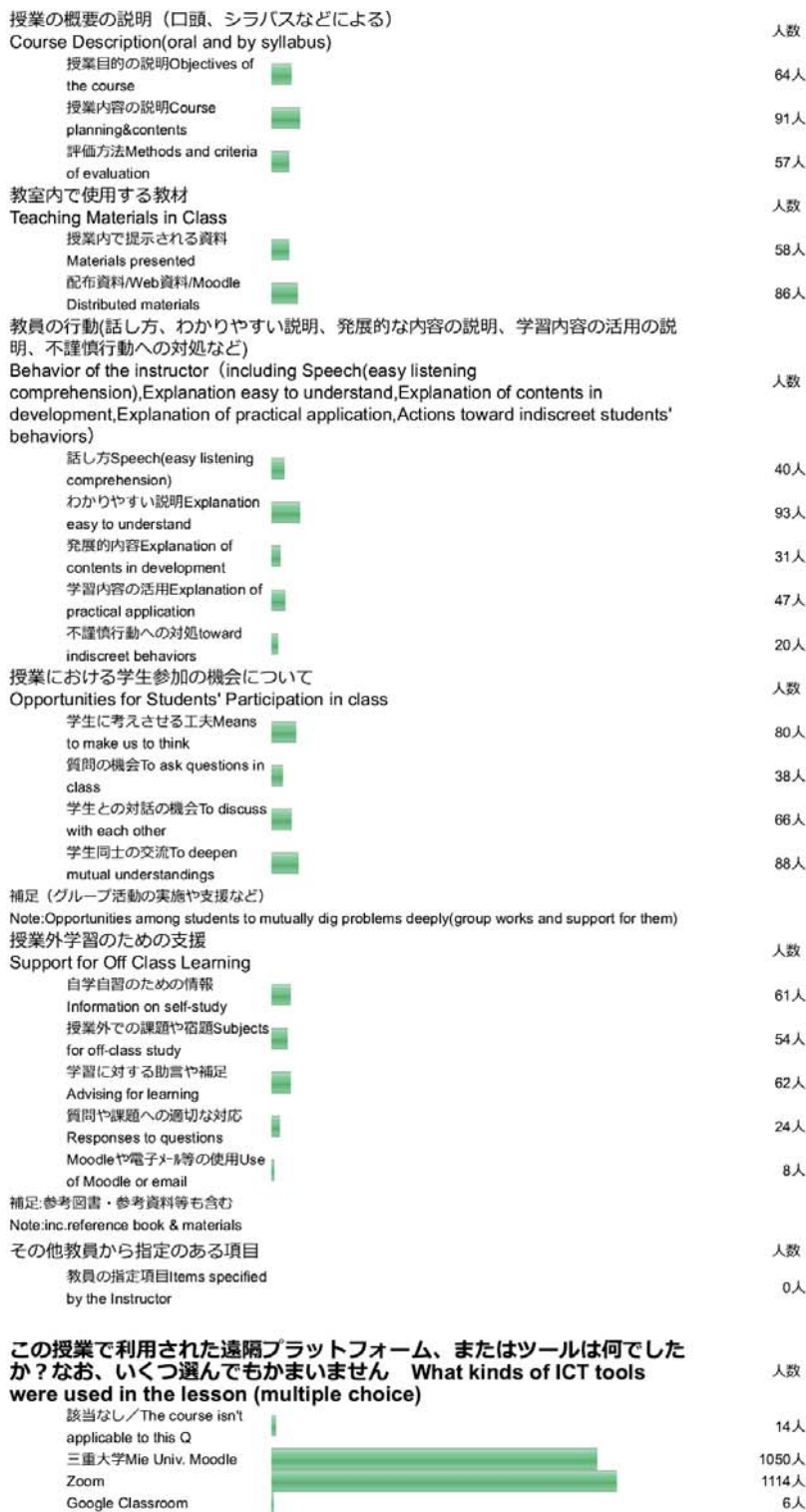
### Improve the Quality of Education

#### V 教育改善の項目

##### Items for the Improvement of Education

この授業をもっとよくするためには、どのような点を改善すればいいと考えますか。以下の項目から選んでください。なお、いくつ選んでもかまいません。 In order to make this course better what do you think should be improved?

Please select from Items below. You may select as many as you Method to answer this question is the same as IV.





Google Meet(Hangout)	3人
Microsoft Teams	60人
Line	16人
Telegram	1人
Skype	2人
その他Other 空欄にご記入 を.Pls fill in the blank	33人

**この遠隔授業に関する次の質問にお答えください。To what extent do you agree or disagree with the following statements about the lesson.**

この遠隔授業では、遠隔プラットフォームやツールを使用する際トラブルや不明点がありましたか。Did you have any trouble or questions when the online class started? 比率 人数 1.7点

(必須)

非常にそう思う Strongly agree	2%	31人
そう思う Agree	12%	146人
あまりそう思わない Disagree	40%	498人
全くそう思わない Strongly disagree	42%	531人
該当なし/The course isn't applicable to this Q	4%	50人

この遠隔授業では、心理的抵抗感がありましたか。Did you feel nervous when the online class started? (必須) 比率 人数 1.9点

非常にそう思う Strongly agree	5%	64人
そう思う Agree	16%	203人
あまりそう思わない Disagree	42%	527人
全くそう思わない Strongly disagree	34%	424人
該当なし/The course isn't applicable to this Q	3%	38人

自身のネット環境等は、遠隔授業がスムーズに行える状態でしたか。Was the Internet connection at your home good enough for online classes? (必須) 比率 人数 3.2点

非常にそう思う Strongly agree	33%	411人
そう思う Agree	55%	695人
あまりそう思わない Disagree	9%	111人
全くそう思わない Strongly disagree	2%	25人
該当なし/The course isn't applicable to this Q	1%	14人

来年度もオンライン授業を受講したいですか? Would you like to take classes online next year? (必須) 比率 人数 2.4点

非常にそう思う Strongly agree	12%	148人
そう思う Agree	33%	409人
あまりそう思わない Disagree	38%	475人
全くそう思わない Strongly disagree	18%	224人

**以下の項目を従来の対面式授業と比較して、この授業で自分にあてはまると思う選択肢を選んでください。3. Compared to traditional face-to face lessons, in this long-distance lesson,**

理解が深まったI had a better understanding of the content. (必須) 比率 人数 2.6点

非常にそう思う Strongly agree	8%	102人
そう思う Agree	46%	584人
あまりそう思わない Disagree	39%	485人
全くそう思わない Strongly disagree	7%	85人

勉強の時間が増えたI spent more time studying (必須) 比率 人数 2.6点

非常にそう思う Strongly agree	11%	135人
そう思う Agree	43%	542人
あまりそう思わない Disagree	37%	469人
全くそう思わない Strongly disagree	9%	110人

学習意欲が上がったLearning motivation was increased. (必須) 比率 人数 2.4点

非常にそう思う Strongly agree	6%	74人
そう思う Agree	37%	459人
あまりそう思わない Disagree	47%	585人
全くそう思わない Strongly disagree	11%	138人

積極的に取り組んだ I was more engaged in the lesson. (必須) 比率 人数 2.6点

非常にそう思う Strongly agree	10%	131人
そう思う Agree	48%	603人
あまりそう思わない Disagree	35%	439人
全くそう思わない Strongly disagree	7%	83人

Zoom等ICTツールの使い方が上達したICT tool skill use was improved. (必須) 比率 人数 3.0点

非常にそう思う Strongly agree	24%	299人
そう思う Agree	56%	703人

#### IV. 学部生による「授業改善のためのアンケート」

あまりそう思わない Disagree		17%	215人	
全くそう思わない Strongly disagree		3%	39人	
比較的発言・質問が多くなったI spoke out and asked questions more often than before. (必須)		比率	人数	2.0点
非常にそう思う Strongly agree		5%	59人	
そう思う Agree		18%	231人	
あまりそう思わない Disagree		52%	657人	
全くそう思わない Strongly disagree		25%	309人	
教師とのやり取りが多くなった The interaction with the professor was more often than before. (必須)		比率	人数	2.0点
非常にそう思う Strongly agree		4%	52人	
そう思う Agree		18%	226人	
あまりそう思わない Disagree		53%	660人	
全くそう思わない Strongly disagree		25%	318人	
あまり集中できなかったI couldn't concentrate on that lesson. (必須)		比率	人数	2.5点
非常にそう思う Strongly agree		9%	117人	
そう思う Agree		36%	451人	
あまりそう思わない Disagree		46%	582人	
全くそう思わない Strongly disagree		8%	106人	
比較的疲れたI felt more tired than usual after the lesson.		比率	人数	2.7点
非常にそう思う Strongly agree		20%	249人	
そう思う Agree		44%	534人	
あまりそう思わない Disagree		26%	314人	
全くそう思わない Strongly disagree		10%	121人	

#### VI 授業改善に関する記述欄

##### Further description space for improvement

それぞれ240文字以内で記入してください。

Please describe within 240 characters for each question below.

※Please follow instruction from the faculty, if any

先生に続けてほしいと思うこと。

What you want the instructor to continue

自分が先生だったらこうしたいと思うこと。

What you want to do if you were the instructor

回答お疲れ様でした。右下の回答ボタンをクリックして回答を送信してください。

Thank you for your cooperation. Please complete this questionnaire by clicking the [回答] at the right-bottom of this screen.

## 2. 分析結果

### ① アンケートの回答率

2020年度には、コロナ禍に伴ってオンライン授業が全面的に導入されたため、その影響がどのように生じたかを見極める必要がある。まず回答率については、前期が29.8%、後期が22.6%であり、いずれも前年度より少々（2ポイント程度）高くなった（表IV-1）。推測であるが、オンライン授業のために学生がパソコンと向きあう時間が増え、アンケートへの回答（UNIPAでの入力）がよりスムーズになされたのかもしれない。しかし、前期に比べて後期の回答率は低下するという問題は解消されていない。

なお、これまでの報告書で指摘されてきた事項を再度確認すると、本学部では、授業アンケート対象科目を原則として専任（特任）教員の講義に限り、演習や資格科目等は除外する

方針をとってきた。しかし、その原則が Web アンケートには反映されていないことから、学生の側では区別なく回答している。除外科目については、教員からの回答を促す指導はなされていないため、こうした科目を全て含んだ学部全体のアンケート回答率は当然低くなる。したがって、このアンケート回答率を他学部と比較する際には、こうした事情に配慮する必要がある。

質問項目	2018年度		2019年度		2020年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
回答率 (%)	30.0	20.8	28.1	20.4	29.8	22.6
1. 総合的に判断して、この授業に満足できた	4.1	4.2	4.1	4.3	4.2	4.2
2. 授業内外の学習に取り組むために、シラバスを活用した	3.1	3.1	3.1	3.2	3.1	3.0
3. この授業の内容について理解できた	4.0	4.1	4.0	4.2	4.1	4.1
4. 新しい知識・考え方・技術などが獲得できた	4.2	4.3	4.2	4.4	4.3	4.4
5. この授業の受講によって、学業への興味・関心（意欲）が高まった	4.0	4.1	4.0	4.2	4.1	4.1
6. この授業で学んだことや考え方について、意識するようになり実際に試してみたりした	3.5	3.5	3.4	3.6	3.4	3.6
7. 学びを深めるために、調べたり尋ねたりした	3.4	3.5	3.4	3.7	3.7	3.7
8. 授業1回あたりの授業外学習は何時間でしたか	1.8	1.9	1.8	1.9	2.0	2.2
9. この授業を何回欠席しましたか	1.8	2.0	1.9	1.9	1.3	1.3

## ② 「学びの振り返りシート」の集計結果

まず、設問1「総合的に判断してこの授業に満足できた」は、学生の総合的な満足度を示す項目として、これまでも重視されてきた。今回の結果をみると、前期が4.2、後期も4.2であり、過去2年間と比べてほぼ同じ点数である。すなわち、この回答値からはオンライン授業の影響は読み取れない。むしろ、オンライン授業という不慣れな授業運営を強いられながら、各教員の創意工夫により、例年と同程度の学生による満足度が得られたと評価してよいだろう。同様に、設問3「この授業の内容について理解できた」、設問4「新しい知識・考え方・技術などが獲得できた」、設問5「この授業の受講によって、学業への興味・関心（意欲）が高まった」のいずれにおいても、回答値は4点を超えており、前年と同程度の高い評価が得られた。一方で、設問2「授業内外の学習に取り組むためにシラバスを活用した」、設問6「この授業で学んだことや考え方について、意識するようになり実際に試してみたりした」、設問7「学びを深めるために調べたり尋ねたりした」については、回答値がやや低くなり、いずれも3点台である。ただしこれらは、オンライン授業の影響というのではなく、点数は従来とほぼ同じである。しいて言えば、設問7の前期の点数が昨年度前期より少し高くなっており、コロナ禍の影響とも言えそうである。

次に、設問8「授業1回あたりの授業外学習は何時間でしたか」については、前期が2.0

で後期が 2.2 であり、昨年より少々高くなった。しかし、この場合の 1 点は「30 分未満」、2 点は「30 分以上 1 時間未満」を指している。実際にはこの回答以外の学習や読書等もあるだろうが、この学習時間に関する問題（制度上は 1 回あたり 90 分の授業と 4 時間の授業外学習が必要とされる）を、これまでの報告書と同様にここで指摘しておきたい。そして、設問 9「この授業を何回欠席しましたか」については、前期・後期とも 1.3 であり、これまでよりも数値が下がった。1 点は「0 回」、2 点は「1 回」を示しており、全体の約 8 割の学生が「欠席 0 回」と回答している。オンライン授業に伴い、この点では学生の真面目さがより強く現れたようである。

次に、4 つの力に関する設問をみると、過去の報告書での指摘と同様に、「考える力が成長した」という回答ポイントが最も高くなっており、その構成要素としては、「専門知識・技術」「幅広い教養」「問題発見・解決力」などを挙げた例が多い。大学教育としてあるべき役割を果たしているものと評価できよう。

#### ③ 「授業改善のためのアンケート」の集計結果

教育改善の項目（どのような点を改善すればいいか）については、評価が難しいが、回答全体の特徴のみを記録しておく。「授業内容の説明」「わかりやすい説明」という回答が多いのは、前年度と同様である。2020 年度の特徴としては、「配布資料/Web 資料/Moodle」という回答が多く、後期では「学生同士の交流」を挙げる例が増えた。ここにも、オンライン授業の導入の影響がみてとれる。

次の質問は、オンライン授業に関する学生の評価・感想を直接問うもので、今年度新たに設定された項目である。その回答をまとめてみると、設問「遠隔プラットフォームやツールを使用する際にトラブルや不明点がありましたか」と「心理的抵抗感がありましたか」に対しては、そう思わない学生が多く、回答値は低い。次の設問「自身のネット環境等は遠隔授業がスムーズに行える状態でしたか」に対しては、そう思う学生が多く、全体的に大きな問題は生じなかったともいえる。しかし、設問「後期や来年度もオンライン授業を受講したいですか」に対しては回答が分散しており、学生による評価も割れていることが理解できる。

次に、「従来の対面授業と比較してどうだったか、どう思うか」という質問群がある。学生の回答の傾向が割と明瞭なのは、設問「Zoom 等 ICT ツールの使い方が上達した」と「比較的疲れた」に対する回答値が高い（そう思う学生が多い）こと、そして設問「比較的発言・質問が多くなった」と「教師とのやり取りが多くなった」に対する回答値が低い（そう思わない学生が多い）ことである。いずれも、授業のオンライン化に明確に対応している回答である。しかし、他の設問「理解が深まった」、「勉強の時間が増えた」、「学習意欲が上がった」、「積極的に取り組んだ」、「あまり集中できなかった」に対しては、いずれの場合も回答が偏っていない、すなわち「そう思う」と「そう思わない」が拮抗している。学生によるオンライン授業への評価は必ずしも単純なものではなく、その功罪は慎重に検討すべきであろう。2020 年度は、オンライン授業への全面的な切り替えが実施された年度であり、ここで述べた授業アンケートの結果を学部として、また教員個人が積極的に活用し、今後につなげていくことが求められる。

## V. 教員による「授業に関するアンケート」





## V. 教員による「授業に関するアンケート」

### 1. アンケートの概要

#### アンケートの目的と方法

教員による「授業に関するアンケート」は、教員が授業で使用している教材や授業で行っている工夫などについての基礎データを収集し分析することにより、次年度以降の教育内容・教育方法の改善のための資料提供を行うことを主な目的としている。

このアンケート調査の実施にあたっては、例年各教員に用紙を配布し、それを回収してきた。しかし2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、オンラインでの授業実施、在宅勤務の奨励等の事情が生じたため、三重大大学 Moodle 内に作った「人文学部 FD委員会 2020」というコースの中にアンケート項目を設定し、教員はオンラインで回答・入力するという方式をとった。

#### ①質問項目（巻末資料参照）

昨年度の項目をもとに作成した。

#### ②調査対象科目

専任教員および特任教員が担当する人文学部専門課程（前期・後期）の講義と演習科目を対象に調査を行った。回収されたのは166科目（文化学科120科目、法律経済学科42科目、その他4科目）である。この場合の「その他」は、いずれの学科にも所属しない教員の担当授業である。

なお、リレー講義科目については、これまでと同様、一つの科目に複数の教員からの回答が集計されている場合がある。

#### ③アンケート結果分析の視点

前期科目と後期科目の区別はせず、人文学部全体（上記の「その他」を含む）、文化学科、法律経済学科の3区分で集計した。また昨年度と同じ質問・選択肢については、昨年度と比較し、増減ポイントを示した（下記の①②③）。昨年度とはアンケート回収科目数が異なるので（昨年度の回答数は文化学科106、法律経済学科23、人文学部合計129）、増減ポイントはあくまでも参考である。

### 2. 分析結果

(1) 2020年度の授業に関しては、オンライン授業への全面的な切り替えという激変が生じた。「①使用している教材・機器」についてみると、「Moodle」の使用率が第1位となり、次いで「プリント」、「パワーポイント」、「パソコン」という順番である。昨年度と比べると、「Moodle」利用は71.3ポイントの増加を示し、「パソコン」と「パワーポイント」も、28.9

ポイントと 26.7 ポイントという顕著な増加を示した。一方で、「プリント」と「ビデオ・DVD」の減少は大きく、授業方法の変化を反映している。

(2) 「②取り入れている授業方法」をみると、採用率が最も高いのが「Moodle」であり、第2位は「学生を指名する」、そして「ディスカッション」、「学生によるプレゼンテーション」が続く。昨年度と比べると、「Moodle」の増加が極めて大きく(67.5ポイント増加)、一方で減少が目立つのが「ビデオ・DVD」である(マイナス18.5ポイント)。その他には顕著な増減は見られない。

(3) 「③試験・レポートの返却」についてみると、「返却しない」が最も多く(39.8%)、次が「試験・レポートを課していない」、そして「全員に返却」である。昨年度と比較すると、「全員に返却」と「希望者に返却」が減少し、「返却しない」と「試験・レポートを課していない」が増加した。これもオンライン授業の影響であり、やむを得ないところであろう。

(4) 自由記述の「④学生の独習の意欲を向上させるための工夫」については、多数の様々な回答が寄せられた。全体を通してみると、これまでの報告書の内容と同様に、学習のための資料紹介、確認テスト、予習を促す課題の提示、復習のためのフィードバック、学生のプレゼンテーションやディスカッションの指導に関する内容が多い。そして2020年度の特徴としては、オンライン授業への移行が生じたため、MoodleとZoomの機能を積極的に活用することにより、学生・教員間の細かいやりとり当たってきた例が多数示された。

(5) 「⑤休講について」をみると、全体の85.5%が「0回」、そして「1回」が12.4%、「2回」が2.4%である。休講ありと回答した場合について、その場合の措置をまとめると、「補講を行った」が16.7%、「補講に相当する措置をとった」が83.3%である。後者の場合には、様々な工夫がなされていることが分かる。

(6) 最後の自由記述である「⑥昨年に比べて工夫したこと、改善したこと」についても、多数の回答があった。そのほとんどは、オンライン授業の導入により生じた工夫・改善を述べている。従来の資料の見直しと修正に始まり、実際の授業の運営、学生とのコミュニケーション、そして授業後のフィードバックまで、全ての局面において新しい取り組みと工夫が求められ、こうした授業方式の激変の中で、教育の質を維持するために、教員それぞれが工夫と苦闘を重ねてきたことが理解できる。

回答の集計結果、自由記述の内容(抄録)を以下に示す。今後の授業運営の参考にしていただきたい。

①授業で使用している教材・機器

表V-1 使用している教材・機器（単位：授業数、複数回答可）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
人文学部 166	47 28.3%	106 63.9%	50 30.1%	21 12.7%	0 0.0%	92 55.4%	66 39.8%	8 4.8%	153 92.2%	12 7.2%
増減ポイント	+1.9	-26.8	+5.3	-19.9	0.0	+26.7	+28.9	-2.2	+71.3	+4.9
文化学科 120	29 24.2%	83 69.2%	38 31.7%	17 14.2%	0 0.0%	66 55.0%	56 46.7%	6 5.0%	113 94.2%	9 7.5%
増減ポイント	-2.2	-22.3	+9.1	-17.9	0.0	+28.6	+35.4	-3.5	+78.2	+4.7
法律経済学科 42	17 40.5%	23 54.8%	12 28.6%	4 9.5%	0 0.0%	22 52.4%	10 23.8%	2 4.8%	36 85.7%	3 7.1%
増減ポイント	+14.4	-32.2	-6.2	-25.3	0.0	+13.3	+15.1	+4.8	+42.2	+7.1

注1) 表中の1～10は次の通り。1.教科書、2.プリント、3.参考書、4.ビデオ・DVD、5.OHP、6.パワーポイント、7.パソコン（6以外）、8.実物または模型、9.Moodle、10.その他  
注2) 人文学部の数値には、両学科に所属しない教員の授業を含む。

項目 10「その他」の記載内容（類似内容（複数回答）については要約）

文化学科

オンライン公開されている歴史的資料の画像／PDF化した関係論文、史料、データ類／インターネットで関連するHPを提示／iPad（Zoomで、講読テキストのPDFファイルを画面共有し、直接書き込みながら指導を行った。）／Zoomによる画面共有／オンライン上の複製画像／HP

法律経済学科

Zoom／Zoom講義のために、液晶タブレット（資料手書き記入用）を用いている／stream

②取り入れている授業方法

表V-2 取り入れている授業方法（単位：授業数、複数回答可）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
人文学部 166	95 57.2%	22 13.3%	0 0.0%	2 1.2%	9 5.4%	78 47.0%	62 37.3%	54 32.5%	148 89.2%	39 23.5%	17 10.2%
増減ポイント	-0.9	-18.5	-4.7	-0.4	+3.8	+7.5	+5.5	+8.5	+67.5	+1.8	+4.0
文化学科 120	78 65.0%	18 15.0%	0 0.0%	2 1.7%	4 3.3%	62 51.7%	46 38.3%	35 29.2%	110 91.7%	24 20.0%	9 7.5%
増減ポイント	-0.1	-16.1	-2.8	-0.2	+2.4	+8.3	+3.4	+4.7	+74.7	+2.1	+3.7
法律経済学科 42	13 31.0%	3 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	5 11.9%	12 28.6%	12 28.6%	17 40.5%	34 81.0%	14 33.3%	8 19.0%
増減ポイント	+4.9	-27.7	-13.0	0.0	+7.6	+6.9	+11.2	+18.8	+37.5	-5.8	+1.6

注1) 表中の1～11は次の通り。1.学生を指名する、2.ビデオ・DVD、3.現場見学・観察、4.実習・実地調査、5.ディベート、6.ディスカッション、7.（学生による）プレゼンテーション、8.リアクション・ペーパー、9.Moodle、10.小テスト、11.その他  
注2) 人文学部の数値には、両学科に所属しない教員の授業を含む。

項目 11 「その他」の記載内容（類似内容（複数回答）については要約）

文化学科

中間レポートを課している／毎回のテキスト範囲について、レジュメ担当者以外に「質問票」の提出を求め、その活用により授業を進行している／ミニレポート／その回の授業内容に関連する質問に記述式で答える課題／zoom を利用／zoom のブレイクアウトによるグループ学習

法律経済学科

学生作成のレジュメ／任意提出のレポート課題／ゲストをお招きして、講義関連分野について話してもらう／インターネット、グーグルマップ、RESAS、外部講師による講義／レポート／宿題による試験

③試験・レポートの返却

表V-3 試験・レポートの返却（単位：授業数）

	全員に返却	希望者に返却	返却しない	試験・レポートを課していない
人文学部 166	37 22.2%	26 15.7%	66 39.8%	37 22.3%
増減ポイント	-4.2	-9.1	+8.0	+5.2
文化学科 120	23 19.2%	20 16.7%	47 39.2%	30 25.0%
増減ポイント	+0.3	-12.5	+5.2	+7.1
法律経済学科 42	10 23.8%	6 14.3%	19 45.2%	7 16.7%
増減ポイント	-37.1	+10.0	+23.5	+3.7

注) 人文学部の数値には、両学科に所属しない教員の授業を含む。

④学生の独習の意欲を向上させるための工夫（抄録、類似内容（複数回答）については要約）

文化学科

- ・そこそこ長いレポートを二回課して主体的な学習機会を確保するとともに、一回目のレポートの優秀なものを授業のなかで紹介して受講者の学習意欲を高めようとしている。
- ・授業に多く出席していれば質の高いものが書けるように、レポート課題を工夫した。
- ・リレー形式の授業であり、受講生が多様な学問分野に興味を持つようにしむけるため、初回の授業が始まるまえに同じテーマの事前レポートを受講生に取り組みせ、テーマへの関心を高めたうえで授業を受講させた。また、今年度中のゼミ選びに資する授業であるため、教員と受講生が ZOOM やメールでやり取りする機会を設けた。
- ・卒論研究の前提となる視点や方法を習得するために、重要なテキストの輪読とグループワークを組み合わせて実施した。
- ・参考となる資料を紹介している。

- ・小テストで学習状況を確認している。遺跡や遺物のスライドを見せて理解を助けている。
- ・全員が共通のテーマに取り組み、個々の問題意識と理解度を細かくチェックしている。
- ・教科書に出てきた資料の複製本や画像、古典的論文を紹介している。
- ・オンラインで利用可能な教材や資料、そのリンク集を紹介している。
- ・課題を提示し、次の時間に解説する形で関心を高める。レポートの添削を繰り返す。
- ・次週テキストの範囲を指定し、事前学習（下読み）を課している。Moodle の質疑応答を行い問題意識の発掘につとめている。
- ・宿題として「質問票」の提出を課している。
- ・毎回授業の感想・質問を求める。
- ・授業で扱うテキストだけではなく、絶えず Further readings を授業内で紹介している。
- ・発表者には課題テキストに関し、自分なりの疑問点を挙げてくるよう促している。発表者でない受講者も、議論に参加できるよう、必ず事前にテキストを読み込んでくるよう指示している。
- ・毎回講義毎に、授業の大筋を理解していれば回答可能な程度の問い（授業中に最低 1 回、授業後に 1 回）を提示して回答させ、聞くだけで終わらず考えることを促している。
- ・毎回提出された課題に対して、Moodle 上でコメントを付けている。
- ・授業中に問題を出して解答させ、その内容を全員で確認している。また、Moodle に毎回課題を提出させている。
- ・リアクションペーパーでのコメント、質問への反応は、授業の最初に全員に共有して行っている。
- ・ミニレポートで学修状況を確認している。
- ・毎授業、学生に研究テーマの進捗状況を確認している。
- ・参考図書を紹介している、Web ツールを利用している
- ・事前課題を毎回授業の前日までに、moodle の所定フォーラムに投稿させる。翌日の授業はその内容を参考にして、論点整理とグループディスカッション、グループ発表を行う。
- ・課題は主に毎週のリアクションペーパー（文学作品を読んだのもの）なので、学生にはそれを Moodle のディスカッションボードに書き込ませ、記録に残させている。
- ・毎回小テストまたは論述課題を与え、採点をし、その累積点を総合評価としている。
- ・論文作成のために、小グループを組織し、グループ内で相互に相談できるようにした。
- ・毎回リーディング課題を出し、各自のプロジェクトにピアレビューをさせている。
- ・学期中に小課題を 4 回実施した。期末レポートの予定テーマを事前に提出させ、教員が確認した上で、学生相互に内容についてグループディスカッションを行って意欲を高めた。
- ・成績評価の方針を明確に定め、早期に学生に周知した。
- ・Moodle のフォーラムを活用して、各学生の発表準備の状況を共有するようにした。
- ・レスポンスペーパーにより学習状況を確認している
- ・学生の関心に応じて、学習内容を調整した。
- ・単元が終わる度に課題を与えている。
- ・毎回、次の授業のための資料を早めに Moodle に上げて、予習を促す。

- ・演習なので、テキストのレジュメ作りを全ての学生に課している。
- ・課題（授業で輪読するテキストの予習とは別のもの）を毎週あらかじめ用意し、添削して返却。学生の通信環境を考慮して Zoom 授業は 60 分で切り上げ、残りの 30 分でこの課題に取り組ませた。
- ・卒業研究に関わる授業なので、受講者の発表が終わると、正規時間外に個人ゼミを実施した。
- ・全員が共通のテーマに取り組み、個々の問題意識と理解度を細かくチェックしている。
- ・全員に複数回の発表を課している。異なる視点から一人一人きめ細かく助言し、計画的な学習に努めさせている。
- ・オンラインで利用できる資料やデータベースを紹介している。
- ・講義内容の質を高める。
- ・現物の調査実習。参考文献等の紹介。新たな課題の提示など。
- ・レジュメを担当する学生以外の出席学生に対して、事前に質問票の提出を求め、テキストの精読を促している。
- ・全員に、題材となるテキストに関連する事項の下調べや、疑問点の提出を課している。
- ・映像資料を用いている。
- ・予習用の資料として授業内容に関連する文学作品・論文を紹介し、復習用には授業と予習をふまえたコメントをする課題を毎週出している。
- ・毎回、受講生全員の状況を確認し、アドバイスをする。
- ・最近の話題、社会的な関心事を取り上げる。
- ・1人ずつのテーマを設定して、学生が調べて文章にまとめる。それを授業で発表する。
- ・理解を確認する質問をしながら進める。
- ・ブレイクアウトセッションを用いたディスカッション授業にしている。
- ・ゼミ論文を作成するプロジェクトで、一次原稿を提出させ、ピアレビューを活用して修正させるやり方を取っている。

#### 法律経済学科

- ・参考文献を多数紹介している。
- ・レポートにコメントをつけてレジュメに掲載する。
- ・文献の講読において、章ごとに担当を振り分け、担当部分について十分に調べた上で発表するよう指導している。議論の過程で、関連する書籍の紹介をしている。
- ・予習課題と復習課題を課している。小テストで理解状況を確認している。
- ・事前に課題を明示する。ワークシートを作成し、次回までに何を考えればよいか明示する。
- ・任意提出のレポートに、修正ポイントや評価のコメントをつけて返却している
- ・毎回のレポート（およびそれに朱を入れて返却）を通じて学生ひとりひとりに対応すること。
- ・Moodle に毎回、その回の授業の振り返りを入力させている。
- ・授業内で扱ったテーマについて、発展的な書籍・資料を適宜紹介している。



- ・毎回の授業テーマに関連する補足資料・動画の URL を Moodle に掲載し、独習を促している。
- ・オンライン講義になり、非同期型（オンデマンド型）で講義を行った。テキストの解説は、読んだだけではわからないところを中心にし、別途提供した資料とともに、しっかり読み込むような仕組みにした。
- ・毎回、講義前日までにリアクションペーパー（チャットに意見）を匿名で公開するとともに、講義関連の資料（新聞記事等）を読むように働きかけている。
- ・章末問題を解かせるようにしている。
- ・毎回授業後にレスポンスを回収し、質問・コメント等に対してフィードバックを行っている
- ・毎回宿題としての確認テストをしている。Zoom でのチャットや投票を用いて、興味を持ってもらうとともに、知識の確認をする機会を毎回持っている。
- ・学生のグループ討論を、講義終了後も続けて行ってもらうようにサポートするほか、Zoom も複数学生にホストをしてもらい、各グループ内での個別指導を行っている。
- ・レポートの交流
- ・事前・事後学修の内容をレジュメに記載している。
- ・各回の冒頭に前回授業の理解度チェックテスト、最後に当日の要点チェックテストを行い、それぞれ正答・解説を配布
- ・毎回の授業内容と関連させた質問について考えさせている。
- ・キャリア支援センターの企業説明会などと連携している。
- ・学生の報告準備の際のアドバイス、報告後も次回へ向けてのコメントを行っている。
- ・毎回 moodle 上で、予習の問題を提示し、答えさせる。授業終了後、その回の授業内容に即したテーマを設定し、復習として moodle への書き込みを促す。
- ・学生間の話し合いを促す。
- ・中間レポートの講評を行っている。
- ・講義内で関連する新聞記事・文献を紹介
- ・ビデオ教材を用いて学生の問題関心を高めるようにしている。
- ・テーマを決めてその報告をさせる。
- ・コミュニケーションペーパーで出てきた質問に対し、参考のウェブページなどを紹介。

#### その他

- ・課題を与えている、興味のある内容を聞き、取り入れている
- ・予習動画を作成し、学習内容の理解は概ね予習でできるようにし、授業ではペアやグループの実践的なコミュニケーション活動を多くできるようにした。
- ・発表の機会を全員に与えたり、小テストで理解の確認を行ったりしている。
- ・毎回異なるテーマに基づく課題を出して、授業で発表させている。

#### ⑤休講について

V. 教員による「授業に関するアンケート」

表V-4 休講回数（単位：授業数）

	0回	1回	2回	3回	4回以上
人文学部 166	142 85.5%	20 12.4%	4 2.4%	0 0.0%	0 0.0%
文化学科 120	104 86.7%	14 11.7%	2 1.7%	0 0.0%	0 0.0%
法律経済学科 42	34 81.0%	6 14.3%	2 4.8%	0 0.0%	0 0.0%

注1) 前期の休講回数は、5月の開講日以降のもの。  
注2) 人文学部の数値には、両学科に所属しない教員の授業を含む。

表V-5 休講に対する措置（単位：授業数）

	補講を行った	補講に相当する措置をとった
人文学部	4 16.7%	20 83.3%
文化学科	3 18.8%	13 81.3%
法律経済学科	1 12.5%	7 87.5%

注) 総数は休講回数1回以上の授業。

補講に相当する措置の記載内容（類似内容（複数回答）については要約）

文化学科

中間レポートを課している／テキストの事前の読解を課している／追加で読むべき文献を指示／読むべき資料を提示／課題にまつわる資料を提示／参考文献を紹介する／授業での発表に向けて学生が準備する／授業の振り返りを課題として出し、成績評価の重要な要素とした

法律経済学科

読むべき文献を指定している／相当負荷がかかるレポート／オンデマンド配信／資料を提示し、直後の回でも説明を行っている／読むべき資料を提示／関連する動画視聴、それに対する小レポートを課している／宿題試験に向けて、講義スライドで復習してもらった

⑥昨年と比べて工夫したこと、改善したこと（抄録、類似内容（複数回答）については要約）

文化学科

・何と言ってもオンラインへの対応。レジュメの事前掲示、授業内でのPPTの提示、ホワイ

トボードを用いた板書などを組み合わせた。

- ・授業のオンライン化に対する対応。担当教員がそれぞれ、moodle に掲示する資料や授業中に提示する資料を新たに作成し、授業に臨んだ。また、例年、授業の一環として行っている研究室訪問をオンライン方式で再現できるように工夫した。
- ・授業のオンライン化のために様々な工夫を行った。とくにグループワークでは、ブレイクアウトセッションを利用してグループごとに学生がディスカッションする時間を十分に取るとともに、それぞれのグループに教員が巡回してアドバイスするように努めた。
- ・Zoom での授業に伴い、授業の時間配分を工夫した。途中で1回程度、腕や肩のストレッチをする時間を設け、オンライン授業受講による学生の疲労を軽減するよう努めた。
- ・オンライン授業による資料利用の制約のため、大学でしか閲覧できない辞書が使えないため、17世紀の辞書を解読しながら使うという手法を取り入れた。
- ・オンライン化に伴うパワポ作成。Moodle の活用。例年以上の丁寧なレポート添削。
- ・飽きさせないように、関連するHPを見せたり興味深い話をするようにした。
- ・従来は授業時間中に発表に対するコメントを言う形をとっていたが、Moodle 導入を機にコメントペーパーの提出メ切を週末までとし、発表自体の時間に余裕を持たせるようにした。
- ・一方的に話を聞かされるだけの講義にならないように、また文学史を遠い世界のことと誤解せぬように、最近の国内外の出来事などに関連させて話すことを増やした。Moodle で提出する形式にしたコメントペーパーはシャイな学生でも雄弁に語ってくれるため、鋭い見解は次回講義の冒頭で匿名で紹介するようにした。
- ・例年と同じ内容の授業を、オンライン化したということでより丁寧に行なっている。やっている側の感覚と、リアクションペーパーからの反応を見る限りでは、例年と同じようにできていると感じている。
- ・レジュメのどこの話をしているのか、丁寧に示した。
- ・データベースの利用方法を授業中に実践しながら教えた。
- ・受講生が多かったので、毎回の発表に対して全員が何かコメントできるように、時間配分に気を付けた。
- ・オンライン授業で十分に理解を深めてもらえるよう、提示する資料に盛り込む内容や表記、ルビについて従来から大幅に見直した。
- ・底本が句読点が無く読みにくい版本のため、授業時には句読点をつけて入力した本文をzoomで共有し、皆でこれを見ながら検討を進めた。
- ・オンライン試験を行った。
- ・オンライン授業のため、新たに毎回の授業の振り返りを意識したスライドを作成し、moodle 掲載した。毎授業の最初に10分程度で解説、クイズを行い、復習チェックした。テストは、課題と合わせて実施し、解答に時間的余裕を持たせた。
- ・オンライン化という点を除けば、それほどドラスティックな変化はなし。とにかくオンライン授業でつつがなく学期が進むことを最優先にした。
- ・復習の時間を増やした

- ・以前からスライドを用いていたが、オンライン授業により板書ができない分、説明順の再検討や内容の更新を行った。
- ・授業の開始すぐ、新型コロナ流行下における時事問題を取り上げてディスカッションを行った。学期末の感想では、それが大変好評であり、学生が現状把握する手がかりにもなったと思われる。
- ・Zoomでの講義のため、学生を指名して主体的に授業に参加可能にしている
- ・Zoomを使用した講義であるため、学生との議論を意識して多くしている
- ・オンライン授業なので、Zoomの調査機能やチャットを利用して学生の反応・理解を確認するようにした。
- ・オンライン授業でプリント配付ができないため、すべての資料をPDFにしてMoodleに上げることになったが、結果的に授業の資料一覧が作成できた。
- ・リアクション・ペーパーを利用して、前回の授業の振り返り・質問への回答に割く時間を昨年度より増やした。
- ・オンラインでの演習だが、顔出ししない学生もいて、学生の様子がわからないため、参加者全員の意見を聞くと共に、分からない点はないかなどをいつもよりも丁寧に学生に聞きながら、演習を進めていった。
- ・プリンタを持っていない学生に配慮し、1週間前には資料を置くようにした。一緒に解いた文法練習問題の解答はすべて授業後にアップロードした。対面授業のときよりも頻繁に指名し、喋らせるようにした。30分ぶんの「課題」も、やる気が失せないように毎週全員にフィードバックを返した。外国語文献の輪読をさせるにあたり、テキストのPDFを画面共有しapple pencilで書き込んでいくという手法をとったが、これは対面授業よりはるかに指導しやすかった。
- ・今年度はmoodleの利用を前提とする授業になったので、報告者のPPT資料を事前にアップすることで受講者同士の質疑の活発化を図った。
- ・オンライン授業に変更になったため、実物を手に取って見せられない分、オンライン上の複製画像やデータベースを多く紹介し、Zoomの画面越しでも現物を見せる機会を多くした。
- ・受講者数が少なく、またコロナ禍により学生の図書館利用が思うように出来ないということから、発表レジュメとレポートの具体的な作成方法の指導に重点を置いた。
- ・毎回テーマを変え、知的刺激を与え続ける。
- ・PowerPointを使用する方法を変えたため、ビジュアル資料を多く提示し、また理論的なことを説明する際、理解の補助となるよう積極的に図示を行った。
- ・インターネットですぐに史料読解上わからないことを調べ、その場で調べ方を教えた。
- ・オンラインによりコミュニケーション不足にならないよう、毎回、受講生全員に声がけした。
- ・オンライン授業で小テストを独自に作成し、その解答解説も行った。パワポ資料の掲載により、学生に復習の強化を求めた。
- ・オンライン上で全てプレゼンやフィードバックができるように、時間配分を厳格にし、事

前の課題提出を求めた。

- ・予習しやすいように、読む量を減らす。
- ・比較的読みやすい文章を選んで読む。

#### 法律経済学科

- ・オンライン形式なので、詳細なパワーポイント資料を作成した。
- ・資料のページ数を少なくし、かつ間に休憩時間を2回設定した（オンライン授業のため）
- ・zoomでの演習となったが、昨年度比べて特に変えた点はない。
- ・小テストで学生の理解状況を確認することができた。
- ・グループ用のワークシートを作成し、グループ全員で共有することができるようにした。
- ・Moodleのメッセージ機能を利用して、授業時間中に学生のペースで質問ができるようにした。
- ・板書による議論の整理ができないため、学生が作成したレジュメをZoomで共有しながら学生による議論をその場で赤字・青字等で書き込むようにした。書き込んだレジュメは発表した学生に送付した。
- ・授業回数が減ったこと、教材で学生が自習する割合が増えたことから、これまでの授業内容を大幅に見直し、最低限理解すべき点に絞った内容に変えた
- ・研究室にふらっと立ち寄ることができなくなった学生が教員に声かけやすくするためにメールのやり取りを増やすなどした。
- ・これまでは活用していなかったMoodleを通じて、授業のレジュメに加えて様々な関連教材を提示するようにした。
- ・オンライン授業（オンデマンド型）移行にともない、リアクションペーパーの回数を増やし、質問にはより丁寧に回答することを心がけた。また、時間の関係上、いつもは口頭で済ませざるを得なかった部分について、新たにPPT資料を作成したことにより、図表などで示すことができた。
- ・ZOOMでのオンライン講義になったため、毎回ブレイクタイムを設定し、講義内容に広がりを持てるような内容を補足した。また半分以上の講義で、投票タイムも活用し、学生の講義での一体感を持てるような工夫も行った。
- ・Moodleを使い、学生の学びの進捗状況、講義のサポート方法として用いた。それによって、学生との個別対応を行った。場合によってはメールも用いて、質問等に答え、疑問の解消に取り組んだ。
- ・遠隔講義でディスカッションを行ったため、プライベートな状況も十分配慮し、講義を行った。Moodleを十分に使いこなすことができ、遠隔による進捗状況の確認、理解度の有無についての課題を補うことができた。今後も、利用していきたいと考えている。
- ・動画編集を工夫した。
- ・ワークシート作成を工夫した。
- ・例年通り、受講者が関心を持つ企業・団体からのゲストスピーカーを招いた
- ・学生の要望を取り入れて対面・オンライン授業を併用した。

- moodle への書き込みについて、Q&A フォーラムを用いて、自身が回答するまで他人の回答が見られないように設定した。
- ゼミ時間外にも Zoom で集まって議論したりする機会を設けた。
- オンデマンド型授業の方法を採ったため、できる限り理解不足が生じないように、並行して Zoom での質問タイムを複数回設けた。
- できるだけ新しいデータを講義資料に取り入れた。

#### その他

- 授業の資料を Moodle で事前に提供し、予習しやすくした。
- 予習動画を作成した。資料提供、課題・レポート提出、ミニッツペーパー（学生一人一人とのやり取り）などを moodle で行った。
- ブレイクアウトルームを行き来できる ZOOM の機能を利用し、コース後半から普通のグループ学習をジグソー学習法に変え、学生一人一人が毎回各グループで発表できるようにした。
- ZOOM にゲストを招いて、質疑応答の機会を設けた。



## VI. 大学院に関するFD活動



## VI. 大学院に関するFD活動

人文社会科学研究科における大学院教育は、学部教育との間で目的、体制、および規模の点で大きな相違があることから、学部教育とは別個のFD活動を行う必要がある。また、一口に人文社会科学研究科とはいっても、その内部でそれぞれの分野ごとに、院生および教育・研究のすすめ方等において相当の差異が存在する。FD活動を進めるにあたっては、このことも意識してとりくまれないかぎり、その効果が適切に発揮されることはない。

本年度の大学院教育のFD活動としては、毎年実施している大学院生による「授業のためのアンケート」、本大学院の組織的な授業である「三重の文化と社会」についての報告会と修士論文発表会に参加した教員へのアンケート、そして大学院教育に関するFD研修会を行った。

### 1. 大学院生による「授業改善のためのアンケート」

大学院生によるアンケートは、従来は科目ごとではなく、当該年度に履修した全科目について総合的な意見を問うものであったが、Webアンケート導入にともなって学部生と同様の各科目についてのアンケートを入力することになった。しかしながら大学院生の場合、履修者が一桁である科目が大半を占めることから、匿名性の確保や自由な意見を述べる機会を確保するためには、本来的には学部生とは異なるアンケート形式が望ましく、この点は全学的にWeb入力となった授業アンケートに関する今後の検討課題となった。なお、今年度のWebアンケートによる大学院生の回答数は前期が36名（回答率は27.3%）、後期が0名であった。

昨年度のFD報告書では、アンケートのデータ結果の掲載を見送りつつも、「大学院教育の実態とアンケートのシステム」を対応させること、とくに大学院生による「授業アンケート」に限っては、「自由回答欄を主体としたアンケートを別途実施するなどの工夫が必要である」とされた。しかしながらこのことについても、課題として今後に見送らざるをえない。

### 2. 「三重の文化と社会」報告会、修士論文発表会への教員の参加

大学院教育は基本的に指導教員との個別具体的な指導のもとで行われるが、本研究科では地域文化論専攻、社会科学専攻を横断し、一般の院生、社会人院生、および留学生院生と通じて地域連携型授業として「三重の文化と社会」という科目を修士1年次生の選択科目として開講している。また、修士論文発表会は、大学院教育の成果発表として公開で開催してきた。本年度は大学院FDとしても「コロナ禍と大学院教育」として、豊福裕二氏（主に「三重の文化と社会」について）および岩崎恭彦氏（主に研究指導（一般学生および社会人学生それぞれの特質）について）を開催した。そして大学院FD活動として、「三重の文化と社会」の学内報告会および現地報告会、ならびに修了年次生による修士論文発表会への参加を教員に促した。

① 出席教員について

まず、3回それぞれの出席教員の内訳は以下の通りである。( )内の数字は、発表者の指導学生数を示す(内数)。

・「三重の文化と社会」学内報告会 地域文化論専攻 2名(0名)、社会科学専攻 5名(3名)

・「三重の文化と社会」現地報告会 地域文化論専攻 2名(0名)、社会科学専攻 5名(2名)

・修士論文発表会 地域文化論専攻 10名(3名)、社会科学専攻 1名(0名)

\*合計：地域文化論専攻 14名(3名)、社会科学専攻 11名(5名)、計25名(8名)

昨年度の「三重の文化と社会」の出席者は合計で17名であったことに照らすと、今年度は14名と減少している。コロナ禍の影響が大きく、いずれも遠隔での開催となったことも影響しているものと思われる。また発表者は全て社会科学専攻の学生であった。現地報告会は、大学院生の研究を地域住民に向けて発表するだけでなく、大学院生を通して大学院における研究成果を地域と共有する重要な機会であるとともに、大学院生の研究状況を大学院全体として共有する貴重な機会でもある。これらのことに照らして、指導院生の有無にかかわらず、教員が積極的に参加する方向でのとりくみを追求する必要がある。修士論文発表会は、昨年度は中止となっており、一昨年度の出席者は12名であったため、大きな変化は見られない。なお今回の修士論文発表会の発表者は、地域文化論専攻の学生のみであった。

② 発表内容について

大学院生の発表内容について、「レベルが高い」から「レベルが低い」まで5段階に分け、教員に感想を求めた。「三重の文化と社会」は、まず学内報告会が行われ、そこでの質疑応答ならびに指導を踏まえて現地報告会が実施される。指導教員は、学内報告会と現地報告会の際に、地域住民に向けて発表するレベルになるように、集中して大学院生の指導を行うことが少なくない。この場合、通常は、学内発表会よりも現地発表会の方が高評価となる傾向にある。しかしながら今回は、それが逆転した。今回は、オンラインでの開催としたことがその要因と考えられる。

「三重の文化と社会」は大学院1年次に履修する院生がほとんどであること、一昨年までのフィールド決定(たとえば「鳥羽市」というフィールド)が先行したスタイルから、参加者の研究希望を踏まえてフィールドを決めるという変更が行われたものの、社会人院生や留学生院生など、研究時間の捻出に苦心する者や大量の日本語に接する研究には未だ不慣れな者もいるため、指導院生に十分な研究報告を行わせる上での水面下の教員の苦心は小さくない。「三重の文化と社会」が求める研究水準に達することが容易ではない大学院生の指導をその指導教員だけに負わせてよいものなのか、今後も継続的なとりくみとして課題である。

修士論文発表会については、全体的に「レベルが高い」と評価されている。修士課程の研

究全体をまとめた修士論文が相応のレベルに達していることを示している。

表 発表内容について

	レベルが 高い	ややレベルが 高い	どちらとも いえない	ややレベルが 低い	レベルが 低い	回答 総数
「三重の文化と社会」学内	0 0%	2 29%	4 57%	1 14%	0 0%	7 100%
「三重の文化と社会」現地	0 0%	1 14%	5 71%	1 14%	0 0%	7 100%
修士論文発表会	6 55%	3 27%	2 18%	0 0%	0 0%	11 100%

### ③ 発表の形式について

学内報告会で、「どちらともいえない」「やや整っていない」とされた報告が、現地報告会では「やや整っていた」レベルまで引き上げられた経緯がうかがわれる。このことから、学内報告会と現地報告会の間に、かなりの指導が手厚く行われたことが推測できる。修士論文発表会では、ほとんどの教員が「整っていた」と高い評価を与えている。

表 発表の形式について

	整って いた	やや整って いた	どちらとも いえない	やや整って いない	整って いない	回答 総数
「三重の文化と社会」学内	1 14%	3 43%	1 14%	2 29%	0 0%	7 100%
「三重の文化と社会」現地	3 43%	3 43%	1 14%	0 0%	0 0%	7 100%
修士論文発表会	10 91%	1 9%	0 0%	0 0%	0 0%	11 100%

### ④ 質疑について

学内報告会では、全て「どちらともいえない」とそれ以上の評価であったが、現地報告会では全体的に評価が下がったようである。やはりオンラインでコミュニケーションを図ることの難しさが影響していると思われる。修士論文発表会については、「充実していた」という評価が多い。

表 質疑について

	充実して いた	やや充実 していた	どちらとも いえない	やや充実して いなかった	充実して いなかった	回答 総数
「三重の文化と社会」学内	2 29%	2 29%	3 43%	0 0%	0 0%	7 100%
「三重の文化と社会」現地	0 0%	3 43%	2 29%	1 14%	1 14%	7 100%
修士論文発表会	8 73%	2 18%	1 9%	0 0%	0 0%	11 100%

## ⑤ 「三重の文化と社会」のあり方についての自由回答

(学内報告会)

- ・継続は力なり。よい企画です。
- ・研究対象の度会町の熱が低い印象を持った。
- ・もう少し地域担当者の熱意が高いのかと思っていた。
- ・いつも参加されている先生方のとても親切なご指導に、頭が下がる思いです。
- ・院生どうしの意見交換や議論があるとよいと思います。
- ・今年はイレギュラーな年なので、なかなか対応が難しかった。
- ・趣旨としては良い授業だと思うので、院生がもう少し取ってもいいかなというような形を整えることができればよいとは思いますが、具体的にどうしたらよいかは難しい。修士が二年間しかない中で、修論に直結するテーマの学生であればいいが、そうでない場合はなかなか。
- ・2021年もオンラインベースで行わざるを得ない状況が予想される中、現地調査の効率的な進め方について検討する機会があると良いと思いました。
- ・コロナ禍に翻弄されつづけた1年でした。来年度も少なくとも前期はこのような状況が続くとなると、やり方をいろいろと工夫する必要があると考えています。

(現地報告会)

- ・質疑応答が不十分な印象を受けた。Zoomでの開催の制約が大きかったことが原因と思われる。
- ・必修にし、大学院教育もコースワークを意識したものにするのを検討したらどうか。
- ・リモート体制の中における大学院生への指導体制を拡充する必要があると改めて思いました。とりわけ今回は社会科学分野からの調査報告が多かったのですが、分析・考察のための資料・文献の閲覧が限られた環境の中で、院生たちの負担も大きかったのではないかと思います。
- ・また、新型コロナウイルスに限らず、フィールドに入ることが難しい事態が今後起こり得ることを想定し、調査先である現地の方々との連絡及び協力体制を中長期的なスパンで整えていくことが重要と考えます。



## ⑥ 「三重の文化と社会」の報告会についての自由回答

(学内報告会)

- ・このままでいいと思います。
- ・もっとたくさんの先生が参加されるようになるとよいと思います。
- ・今回は特に通常の授業と同じ Zoom 開催なので、発表会という緊張感が出なかったのは致し方ないかと思います。
- ・より多くのオーディエンスを集める工夫をする場合は、「三重の文化と社会」経験者の院生など、進行補助役の確保が必要と考えられます。
- ・毎年ではありますが、もう少し多くの先生方に聞いてもらえればと思います。

(現地報告会)

- ・より多くの教員の参加が望ましい。
- ・来年は現地で出来ることを願っています。
- ・今回、現地の度会町役場の方々には、オンライン会議設備等が十分とは言えない状況の中でご参加いただいております、発表者からの声が十分に届かなかったという声も一部ありました。
- ・発表者の中には、感染防止のため自宅で参加した者もありますが、ネットワーク接続や音声設備に関しては依然として不安が残ります。2021 年度も引き続きリモートワークが推奨される場合、大学外へ発信する報告会等では、やむを得ず会場に来られない発表者等への配慮も検討する必要があると思いました。
- ・ハイブリッドも含むオンライン形式での初めての開催となりましたが、大きなトラブルもなく終わられたことは大きな成果であったと思います。また、指導教員に限らず、多くの先生方にご参加いただけたことは、オンライン形式のメリットであると思いました。

## ⑦ 修士論文／修士論文指導のあり方についての自由回答

- ・現在は複数教員が指導する体制になっていて、A さんの場合は三人とも指導教員が来ていたのですが、他も同じだったのでしょうか。集団指導の成果がわかる感じだといいです。
- ・修士論文のテーマの範囲をどこまで絞るかは難しい問題だなあと思いました。

## ⑧ 修士論文発表会のあり方についての自由回答

- ・今年はオンラインでのため、観客からの拍手が届きにくいと思った。1 位になった学生からは、受賞の感慨を一言語ってもらおうとよいと思う。
- ・修士論文そのものの質と、発表の質は別の話なので、論文審査後、論文の内容をいかに聴衆にわかりやすく伝えるかというプレゼンの指導もより充実させるべきかと思います。パワーポイント作成の段階で差が付いているように思います。
- ・レベルの高い発表会でよかったです。オンラインで問題なかったと思います。院生なども教室に集まるより参加しやすかったのではないのでしょうか。

・特に問題はないと思いますが、せっかくの機会なのでもう少しやりとりがあってもいいのかなあと思いました。

#### ⑨ 大学院教育に関する意見

- ・学外の方が参加できる発表会は、大学院・学部学生にとって良い経験になるので有益です。
- ・指導している学生さんが出てきたので、結構レジュメを作ったりするのは大変だなあ、と思った。(自分もレジュメ作成を課しているのです。)
- ・修士を取得して就職というルートが社会的にあまり存在していない状況では、学生が入ってくることもないので難しいですね。自分の指導学生が大学院に行きたいと言ったら、もし研究を続けたいのであれば他の大学の院を進めます。とはいえ、正直、研究者を目指していない大学院生をどのように教育するのかについて、ビジョンがありません。
- ・来年度は定員割しそうで、これは新型コロナウイルス感染症のためしょうがないでしょうが、再来年度は定員充足がまず必要だと思います。

#### ⑩総括

「三重の文化と社会」報告会の当面する対症療法的な課題は、当該科目を履修した学生を指導していない教員の参加を増やすこと、そして、本学が重視している地域とのつながり等の点で、地域住民のさらなる参加に向けての働きかけを行うことを通じて、大学院生の研究内容を伝える機会を増やすことであろう。この場合、以下に大学院生個人々人に対する個別指導が基本であったとしても、研究対象が異なる他の大学院生と同じ科目を履修する機会を通じて、大学院生どうしの知的交流を促進する機会となるのであり、また、みずからの研究内容を他者にわかりやすく伝える訓練としても有意義である。さらには、そこに他人の目をはさむことを通じて、みずからの研究を客観視する機会となることも期待されうるのである。

後者については、とりわけ「現地報告会」を人文学部・人文社会科学研究科の研究内容を地域の住民と共有する機会として戦略的に位置づけ、そのための宣伝の努力を抜本的に強化することも必要であろう。

今後も、「三重の文化と社会」の履修者数を維持するとともに、大学院全体でこの科目にとりくむことが重要である。

修士論文に関しては、全般的に肯定的な評価が多く得られたことから、一定の水準が維持されていると見なされる。今後は大学院教育と論文指導をより組織的に進めることも重要と思われる。

### 3. 大学院に関するFD研修会

本年度も昨年度に引き続き大学院教育についてのFD研修会を11月に実施した。本年度は喫緊の課題として、コロナ禍における大学院教育について、シンポジウム形式で実施した。

制約の多いコロナ禍という特殊な状況における高等教育のあり方について、大学院にお

ける「フィールド系の授業」「研究指導（特に社会人学生）」の観点から、情報共有したい。大学院のみならず、学部学生のゼミ指導や卒論指導に応用できる話題と考えられる。

日時：2020年11月11（水）14:00～15:00

テーマ：コロナ禍と大学院教育

パネリスト：豊福裕二氏（主に「三重の文化と社会」について）

岩崎恭彦氏（主に研究指導（一般学生および社会人学生それぞれの特質）について）

【司会（川口）】 時間になりましたので、今から11月大学院FD研修会を開始したいと思います。今回のテーマは「コロナ禍と大学院教育」ということで、大学院FDですので大学院をテーマにいたしますが、豊福先生と岩崎先生にパネリストとしてお話を各15分程度していただく予定になっております。その後、質疑応答というか、意見交換というかたちで皆さまから意見を頂戴したいと思います。

大学院のFDでありますけれども、豊福先生と岩崎先生にそれぞれ授業の面、とくに豊福先生のほうは「三重の文化と社会」のお話ですが、いわゆるフィールドワーク的なことをなさる先生が、このコロナ禍においてどういう状況にあったかという視点で。前回の9月の時はオンラインということを中心にしましたが、今回はオンラインというよりコロナ禍、つまり対面ができる状態でも制約があったり、いろいろ調べる調査に関しての制約が起きたと思います。そういったオンライン以外の側面で、コロナが一体どういう状況にわれわれを置いたかという観点。それから岩崎先生のほうには社会人教育などですね。少人数の学部生のゼミとかにも応用が利くような話かと思っておりますので、ぜひ皆さまの授業の今後のものに活用していただきたいということで、シンポジウム形式でやりたいと思います。

早速ですけれども、豊福先生のほうからお話をお願いしたいと思います。画面共有でお願いしてよろしいでしょうか。あとはMoodleのほうにも上げてありますので、先生方のほうでダウンロードしていただいてもいいです。私のほうはミュートにいたします。

【豊福】 「三重の文化と社会」については、昨年もお話をしたところなんですけれども、今年は「コロナ禍と大学院教育」ということで、話題提供というふうにいわれたので、再度お話をしたいと思います。「三重の文化と社会」についても、ご存じない先生もいらっしゃるということなので、最初に少し概要をというふうなリクエストでしたので、ちょっとだけ昨年もお話をした話ではありますけど、ざっと科目の紹介を少し最初におきたいと思っております。

2020年度大学院FD研修会

コロナ禍と大学院教育

「三重の文化と社会」について

豊福裕二

MIE UNIVERSITY

この「三重の文化と社会」という科目ですけれども、これは2001年度の大学院改革、夜間開放と社会人の受け入れ開始にともなって新設された科目です。地域文化論と社会科学の両専攻に共通する、加えて一般院生と社会人院生、両方に共通する科目として設置されたものです。当初は2単位の科目でした。

科目の目的としては、地域文化論と社会科学専攻のそれぞれの院生の専門を生かして、三重県地域の文化と社会の特色を明らかにするという事で、県下の市町村から1つをフィールドに選んで、その地域について受講生が研究を進めて、それを発表していく、そういう科目としてつくられたものであります。

これまでの対象地域ですけれども、合併前の香良洲町から始まりまして、このようなかたちでこの間ずっとやってまいりました。今年度が度会町、伊勢志摩エリアというかたちでやっているということです。けっこういろんな市町をやってきましたが、まだ南のほうとか、北のほうの面積的に小さい市町のところはまだやっていないという感じになっています。

どういうふうに講義を進めているかということなんですけれども、これは両専攻から1名ずつ計2名の教員が担当するという事で、今年度は私と深田先生とで担当しております。先ほどいいましたように、社会人と一般院生合同ということですので、主に夜間を中心に月1回程度、集中講義というかたちで行っている科目です。

特徴としては、最終的に研究成果をきちんと発表するという事で、1つはまず論文にまとめる。報告書というかたちで論文にまとめるのと、そのダイジェスト版を『TRIO』にも発表するという事。加えて、この報告書にまとめた内容をプレゼンテーションの資料にまとめて、現地で発表するという事ですね。それによって、地域にも研究成果を還元するという事を位置づけてやっております。

1年間の流れとしましては、最初に受講する院生に研究テーマの概要、問題意識を発表してもらって、それにしたがって、最

### 「三重の文化と社会」開講の経緯

- ・2001年度の大学院改革(夜間開講、社会人の受け入れの開始)に伴い新設。
- ・地域文化論専攻、社会科学専攻の両専攻、および一般院生・社会人院生に共通の科目として設置(当初は2単位)。
- ・当初のシラバス

「三重の文学・思想・社会・地理・環境、地方制度・地方自治・地域産業と経済などを総合的に考究し、三重県地域の文化と社会の特色を明らかにする。県下の市町村から一つをフィールドとして選択し、その地域についての、受講生の専門分野に即した研究発表を基本とし、複数の教官を交えて討論を行う。」



### これまでの対象地域



### 「三重の文化と社会」講義の概要

- ・地域文化論、社会科学の両専攻より1名ずつ計2名の教員が担当。社会人・一般院生合同による、夜間を中心とする月1回程度の集中講義形式。
- ・最終的に研究成果を論文(報告書/TRIO)にまとめるとともに現地(対象地域)にて研究発表会を開催。

#### <年間スケジュール>

- 4月 研究テーマ(問題意識)発表
- 5~6月 ジェネラルサーベイ(1日程度の予備調査)
- 7~9月 現地調査(現地合宿)
- 10~11月 調査・研究成果報告
- 12月末 報告書執筆
- 1月末 現地発表会/TRIO原稿執筆





初に予備調査というふうなかたちでジェネラル・サーベイという、現地のほうに行って、たとえば市町の担当者の人とか、あるいはいろんな団体の代表の方とかに大まかな話をうかがって、その後は院生がその紹介された人に独自にコンタクトを取ったりして、調査を進めていく。以前は9月に合宿というふうなこともやっておりましたが、最近はやっていませんけれども、院生が調査した内容を発表して、それを何回か繰り返した上で最終的に報告書をまとめる。で、だいたい1月の末ぐらいに現地発表会。ちょっと書き忘れましたが、その予行演習として学内発表会というのも1月にやっています。あと『TRIO』にまとめるという、だいたいそういう流れでやっております。

この間、「三重の文化と社会」に関して、いくつかの改革を行ってきました。1つは、最初2単位で始まったんですけども、かなり院生の負担も重いということもあって、4単位にしたということと、それからフィールドワーク型から始まったんですけども、それだと受講する院生が限られてしまうということもあって、文献志向型という。三重県を対象地域とはしているけど、必ずしもフィールドワークを前提としないというふうなものも履修可能にしたということ。

**「三重の文化と社会」主な改革**

- ・前期「三重の文化と社会Ⅰ」、後期「三重の文化と社会Ⅱ」のセット履修による4単位化。
- ・従来からの、特定の市町を対象とする「フィールドワーク型」に加えて、三重県を対象地域として主に文献・資料を中心に研究を行う「文献志向型」での履修を可能に。
- ・院生の成果論文について、指導教員名を明記(指導教員の役割の明確化)。
- ・対象地域の柔軟化。対象地域をサテライトエリア(年度ごとに変更)とし、フィールド型でも複数の市町から対象を選べることに。
- 同時に、地域拠点サテライト(地域創生推進チーム)との連携を強化。講義の実施経費に対する全学的支援の確保。

MIE UNIVERSITY

それから、担当教員2人だけではすべての専門分野、当然カバーできませんので、指導教員が指導していただくことが前提だということで、論文をまとめた際には指導教員名を明記するということ。

それと最近を対象地域1つの市町だけだと、なかなか院生がそこだとテーマが見つけれられないということもありましたので、最近を対象地域をサテライトエリアに広げて、少し柔軟化しているということと、加えて地域拠点サテライトと連携するかたちで地域創生推進チームの支援も得ながら、予算的にも全学的な支援を得るというふうなかたちで進めているということになります。

以上が概要ですけれども、本題に入りますけれども、今年度ですが、どういうふうに来てきたかということ、対象地域としては伊勢志摩エリアと度会町というふうにしたんですけども、4月は非常に現地も混乱をしていて、今はそれを検討する余裕がないということで、先送りになってしまいました。

しかしながら、待っていてはということで、見切り発車で講義を始めます。最終的に社会科学専攻の6名、最初は人文科学専攻の希望者もいたんですけども、なかなかテーマが定めづらいということで、最終的に6

**「三重の文化と社会」今年度の経過**

- 3~4月 ・対象地域を伊勢志摩エリア、報告会(地域研究フォーラム)の開催候補地を度会町に決定。
- ・度会町に協力依頼を行うも、コロナ対応で検討する余裕がないとのことで返答は先送り。
- 5月 ・見切り発車で講義を開始。今年度の受講者は6名(すべて社会科学専攻/留学生4名・社会人2名)。
- ・ZOOMにて講義を実施。ジェネラルサーベイの実施見通しが立たないため、当面、各自の研究発表を行うことに。
- 6月 ・度会町での報告会開催は確定。ただし現地でのジェネラルサーベイの実施は依然見込めず、研究発表を継続。
- 7月 ・大学の警戒レベルが0.5に引き下げられたことを受けて、ジェネラルサーベイの実施を模索。

MIE UNIVERSITY

名になりました。現在、留学生4名と社会人2名の6名が受講しています。当然 Zoom で講義を進めてきましたけれども、ジェネラル・サーベイというのを本当だったらこの時期にやるんですが、それがなかなか見通しが立たないということで、当面は研究発表を中心にやっというかたちでやりました。

6月には度会町で現地で報告会をするということは了解を得たんですけども、まだジェネラル・サーベイができるかどうか分からないということで、この間はずっと研究発表をしていました。ただ、ご承知のように、7月ぐらいには大学自身のレベルが0.5に引き下げられて、実習とか必要なものはやっというふうな話になってきましたので、じゃああらためてそれをやろうかというふうな模索を始めて、それでいちおう8月、9月ですね。夏休み期間中にジェネラル・サーベイというのをやりました。

社会人の方はそれぞれ志摩と鳥羽でしたので Zoom でやりましたけれども、ただ留学生に関しては、できれば現地を訪問したいということで、当初は度会町のほうも来ていただいていたというふうにいわれていたんですが、ご承知のように三重大でクラスターが発生したという、多分その影響は大きかったと思うんですけども、やはり学生さんに来ていただくのはちょっと遠慮願いたいというふうなことになりまして、担当の方はいいといていたんですけど、町内で検討したらやっぱり難しいということになったということで、結局オンラインでやらざるを得なかったということになります。

その後、そのジェネラル・サーベイを受けて、この間も研究発表をしているという状況で、通常であればここから研究発表とか報告書の執筆等に入って行くということになります。

ただ、そこで、この間のコロナ禍の影響というのをあらためて整理すると、半分愚痴みたいな話にしかならないんですけども、現地の協力体制ですね。開催日が遅れたということもそうですけれども、途中で対応が変わってジェネラル・サーベイができなくなったりとか、対面でできなくなったりとか。あと実は度会町のとくに問題かもしれませんが、自治体のほうが町内ネットワークに接続されたPCだと Zoom に接続できないということで、だから代表のパソコンということで解決……みたいになって、1か所でやるかたちになりましたので、だから遅い。たとえば留学生が4人いたんですけども、それを同時並行でやるとかということが結局できなくて、2日間にわたって別々にやったりだとか、そういうこともせざるを得なかったとい

### 「三重の文化と社会」今年度の経過

- 8~9月 ・ジェネラルサーベイの実施。社会人2名についてはそれぞれ志摩市、鳥羽市に対してZOOMでのオンラインヒアリング、留学生4名については、当初度会町現地を訪問してのヒアリングを計画。  
・しかし、三重大でのクラスターの発生に伴い、現地訪問が困難となり、オンラインに切り替え。
- 10月 ・ジェネラルサーベイを受けた研究発表。

#### <今後の予定(通常の場合)>

- 11~12月 研究発表/報告書原稿の執筆
- 1月 現地発表会

MIE UNIVERSITY

### 授業実施におけるコロナ禍の影響

#### ①現地の協力体制

- ・年度当初の混乱による開催地決定の遅れ。
- ・コロナ禍の拡大に伴う現地の対応の変化。  
→当初予定していた対面でのジェネラルサーベイが中止に。
- ・自治体側でのオンライン対応の制限。  
→庁内ネットワークに接続されたPCではZOOMに接続できないという問題。  
→複数の院生が同時並行でヒアリングを行うことができない。

MIE UNIVERSITY



うことがありました。

それから一番大きいのは、院生の研究上の進める上での制約ということですが、オンラインでジェネラル・サーベイがやらざるを得なかった。一方で複数の地域でオンラインでしたので、複数の地域を訪れなくてもできたという、そういう利点もあったんですけども、なかなか現地に行かないと地域のイメージがつかめないという問題、とくに留学生の場合、いきなり度会町とかいわれても、そもそも現地のイメージがわからないという中でやっている、そういう問題ですね。

加えてなかなか日本語が堪能でない場合に、オンラインでうまくコミュニケーションを取るとするのは簡単ではなくて、そういう制約があったということと、資料に関しても、当然ファイルで送ってくれたりはずるんですけども、送れないようなファイルを現地で見せてもらったりだとか、そういうこともなかなかできないし、パンフレットもらったりだとか、そういうこともなかなか難しいという問題があります。

例年の進め方としては、ジェネラル・サーベイでまず現地と橋渡しをしたら、あとは院生が独自に現地を勝手に訪問して、やりなさいよみたいな感じでやっているんですけども、そのための交通費も計上したりしているわけですが、今回はジェネラル・サーベイが大幅に夏休みになってようやくできたということと、その後、院生単独で行けるかという、それも感染防止の問題があったりしてなかなかできないと。

例年であれば、実は指導教員の先生が現地に行かれるのに一緒に乗せていただいてやっていただくというふうな、サポートをしていただくということもやっていたんですが、今年はそれもなかなか難しいという中で、実は思うように調査が進んでいないというのが現状です。

今後の見通しとしては、ただ10月に入って若干自治体側の制限レベルも下がりましたので、実はうちのゼミでも現地調査していますが、1回調査に行けたりはしています。ただ、この間、まだ第3波とかいわれていますので、間に合うかどうかということはありませんが、可能であれば指導教員の先生の協力も得ながら、できる限りのことはやりたいということですが、非常に今年はそういう意味では大きな制約を受けている状況です。

ということで、ちょっと早口になりましたけれども、次年度に向けての教訓みたいなのは実はあまりないんですけども、ただ、実感しているのは、結局フィールドワーク型の場合は現地に行かないことには始まらないということです。オンラインでの代替は

### 授業実施におけるコロナ禍の影響

#### ② 院生による調査・研究の制約

- ・オンラインでのジェネラルサーベイの限界。やはり実際に現地に足を運ばなければ地域のイメージはつかめない(とくに留学生)。また、必ずしも日本語が堪能でない留学生にとって、オンラインでのコミュニケーションは容易ではない。さらに、資料の閲覧や入手にも制限がある。
- ・通常はジェネラルサーベイで院生と現地との橋渡しを行い、その後は院生が単独で調査を進めるという流れ。今年はジェネラルサーベイ自体が大幅に遅れたことに加え、院生単独の調査も、感染防止が求められるなかで満足にできていない。例年であれば、指導教員の車で現地に連れて行ってもらう、というようなサポートも期待できたが、今年はそれも難しい。

MIE UNIVERSITY

### 授業実施におけるコロナ禍の影響

#### ③ 今後の見通し

- ・10月に入り、自治体側の制限レベルが若干下がり、一部現地でのヒアリングも実施可能に。ただ、感染が再拡大すればそれも困難となる。可能な間に、指導教員の協力も得つつ、できる限りのことをするしかない。

#### ④ 次年度に向けて

- ・フィールド型の研究において、早期の現地訪問は必須。実施可能な条件があれば、できるだけ早期に実施したい。
- ・現在のような制限が続くようであれば、その後の院生独自の調査についても、合同の現地調査など工夫が必要か。

以上

MIE UNIVERSITY

不可能だというふうに思っています。はっきりいいまして。ですので、実現可能な条件があれば、できるだけこれは早くやらないといけないなというふうに思っていますし、院生が単独で行くというふうにいつもしていましたけれども、それもとえば日程を合わせて、マイクロバスで借りて向こうに行くとか、そういうふうなサポートもしないと、なかなか今のような状況が続くようであれば難しいなというふうに思っています。

ですので、フィールド系の演習とかされている先生方は共通して抱えている課題だと思いますけども、オンラインでフィールド的な研究はなかなか代替できないということですね。それをすごく実感しているということになります。

ちょっと早口になりましたけれども、だいたい15分ぐらいだと思いますので、私からはこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

【司会】 豊福先生、ありがとうございました。続きまして、岩崎先生のほうからご報告をお願いします。

【岩崎】 画面共有をさせていただきます。映っていますでしょうか。スライドショー上手じゃないので、このままさせていただきますと思います。自分、法律経済学科の岩崎です。どうかよろしくお願ひいたします。

私はこれまで社会人の院生さん4名と一般の院生5名、指導を担当してまいりました。うち1名の社会人院生の方は、4月からM1として、目下指導中です。そうした経緯もあって、一般学生と社会人学生それぞれの特質を踏まえて、とくに社会人学生を対象とした研究指導を、コロナ禍の現在どのように行っているかということをお話提供せよというふうにご依頼を賜りましたので、報告をさせていただきますと思います。

今日のお話提供ですけれども、まずは1として、ある論文を手掛かりにし、今日のお話が前提とする社会人学生の特質を一般学生との対比で明らかにしておこうと思います。その上で2として、現在のコロナ対応として、社会人学生を対象に行っている研究指導と、それを踏まえた雑感について、これも愚痴っぽい話になるんですが、させていただこうというふうに思っております。

早速、1です。教育学の先生が、修士課程における社会人対象コースが持っている特性について、従来のアカデミックコースの大学院生と比較すると、とくにその論文では修士論文を書き進める上での制約要因が非常に多いというふうの特徴づけていたんですが、これは修士論文に限らずに普通の授業ですね。論文を読み、それをメモにまとめ、レジュメに整理して報告する、そういうアカデミック・スキル一般にも当てはまるような話かなというふうには思っています。

それの上のほうですね。実現可能性ですとか、学術的な意義はともかくなんですが、社会人学生の方の多くは、大学院入学されるその段階から既に自分で研究したい研究テーマについて、固めた上で入学される方が多いということが挙げられています。ただ、その一方で、それを論文にまとめるとなると、非常に制約要因が多い。そのうちの1つが、十分なトレーニングを学部生時代ですとか、あるいは職場でなかなか十分なかたちでは受けていないということに起因して、学術論文の書き方だとか、さっき申しました

ような論文の読み方、レジュメのまとめ方、報告の仕方というようなアカデミック・スキルをあまり知らないということが多いのではないかというのが、1点目として挙げられています。

2点目ですが、自身の研究とか授業の準備に割ける時間が極めて限られているということです。一般の学生ですと、やろうと思えば、ゼミの時間、アルバイトの時間を除けば、すべて研究に割けるという状況にあるわけですがけれども、社会人学生の方の場合には有職者の方が多くおられますので、なかなか難しいところがあるということが挙げられています。

3点目には、学習環境上の制約が大きい。とくに具体的には、ゼミや研究指導の時間以外に所属する研究室で、ほかの大学院生と意見交換したりだとか、研究会や自主ゼミを行う時間的な余裕が乏しいということが挙げられています。現に本研究科においても、院生間の交流機会になかなか乏しい。なかなか社会人の方の場合には、時間的な余裕を持って院生室に来ていただいて、院生室で他の院生と交流するというような機会には乏しいということがいえると思うんですが、後でも申しますように、その一方で交流機会に対しての要望は非常に大きいということも特徴かなというふうに思っています。

今のお話を踏まえて、2番で、ここからはコロナとの関連で私が現在行っている研究指導と、それを踏まえた雑感についてお話をさせていただきます。

現在、大学院前期は上に示しているような2つの授業を実施しました。社会人院生の方を対象に昼間、夜間、2つの授業を開講しましたが、昼間開講したのは、直接私が指導している院生さん1名で実施しました。夜間のほうは、もう1人の社会人院生さんを含めて2名を対象に実施しました。いずれも Zoom によるオンライン同期型の授業で実施しています。

研究指導と呼ぶに値するものは何かというと、下のほうですけれども、先ほど豊福先生からご報告のあった「三重の文化と社会」の授業に私の指導院生の方も履修参加しておりますので、それに付随して事前・事後の指導を行うようにしています。これについては、メールを介した添削と Zoom 上での指導を併せて実施するというかたちを取っております。

まず授業のほうですけれども、大学院の授業は基本的には演習形式で実施されている方が多いかなというふうに推測をしています。そのことによって研究に必要なトレーニングを受けてもらうというのが、大学院の授業の意図するところかなというふうにも思っています。下のほうに示してありますように、文献テキストをこちらから指定して、それをどう読むか、どう分析するかということについて検討してもらっている、そういうのが授業です。

院生の方にレジュメに基づいて報告をしてもらって、その院生の方が報告をされた文献の読み方だとか分析の仕方について、それが妥当かどうかということについて、参加者踏まえて私とも議論をしている、そういうようなかたちで授業を実施しているところです。

このような形式、演習形式で行った大学院の授業は、いちおうかたちとしてはそれな

りに成立していたかなというふうに思いますし、これはほかの先生方から見聞きするところも同様かなというふうには思っています。

それに加えてということですがけれども、先に院生の方、社会人院生の方は時間が限られているという制約をお持ちだということに触れましたけれども、なぜ時間が限られているかという、時間をやりくりしながら職場と自宅との往復、さらに大学との往復というかたちで多忙な日常を過ごしてこられた。これに対して、本年度はオンライン授業になったことで、多くの方は自宅から授業参加をされています。ですので、大学には来ることなく、職場と自宅との往復で済ませられるようになっている、そういうところが挙げられるかなというふうに思います。

教員にとってもこれはけっこう重要で、ちょっと明日が朝早い出発なんだよなというような時には、今までであれば夜間に大学院生の方の授業があるとすると、それまで研究室に張り付いていなければならなかったところですがけれども、自宅から教員のほうも授業を行うということが可能になっている。その面でも時間の有効活用、時間や場所の限界を超える、そういうところのメリットみたいなものは見いだせているのかなというふうにも思っています。

「三重の文化と社会」の履修に付随した事前事後の指導は、添削と Zoom での指導でやっている。なかなか対面でやることができているところには難しさを感じているところですがけれども、下のほうに示してあるように、先ほど豊福先生からもお話があったように、「三重の文化と社会」に関しては、その実施にともなって、コロナの影響で種々の制約が生じているということでしたけれども、院生の方については、自力でその制約を乗り越えられそうなんじゃないかというような面も挙げられるように思います。

研究したいテーマを固めた上で入学する方が多い。それは社会人院生の方のアドバンテージだというようなお話を先にさせていただきましたけれども、この「三重の文化と社会」の授業に関しても、まず先に研究したいテーマがあって、次に、自分のテーマだとどんなフィールドスタディーがこの地域では可能かという順序で、テーマと地域とのマッチングが進められることが多いんじゃないかなというふうに思います。

一般の院生の方、留学生の方の場合だと、まずフィールドが先に示されて、その中で、その地域ならどんなテーマ設定が可能かという順に決まってくることが多いので、土地勘がなかなかないとテーマや内容が決まっていけないということが多いのかなというふうに思うんですが、社会人学生の方の場合にはテーマが先に決まっている。その上で、そのテーマならこの地域で何ができるかというような順序で検討されることが多くて、けっこうテーマも内容も初めからある程度明確なかたちにはなっていたかなというふうな気はしています。

さらにということですがけれども、これはたまたまみたいなどころもあるんですが、今担当されている社会人院生の方の場合には、そのテーマに関連して、独自の土地勘ですとか、独自の人脈をお持ちでした。ですので、けっこう独自にアポイントを取って、電話取材なり、メール取材なり、現地取材なり、先行してされているというような面があ



ります。そういうようなこともあって、さまざま制約があるんだということを先ほど豊福先生からご報告あったところですけども、ある意味、それ乗り越えられるかもしれないというようなことは思っているところです。

じゃあ、いいことばかりかというところ、ここからが愚痴っぽい話なんですけれども、まず第一に十分なトレーニングを受けていないという制約が認められるんじゃないかということに関わってですが、どれだけトレーニングを受けた方かということのをこれまで対面指導を通じて把握できてきた、そういう面があるんじゃないかなということをおもっています。

ちょっと、うまく言葉で十分いい切れないところなんですけれども、具体的にはこんなことかなというふうに思っていて、Zoomだと、今日もそうなんですけれども、顔から上とか肩から上は画面を通じて映るんですけども、ただ手元が映らない。手元で何をしているかということが、私からも見えないし、院生の方からも見えない、見せられない。そういうことで、研究指導する上で重要なところを見落としているんじゃないかなというふうな気が何となくしています。

たとえば、テーマにした文献のどういうところに下線を引っ張っているのかということ、ちゃんと文献を読めてるのかどうかということ、対面だったら手元で見て取るとか、あるいはこちらのいうことをちゃんと重要な点についてメモ取ってるかなというところを確認して、しっかりと伝えられているのかどうかというようなことが読み取れたりだとか、あるいはちゃんと鞆の中、資料整理ができてるかなみたいなところで、うまく知識を構造化できるような方なのかどうかというようなことを見て取ったりだとか、そういう面がこれまで対面指導を通じて、できてきたのかな。

なんだけれど、オンラインになったことによって、なかなか、どういう報告をするのかということについては直接見聞きはできるんですけども、手元から今まで読み取ってきたようなものが見えていないというようなところで、じゃあその方にどういうトレーニングを受けていただくとよいのかということについて、うまく把握し切れていない部分があるかなというようなことを1点思っています。

2つ目の矢印のところですね。図書館を使いたいということのを4月段階からご要望いただいていた、お問い合わせもさせていただいたんですけども、その当時、修士論文執筆に、緊急で必要だったら、その文献を取得するというような図書館利用は可能だということだったんですけども、これからテーマを決めようという院生の方の場合だと、書庫を片っ端から眺めて、どんな本があるのか、そのテーマに関してどんなテーマがあるのかというふうなことを知ったりだとか、実際手元を取って、目次を見て、こんなことが論じられてるのかというようなことを把握したりする、そうやって文献や資料をいかに見つけるかということのトレーニングを積んでいただくということが、この間、図書館利用との関係ではしていただいていたのかなというふうに思うんですけども、今年度はそのだいたいなトレーニングが受けられていない。来年度について、それがどの程度できるようになるかも分からない。そういう申し訳ない部分と、それから、果たしてそれで修士論文書いていただけるんだろうかというような不安を抱えています。

3点目ですね。院生の方の間の交流機会に乏しい。いろいろな情報共有していただくという面と、それから横のつながりを形成していただくというような面ですね。指導の上でも、人生を豊かにしていただく上でも、重要な部分かなというふうには思っているんですけども、今、もともと交流機会に乏しかったところをコロナの影響で一層それが深刻になっている。なんだけれど、交流を持ちたいということに対しての要望は、一般の学生とは比べ物にならないぐらいに大きいということですね。そのことを研究科全体でまずは共有していただいて、研究科として何ができるかということについて、もし可能であれば、院生の同窓会の皆さんともタイアップしながら、いろいろとご検討いただくといいのかなというふうに思っています。

ちょうど時間ぐらいですかね。ありがとうございます。

【司会】 岩崎先生、ありがとうございます。

それでは、お二方のパネリストのご報告を終えまして、それを受けて皆さんのほうで、意見交換、質疑応答などしたいと思います。ご意見のある方はマイクオンか、あるいは「手を挙げる」の機能を使っていただくと、分かりやすいかもしれません。皆さんの場合の事例の報告とか、そういう情報交換の場にもしていただけたらいいかと思います。よろしくお願いします。発言される時には、お名前と、どのパネリストの先生に対するご質問かというようなことを発言してから、お願いしたいと思います。

どなたか。どうでしょうか、大学院生をお持ちの先生方、積極的に何か事例報告なども含めてしていただけると、ありがたいのですが。

【教員A】 Aです。

【司会】 A先生、よろしくお願いします。

【教員A】 私は、自分の共同指導の学生さんではあるんですけども、社会人の方を夜間で1人、授業をやっているんですけども、これはさっき出ましたけれども、時間的にはZoomでできるというのは、余裕が出来てよいということですね。受講生お1人なので、やっていることを関心がある私のお友達というか、他大学の先生をしている人たちなんかも一緒になって、だから結局4人ぐらいでやっているんですけども、そういうところはなかなかZoomだからできる。

大学院生、今、1年生の教科書で、10年近く前、ハーバードのロースクールがセカンドライフというサービスを使って、アバターを教室に行かせてやっているんだとかというのを教科書に出ていたんですけども、たしかに大学院にはZoomを使う利点みたいなのがいろいろあるかなと思って、そのセカンドライフとかでは、マーケティングのクラスなんかで仮想のお店を開店させたりとか、そんなこともできるとかというようなことまで出ていましたけれども、岩崎先生おっしゃった人的交流を、ほかの院生とかとの交流をあまり私の学生さんはそれほど求めていない人なので、そういう点ではけっこうZoomになって、思わぬ利点があったというふうに思っています。でも、たしかに「三重の文化と社会」なんかは、豊福先生もなかなかご苦労が、とても痛感されました。あまり何もなっていませんが、以上です。

【司会】 ありがとうございます。ほか、どなたか何か質問とかコメントありますか。



B先生、お願いします。

【教員B】 報告、ありがとうございました。感想ぐらいなんですけど、私は現在、社会人で長期履修の方の3年目を担当してまして、岩崎先生の対面指導での学生の勉強している手元とか、資料の広げ方とか、そういうのが参考になると聞いて、すごく目からうろこで、その点、3・4年生の演習とか卒論指導にも通じることで、顔が見えていたり、とくに学部生は顔を出さないんですよ、もう。講義に慣れているので、ゼミでも顔を出さずに、こちら個人部屋ということもあつたりするので、全く顔が見えない、音声のみの指導になっておりますので、そこをどうカバーするかというのはすごく大きな課題だなということであらためて感じました。

大学院生の場合は、社会人から3年次編入で三重大で学んでいる方で、一通り大学院の授業も、いろいろな先生のものを取り終わった後でしたので、それほど大きな影響はなく、やはり利点としては、仕事をしながら三重大に通わなくていいということは、すごく、ご本人がやってみて喜ばれていたことです。あとは修士論文に向けて、定期的に必ず週1回なり、最大限時間をきちんと取って指導するというので、対応できているかなと思います。

それからZoomの使い方に関しては、画面共有で複数同時に共有するということを選択して、お互い同じレジュメを使っているけど、私のほうから気が付いたことを書き込んだものとか、学生が提示するとか、そういうのを臨機応変にしてカバーしているということです。以上です。今日はありがとうございます。

【司会】 ありがとうございます。B先生、手を下ろしていただけたら。

ほか、どうでしょうか。質問とかコメントとかでもいいし、皆さんの実践の報告などで、情報交換の場にしていただければと思います。

【教員C】 すみません。Cですけれども、よろしいですか。

【司会】 お願いします。C先生。

【教員C】 私のところの院生、普通の日本史と忍者の院生というんですけども、とくに忍者の院生、けっこう遠いところ、東京とかそういう院生もいて、彼らにとっては、来なくて自宅のできるんで、非常にいいというふうなことをいっていて。同じ演習でも学生の演習だと、やっぱりきめ細かい、いろんな指導とかしなければいけないので、なかなかZoomでやるのも厳しくて、顔見たりとか、いろいろやったりしなきゃいけないんですけど、ある程度、力があると、院生だと、それぞれでいろいろ調べてやってくるので、場所にもかかわらずできるので、その点はよかったかなと、院生にはそう思います。

さらには、ずっとこのままで、もし大学院に来なくていいのならば、もっと遠いところの院生がぜひ三重大の大学院で忍者の院に入りたいとか、さらには外国の人で、日本に来なくていいなら、三重大の大学院で忍者の研究したいという、そういう人も中にはいるということで、やり方によってはうまくできる場所もあるのかなというふうに思いました。以上です。

【司会】 ありがとうございます。ほか、どうでしょうか。もう少し時間があります

けれども。前日も終わってから、もうちょっといろいろ話とか質問したかったというご意見がちらほら出たんですけれども。どうでしょう。

【教員D】 すみません。よろしいですか。Dですけど。

【司会】 D先生、お願いします。

【教員D】 法律経済学科からなぜか発言いただけないということなので、今あえて発言しますが、最近取り組んでいるのが、修了生を引きずり込んだ授業というか、演習というか、何というのか、読書会ですけど。地方自治法の本をこの4月に出したやつがあって、それをずっと輪読形式で、ほとんど説明しているのは私なんですけど、その修了したといっても何者かという、いなべの市議会議員だったりするんですけど、今、修了されている人とのM1で入った人とその辺で、とにかく修了生も含めていろいろやろうとしていて。

とにかく、そこで岩崎さんのほうからあったけれども、院生相互間の世代を超えた交流みたいな感じで、何とかできないかなということ、ほとんどまだ妄想か幻想かという段階ですけど、何かかたちにしたいなと思ってやっているところです。

それでほしい2週間に1回、早速明後日もやるわけですけど、ほしい金曜日の、これいいかどうか知りませんが、ほしい夜の7時半という、とんでもなく野蛮な時間から始まるのがちょっと困ったところですけど、Zoomだから参加しやすいという、裏目に出てるのか表目に出てるのか分かりませんが、そんな感じで今やっているところです。以上です。

【司会】 ありがとうございます。ほか、どうでしょうか。ほかの方、何か。E先生、お願いします。

【教員E】 Eです。今、所属が地域イノベーション学研究科なので、少し条件が違うので控えていたんですが、あまりないみたいなので。社会人のことについては、岩崎先生、豊福先生もご報告ありがとうございます。非常によかったと思いますし、岩崎先生のお話しになられた部分、大半はそうだなというふうに思うところばかりでございました。私もやっていて、たくさん思います。

今、地域イノベーション、ドクター3人、マスター4人の社会人プラス、この10月から留学生2人の体制でやっているの、すごい大人数になっています。なので、院生間の交流ということで行くと、ゼミ内だけでも、とくに社会人で、私の場合は経営学なので、経営者なりその予備軍の方が多いですけども、だとすると、他の、業種の違う人たちに出会えるというのは非常にいいというふうなことで、Zoomであってもそれだけの人数とかでやると、かなり本人たちにはよかったみたいなので、リアルかZoomなのかは横に置いておいても、そうした場があるということは、社会人にとって大いなる、研究だけじゃないところのいろんな学びになると。あるいは同じことであっても、業種・業態が違えば、違う意見になるんだとか、違った見方があるんだかというふうなことになるとということにおいては非常にいい、刺激の多い、学びの多い、気づきの多い機会になりますので。

逆にいったら、それぐらいたくさん社会人がいて、場合によっては普通の講義を受講

してくる、ほかの社会人も入ってきますので、十数人のレベルでやったりすることもありますので、それぐらいの規模になると Zoom カリアルかは別にして、院生間の交流というのは非常に行われるし、意味があるし、というふうなことになりますので、逆にいったら、1対1では研究自身も行き詰まったりするところなんかも、そういったある程度の量で補い得る部分があって、1人の指導教員の力だけじゃないところでの突破というのも散見されるかと思えますので、そういった意味では、単にリアルにということだけじゃなく、どんな量でそういうふうなことをやれるようにするのかみたいなことというのはあるのかなみたいなことは、やりながら思っています。

ただ、それだけの人数に指導すると、とても大変です。どうしても社会人なので、先ほどからずっとあるように、Zoom になったことで移動のコスト・時間がかからないことは非常に好意的な部分があります。でも、院生自身もリアルな指導も求めている部分もあります。

しかし、北は桑名、南は玉城まで、地域的に非常に広がった人たちを無理やり大学とか、どこかのサテライトのところでやるとかというのは非常に時間の調整も労力が要るので、Zoom のほうがやりやすいという部分は非常にメリットとしては感じているところではありますが、十分なトレーニングを受けていないというところについては、ずっとそこは私も気を付けているところとか、そもそも論文を読むというふうなこと、しかも極めて学術的な論文を読むということについては相当な慣れが必要だと思うので、あえてそれを講義の演習で使って、それを丁寧に読み解いていく、かなり質のいいものをちゃんと読んでもらって、そこでのロジックのあり方とか、記述のあり方であるとか、注の付け方だとかというのは、講義の内容を中断してでもそういう指導を並行してやりながら、遅々として進みませんが、やるということは、かなりこの数年間、心がけてやっていかないと、後で修士論文で非常に困る。

あるいはテーマの設定で、テーマを固めてきているといっても、焦点がボケていたりとか、先ほど多分、岩崎先生もお感じなんでしょうけど、本当にそれ学術的とか、あるいは実践的に意味のあるところは、エビデンスが出るのかみたいなことというのに不安があるので、それを繰り返し、内容と絡めながらどう問うか、あるいは時々表明してもらったりするというふうなことは、かなり意図的にやらないといけないなということは非常に感じているところではあります。

ただ、岩崎先生から先ほどもありましたけど、手元とかというのはたしかにそうだなと思っていて、オンラインで一番そこはしづらい部分ではあるというのはたしかに思うところではありますので、地域イノベーションでもそうですけど、ハイブリッドで、全員じゃなくても、一部はリアルで、一部は画面でというふうなことになるような教室システムみたいなものが構築されていく必要はあるのかなというのは非常に感じているところがあって。

今、イノベで一部そうしたのは実験的に導入されたり、機材が備えられているので、人文でもそういうのができると、社会人の地理的条件と学びと、でもやっぱりリアルであることの意味ということは、毎回じゃなくても、入れ替わり立ち替わりでもそういう

かたちになれば、意味のある教育というのができたりするのかなんていうふうには思ったりもしています。

すみません。条件がちょっと違う部分があるんですけども、そんなようなところでございます。ありがとうございます。

【司会】 E先生、ありがとうございました。パネリストの先生方からも何かレスポンスがあれば、していただければと思うんですけど。

【豊福】 レスポンスということじゃないですけど、院生間の交流の話がね。これは別にオンラインにかかわらず、毎年、けっこう課題になっている部分で、去年もちょっと申し上げたんですけど、割と「三重の文化と社会」というのはその契機になっていまして、社会人の方が一般の院生と交流する機会って、多分この授業ぐらいしかなかったりするんですね。とくに夜間の受講されている社会人の方の場合は。

そういう意味では、この「三重の文化と社会」を通して、割とこういう交流が広がったり、去年も話しましたが、それが同窓会のベースになったりしていたところがあるので、そういう点でも、今年はその条件もなかなか出来てないのかなというのは、ちょっと思っているところはあります。

社会人の指導について、岩崎先生のお話、非常に私もそのとおりでなと思って聞いていました。大変参考になりました。ありがとうございます。

【司会】 ありがとうございます。

司会の川口のほうから、1参加者としてよろしいでしょうか。今、豊福先生とかE先生、皆さんおっしゃっている院生間の交流ということで、私は今、院生は指導していませんけど、過去に指導したことがあって、どうしても人数が少ないので、三重大学の研究科の中だけでの交流というのは限度があるんですけども、代わりに外の学会とか研究会に参加して、他大学の院生とか、あるいはいろんな一流の研究者の発表を聞いたり、あるいは院生の発表を聞いたりして刺激を受ける。そしてまた懇親会に出て、いろんな人と知り合うというのがあったんですけど、それがコロナによって軒並み学会が中止になったりというのは、皆さんもどの分野でも同じ条件だと思うんです。

後期になって、オンラインで開催するところがぼちぼち出てきたんですけど、私の所属している学会だと、院生は発表をするのは博士課程からで、修士あたりは聞くという聴衆側がだいたい多いんですが、オンラインのおかげで交通費と宿泊費がかからないで、参加しやすくなった反面、懇親会をやらなくなったので、一方的に聞いているだけという、授業を受けているよりももっと能動的にならないという状況で、これは院生さん寂しいやろなと思いつつながら、私は参加者の側で思っているんですけども、コロナによる影響というのは人のリアルな交流というのを奪ってしまったというのが、そこをどう埋めるかということと、なおさら院生の場合はそこが意外とだいじなんじゃないかなという、研究に直結してくるといえるのは、感想ですけども思いました。文化のほうの先生方もそういうのはどうなのかなと、もともと大学院の人数は少ないですけども、と思います。

あと5分ぐらいして終わって、教授会に移れるようにしたいとは思いますが、ど



うでしょうか、皆さん。岩崎先生、何かありますか。

【岩崎】 重ねてのお願いみたいなかたちにはなるんですが、まず学会員については、法律のことしか知らないんですけど、法学部では本当に、法律だと偉い先生だけが報告をして、若手は院生も含めて報告の機会ってそんなになくて、せいぜいドクターになってから学会に参加するぐらいかなというようなことを思っていて、従来から修士の院生が学会に参加するというのはそんなに多くなかったかなというふうに思うのが1点です。

もう1つ交流について、皆さまからのいろいろご意見、ご提案をいただいて、ありがたかったんですけど、私、最初はあまり心配していませんでした。1つ受け持っている授業では、社会人院生の方と2人で実施することができていましたし、「三重の文化と社会」にも参加をしていたので、そういう意味では、それなりに交流機会は持っていたにしているんじゃないかというふうに思っていたんですけど、それでは必ずしも十分とお感じになっていただけてないというようなこともあって、今日お話をさせていただきました。

大学のほうからつなげようとしてきているみたいなことが、今、入学式がなかったとかそういうことも含めて、あるのかなというふうには思っていて、院生のほうからつながっていくというのと、それから研究科のほうからつながっていくというのと、両面必要なみたいなことを思いますので、どこかでご検討いただけるといいなというふうに思っています。以上です。

【司会】 ありがとうございます。先生、指名してすみません。どうでしょうか。ほかに。まだもう数分。A先生、どうぞ。

【教員A】 岩崎先生のおっしゃったことで思い出したんですけど、私、図書館の使い方とかもうちょっと、院生とかにしても、学部生にしても、工夫して使えるようにしてあげたらいいんじゃないかなと思うんですけど。私自身も、研究者自身も、今よその大学の図書館とか行けなくて、郵便で取るというので、けっこうやりにくいんですね。行って集中的にわあっと図書館でできたらと思うことがたびたびで。図書館、こんながらんとしてるんだから、何とか使いようがないのかと思うんですけど、大学の方針として。いくらか学生を入れるようになっていきますよね。図書館も眠らせておくのは本当にもったいないと思うんですけど。愚痴ですけど。

【司会】 ありがとうございます。こういう要望はどこへ持って行けばいいんでしょうね。FD委員会の枠を超えているような気がするので、どうしたものかとは思いますが。どうでしょうか。何かご意見というか、ご提案というか、何かアイデアをお持ちの先生がもしいらっしゃったら。

【教員F】 Fですが、よろしいですか。

【司会】 F先生、どうぞお願いします。

【教員F】 三重大学の大学院の場合はどうしても人数が少なく、横のつながりがあまり持てないというところがやっぱり大きな問題だと思うんですね。

あと1つ、基礎学力というか、研究法の習得の度合いが入ってくる時にばらばらで、

本来だったら学部で知っておかなくちゃいけないことを全く知ってないという場合が、とくに社会人なんかもありますので、あるんですよ。

だけれども、だからといって、学部と同じような基礎からみんな学ぶというのは皆さんのプライドも許さないし、そうするとそこら辺を含めて、もう少し積極的に横をつなげ、同時に基礎学力も付けるというような、何か制度的な初年次生の授業みたいなのがあったほうが良いような気がするんです。

教養教育のところでは学習支援実践というのが前ありまして、1年の時にスタートアップセミナーを取った学生が、それをファシリテートするのが2年、3年ぐらいの授業がありまして、それだけでももちろん授業があるわけじゃないんですけど、授業の中に入ってファシリテートしながら、同時に集まって行って、どうやって面倒見ればいいのかと、不応者はどういるかというようなかたちのものを先生が指導しながら、みんなでディスカッションしながら。

そうすると今、文化学科でも、法律経済でも、1年次向けの何かやり方を教えるような個別授業みたいなのがありますから、そこに入ったばかりの院生を張り付けさせて、それとタイアップさせた1つの、そういう人たちが集まって、どのようにそういう発表を導けばいいとか、どのように図書館を利用させればいいのかということを院生同士で話し合わせて、ファシリテーション授業みたいなものをある程度、制度化して単位化していくというようなことをすれば、基本的な研究手法みたいなものも作れるし、学部とも結びつけて、学部生には先輩として慕われるし、同時に同じようなファシリテーションのクラスみたいなかたちで横のつながりも出来るし、発表会なんかを通して達成感みたいなものも出来ますので、そういうような工夫は、こういう地方大学の文科系の非常に多様な学問分野があるところではあってもいいんじゃないかなというのが、普段から考えていることです。以上です。

【司会】 F先生、ありがとうございました。

そうしたら、そろそろ時間ですので、次、教授会への移動の時間もありますので、11月の大学院FD研修会はこれで終了とさせていただきますと思います。まだ今後、課題が大きいかと思いますが、情報交換などの場になればと思います。最後、Moodleのほうにアンケートを載せてありますので、アンケートのご回答を今週中にお願ひしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。（終了）



## コロナ禍と大学院教育

ー主に研究指導についてー

2020年11月11日  
人文学部 11月FD研修会

岩崎 恭彦 (法律経済学科)

MIE UNIVERSITY 人文学部 FD研修会 2020 1

### 社会人学生の特質 (一般学生との対比)

- 研究したいテーマを固めて入学する方が多い  
社会人経験の中で育んできた問題意識が、そのベースとなっている
- その一方で、次のような制約を抱えている
  - ①十分なトレーニングを受けていないという制約
  - ②自身の研究や、授業の準備に割ける時間が極めて限られているという制約
  - ③院生間の交流機会に乏しいという制約

参考文献：近田政博「社会人大学院生を対象とする研究方法論の授業実践」  
名古屋高等教育研究8号(2008)73頁以下

MIE UNIVERSITY 人文学部 FD研修会 2020 1

### 前期に実施した授業と研究指導

- 前期に大学院で行った授業  
= Zoomによるオンライン同期型授業
  - ・「地方自治論演習」(夜間、受講者2名)
  - ・「地方分権論特講」(昼間、受講者1名)

- 大学院の授業は基本的に演習形式で実施
  - ・文献テキストの指定
  - ・moodleを通じた報告レジュメの共有
  - ・Zoomでの報告および議論
 →オンラインでもそれなりに成立した

MIE UNIVERSITY 人文学部 FD研修会 2020 3

### 前期に実施した授業と研究指導

- 前期に実施した研究指導  
= メールを介した添削 + Zoom上での指導
  - ・「三重の文化と社会」の履修に付随した事前事後の指導
- 同科目のオンライン実施に伴う種々の制約  
→「研究したいテーマを固めて入学する方が多い」というアドバンテージがあるから、ある意味、制約を乗り越えられそうだ、という面も

MIE UNIVERSITY 人文学部 FD研修会 2020 7

### 本日の話題提供

1. 一般学生との対比でみた社会人学生の特質
2. コロナ禍の状況下における研究指導と雑感

MIE UNIVERSITY 人文学部 FD研修会 2020 2

### 前期に実施した授業と研究指導

- 前期に大学院で行った授業  
= Zoomによるオンライン同期型授業
  - ・「地方自治論演習」(夜間、受講者2名)
  - ・「地方分権論特講」(昼間、受講者1名)
- 前期に実施した研究指導  
= メールを介した添削 + Zoom上での指導
  - ・「三重の文化と社会」の履修に付随した事前事後の指導

MIE UNIVERSITY 人文学部 FD研修会 2020 4

### 前期に実施した授業と研究指導

- 前期に大学院で行った授業  
= Zoomによるオンライン同期型授業
  - ・「地方自治論演習」(夜間、受講者2名)
  - ・「地方分権論特講」(昼間、受講者1名)

- ②時間が極めて限られているという制約  
→オンライン型授業により、限られた時間の有効活用が可能になっているという面も

MIE UNIVERSITY 人文学部 FD研修会 2020 5

### その他雑感

- ①十分なトレーニングを受けていないという制約関連  
→どれだけのトレーニングを受けてきた方か、これまで対面指導を通じて把握できてきた面があるかもしれない  
→図書館を使いたいという要望に応えられていない申し訳なさや不安
- ③院生間の交流機会に乏しいという制約関連  
→コロナ禍の状況下で、いっそう欠けているけれども、、、

MIE UNIVERSITY 人文学部 FD研修会 2020 9

## ○シンポジウムのアンケート結果

1 今回の研修会について、総合的な評価をお聞かせください。

回答	平均	合計
大変良かった	33%	10
良かった	53%	16
普通	13%	4
回答総数	100%	30/30

2 今回のシンポジウムの感想、コロナ禍の現状における大学院教育のあり方についてのご意見など、自由にお考えをお書き下さい。

- ・留学生への指導が非常に難しいと思っています。
- ・大学院教育の現実を聴くことができたのは良かった。自分にとっても参考になった。ただし、今後に向けてどうすべきかという議論までつなげるのが難しいと思った。
- ・zoom等によって、海外にいながらにして、留学することが可能になったのでは、という意見は興味深いと思いました。
- ・データベース画面を共有しながら演習をできるのは、対面よりもよいとおもいます。しかし、辞書でないと調べにくいこともありますし、調べ物をするために図書館に籠もるといった基礎トレーニングが全くといっていいほどできていません。これは修士論文執筆に相当な影響を与えていると感じています。
- ・行政機関などへ訪問して研究準備を行うのは、コロナ禍では特に困難が生じていることがわかりました。それらを補うための行政機関と連携し高度な遠隔のシステム整備を整えることが重要であると思います。また、大学院生として留学生が多い状況により遠隔でも大変だということが指摘されておりました。大学院教育が留学生中心になっている現状をもう少し是正し、地域の社会人向けの入試方法、取組も必要なのではないかと思います。もしくは、留学生の対象となる国も様々な国の学生がいることが今後の大学院教育には必要です。
- ・フィールド系の研究手法では、ウィルスの感染リスクとどう向き合うかが大変悩ましい問題ですね。豊福先生の実例紹介でよくわかりました。
- ・報告者でしたが、社会人に対する研究指導の課題について、共通して感じている部分が多く、大変参考になりました。
- ・みなさんからのコメントにもありましたが、コロナ禍でさまざまな制約が生じている

反面、大学側および教員のオンラインでの講義スキルが向上したことは、社会人を受け入れる上ではプラスの面もあると思います。この条件を社会人院生を増やす取り組みに生かしていくことが必要であると思いました。

・コロナ禍で、いろいろなメディアによる言説が流れている中で、このような機会を頂けたことは嬉しいです。大学院は社会人が中心ですので、仮にコロナ禍がなくてもオンラインが可能可能かどうかを模索してきたので、その点でも参考になりました。

・豊福先生および岩崎先生からいただいた報告、ならびにご発言いただいた先生方の意見や事例は大変参考になりました。

・大学院の授業で共感できることがありました。

・また、ZOOMであるがゆえに、確認でいない学生の手元の状況やスキルを何らかの形で確認する必要性も感じました。

・赴任してまだ大学院を持った経験はないが、ゼミなどの少人数の授業にもちかいことが当てはまるので、問題共有も含め、参考になった。

・数は少ないですが、これまでに院生指導を行った際に感じたことなどが、今回のパネリストの報告を聞いて確認することができたため。

・このような機会があってよかった。

・私は大学院生を今年を持ってはいないのですが、指導を担当している先生方が本当にご苦労している姿に共感しました。

### 3 ご自身の経験で、コロナ前と現在で大学院教育の実際が異なると感じていることを、自由にお書きください。

・オンライン形式になったという運営の違いはあるが、授業の内容はほとんど変わらない。

・オンライン授業では学生の顔をなかなか見ることができず、反応が読み取れなくなった。

・ご報告したとおり、フィールド型の演習科目にとっては制約ばかりです。満足な教育ができていません。

・Zoomで講義をしているが、あまり大きな問題はなさそうに思えます。インタビューを中心としたフィールドワークの場合は難しさもありそうですが、ある程度以上はオンラインで可能な感じがしました。

・FDの中でもありましたが、社会人院生はオンラインの方が講義などに出席しやすいようです。

・授業で、ゲストスピーカーを招待できたことはよかったです。

・相手もお仕事のある中での参加なので、移動や時間の短縮が可能になったことにより、お願いしやすかったです。

・今年の院生は修論指導だけなので、特にはないです。

・実習は除いて、大学院の演習としてzoomで行うのは、社会人とか遠隔地の院生が多く、もともと意欲があって大学院に来ているので、むしろよかった。

**4 今後の大学院FD活動について、ご意見、ご感想を自由にお書きください。**

- ・毎年実施するものを踏まえつつ、新しい視点による取り組みをもっと考えてもよいと思う。(なかなか難しいと思うが)
- ・すみません、大学院の授業をほとんど開講していないので、あまり意見等はありません。
- ・実際の事例を紹介していただく形式は、自分が授業をしていく中で大変参考になります。
- ・今後ともこういった機会を頂けると助かります。
- ・大変参考になりました。
- ・次回も、特任教員にもお誘いいただければ嬉しいです。
- ・ある程度の院生の確保と、院生自身が自発的に研究を進めることができる環境の整備(どのような環境で研究し、修論をまとめているのか)に関する情報共有など
- ・そのときどきの課題に応じたテーマがよいと思います。

## VII. 教員による「FD活動に関するアンケート」





## VII. 教員による「FD活動に関するアンケート」

### 1. アンケートの概要

#### (1) 目的と方法

1月教授会(2021年1月13日)終了後、来年度以降のFD活動をより有意義なものとするために、今年度のFD活動と今後に向けての要望等についてのアンケート調査をMoodleで実施した。以下、アンケートの結果を示す。

#### (2) 質問項目(巻末資料)

質問項目の大きな分類は次の通りである。①7月FD研修会について。②今後の大学院FD活動について、③学生授業アンケートについて、④教員による授業アンケートについて、⑤今後のFD活動全般について。質問の詳細は、巻末資料を参照されたい。

### 2. 分析結果

#### 概要

人文学部30名から回答を得た。昨年度は24名であった。昨年度同様、学科別の集計も行った。以下、回答内容の概要を記す。

7月FD研修会に関する興味等(「興味を持ってましたか」「役立ちましたか」)については、昨年度と回答傾向はほぼ同じで、昨年度同様に「大いに興味を持てた」の回答数の占める割合が高く、今年度の研修会への高い評価がうかがえる。これまでカリキュラム・プログラム単位別に8グループで実施していたものを、2単位合同の4グループで実施したことについては、新しい試みとして評価する意見があった。

自由記述で意見が最も多く寄せられたのは、今年度のFD活動全般についてである。喫緊の課題となったコロナ禍を扱った講演会や研修会への評価だけでなく、FD委員会主催で開催した自由参加のオンライン交流会を高く評価する意見が目立った。コロナ禍において教員も分断され同僚との接点を失って困惑し疲弊していたということと、オンライン交流会がその解消の一助になっていたことがわかる。学生授業アンケートについては、項目のあり方(学びの振り返りと、授業評価的な内容を分けるべき等)や内容の再検討、アンケートの実施頻度の検討、回答する学生側の課題が指摘されている。大学院FD活動の「研修会や講演会で取りあげて欲しいテーマ」への回答が、例年になくとても多かった。コロナ禍に関連するテーマもあるが、留学生や社会人院生の指導、複数指導体制のあり方、論文執筆の指導等、コロナ禍に関係なく具体的な大学院教育への問題意識が存在すると言える。

アンケートの実施形態として、昨年度までの紙媒体での実施ではなく、今年度実施のMoodleのアンケートモジュールの利用のほうが回答しやすいとの意見があった。実際に、アンケートの回収率も昨年度より向上し、自由記述の内容も増加している。

①7月FD研修会

7月研修会：テーマ「2019年度授業アンケートの自己分析と、それにもとづく授業の改善方法」

表 VII-1 興味をもてましたか

	計	大いに	やや	あまり	全く	不明	不参加
人文学部	30	12	14	1	0	0	3
		40%	47%	3%	0%	0%	0%
文化学科	20	10	7	1	0	0	2
		50%	35%	5%	0%	0%	0%
法律経済学科	9	2	7	0	0	0	0
		22%	78%	0%	0%	0%	0%
その他	1	0	0	0	0	0	1
		0%	0%	0%	0%	0%	100%

表 VII-2 役立ちましたか

	計	大いに	やや	あまり	全く	不明	不参加
人文学部	30	7	15	2	1	2	3
		23%	50%	7%	3%	7%	1%
文化学科	20	6	10	1	0	1	2
		30%	50%	5%	0%	5%	10%
法律経済学科	9	1	5	1	1	1	0
		11%	56%	11%	11%	11%	0%
その他	1	0	0	0	0	0	1
		0%	0%	0%	0%	0%	100%

自由意見

- ・今のままでよいと思う。
- ・2つの地域が合同で行ったのは、新しい取り組みとしてよかったと思う。
- ・マンネリにはなっているが、近い科目担当教員の授業状況を理解する良い機会なので今後も続けて欲しい。
- ・こういった機会を頂けて大変助かりました。
- ・7月の研修会の日はおそらく出勤日ではなかったため、調整が困難で参加できませんでした。興味はあったので、残念です。

②今後の大学院FD活動について

自由記述

- (1)「三重の文化と社会」学内報告会、同現地報告会、修士論文発表会でのアンケートについて

て

- ・継続も大事だが、可能ならば、新しい取り組みも考えてほしい。
- ・大学院の規模に鑑み、形だけのもので良い。
- ・アンケート自身には特に意見はありません。それぞれの報告会などがオンラインでも参加できるようにして、そもそもの参加者数を増やすことがまず大事ではないかと思います。
- ・学外開催のものは参加をためられることがあるので、今後もオンライン併用を検討してもらえれば助かる。
- ・修士論文発表会は2月末行っていますが、修士論文提出後1週間程度で発表会が開かれれば、報告者が少ないということは避けられるのではないかと思います。今後も発表会を続けるのであれば、修士論文発表会の時期なども含め、再検討するなど、先生方のご意見を聞いたらどうでしょうか。
- ・また、機会を見つけてなるべく見させて頂ければと思います。
- ・出勤日であれば、参加したいと思います。

## (2) 研修会や講演会で取り上げて欲しいテーマ

- ・大学院生を担当しているので、同僚の先生方の工夫は大変参考になりました。
- ・複数教員体制での指導方法や実践についての共有
- ・留学生院生の指導について
- ・大学院修了後の学生の就職先など、人文系の大学院に進んでもその先が明るければ、大学院進学者も増えると思うので、修了後の現状や院生へのフォローなどのありかたについて。論文の書き方指導について取り上げていただけると嬉しいです。
- ・社会人リカレントについて、本研究科（あるいはそれぞれの専攻）が果たす役割や期待されることは何か、ということに関わる内容があるとよいのではないのでしょうか。
- ・社会人院生を指導する上での課題、多様な大学院生に来てもらうための方策、などについて
- ・なかなか難しいかもしれませんが、各研究分野での論文の書き方の違いなどが分かると面白いかなと思いました。
- ・コロナ事態がしばらく続くと思われ、フィールド調査等の研究調査活動を制限せざるを得ない状況の中、いかにして研究活動を絶やさず継続するべきか
- ・Moodle や ZOOM の便利な機能の紹介

## ③学生授業アンケートについて

### 自由記述

- ・学生の生の声を聴くことは重要だと思いますので、今後も継続を望みます。
- ・学生自身の授業の振り返りのアンケートと、授業評価の意味合いのあるアンケートは分けた方が良いのではないかと。アンケート項目について、授業改善に役立つのかという観点から定期的に検討してもらいたい。
- ・自由記述の「自分が教員だったら・・・」という項目はやめていただきたいです。

- ・4年に一回の実施で十分（毎年2回は不必要）
- ・4回以上欠席の者は回答できないような工夫が欲しい。
- ・学生の回答率を上げることが必要だと思います。

#### ④教員による授業アンケートについて

##### 自由記述

- ・これまでの蓄積があるのだから、その活用も考えるべきかと思う。
- ・書式と内容を変えないようにしていただきたく存じます。
- ・紙媒体よりもこういったネット形式の方がやりやすいです。今後も続けてもらえればと思います。
- ・教員へのアンケートも重要と思います。教員へのアンケートと学生へのアンケートの違いがあると、興味深いと思います。
- ・質問項目が分析に役立つのか、少し疑問を感じながら毎年回答している。
- ・4年に一回の実施で十分（毎年2回は不必要）

#### ⑤今年度のFD活動全般について

##### 自由記述

- ・コロナ禍での授業のあり方にうまく対応したFD行事だったと感服しております。
- ・いずれもコロナ禍の時期に即したテーマを設定していただき、大変参考になりました。コロナ禍での大学教育のあり方について、必ずしもノウハウだけでなく、理念的な側面からも関心があります。
- ・オンライン授業に関する有益な情報を得ることができました。ご尽力いただいたFD委員の皆さま、ありがとうございました。
- ・1度しか出席できませんでしたが、zoomでのインフォーマルなミーティングは、有意義でした。Moodleの操作、コツや実践例など、その場での共有された事柄については、簡単でもいいので、記録に残して共有していただくとありがたいです。特にこの1年のオンラインは試行錯誤状態でしたので、貴重な取り組みだったと思います。
- ・いろいろとお世話になりありがとうございました。
- ・コロナ禍への対応という取り組みは評価できる。コロナの影響はすぐに消えそうもないので、新年度もコロナ対応の授業運営、コロナ対応の学生指導などをテーマに考えるべきかと思う。ご検討いただきたい。
- ・講義などがオンライン化が進む中で、積極的な取り組みをしていただいたと思います。本年度は急遽決まったオンライン授業について教職員それぞれが頑張りすぎたと思います。おそらく表面に出さないだけで過労気味になっており、本年度同様のレベル、あるいはさらに自己研鑽しなければならないハイブリッド授業まで行うことになり、それが当然だとみなされると、燃え尽きてしまう教員が増えることを憂慮しております。その意味において、全学で行われたアンケートとは別途に、どの程度頑張りすぎたのか、何がつらいのか、ということについて情報共有（活動をまとめるなど）が必要ではないかと思っています。その意

味において、9月シンポジウムやその後不定期に行われたオンライン交流会は良い機会だったと思います。セッティング等どうもありがとうございました。こういった教職員それぞれが過労気味に走り続ける昨今の状況を考えると、今後も月1あるいは不定期で情報共有もしくはガス抜きの機会があればいいなと思います。

・今年是人文学部の先生方の取り組みなどをうかがう内容が多かったので、身近な状況を知ることができました。現状のように遠隔講義を行うことの良い面も一方ではあると思います。先進的な講義方法の取り組みなど、IT業者と大学教員が共同研究している事例や、海外の大学での先進的な講義の事例を知る研究者のお話などを伺える機会があると今後に役立つと思います。また、遠隔講義としてZoomの投票などは、学生からも他の人の意見を聞けて楽しいということを感じました。対面の講義で学生の意見を数値で表す方法として双方向コミュニケーションツール「クリッカー」などがありますが、クリッカーも高価であるため、スマホなどを利用した双方向コミュニケーションツールやアプリなどの情報を提供してもらえると参考になると思います。

・大変勉強になりました。特に今年はコロナの中での授業で、相当迷いながら進めてきた経緯がありましたので、参考にさせて頂く部分も数多くありました。有難うございました。着任1年目でありながらオンライン授業の準備に追われてしまったこともあり、オンライン交流会に参加できず残念でした。ただし、実際に参加できずとも、いざという時に相談させていただける場が開催されているということで安心できる側面もありました。次年度にも引き続き開催されましたら、是非参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。

・日頃、他の先生方との交流の場がないため、オンライン交流会などで有益な情報を得られたことが非常にありがたかったです。

・出席できませんでしたが、オンライン交流会などで教員間で意見が交わされたのはよかったのではないかと思います。

・あまり労力を費やさないFD活動にして欲しい。





## 卷末資料





[巻末資料2]

2020年度「三重の文化と社会」学内報告会・アンケート (Moodle)

- I. ご所属をお答え下さい。 地域文化論専攻・社会学専攻
- II. ご指導の大学院生の報告がありましたか。 Yes・No
- III. この発表会の感想をお教え下さい。
  - ①発表の内容について
    1. レベルが高い 2. ややレベルが高い 3. どちらともいえない
    4. ややレベルが低い 5. レベルが低い
  - ②発表の形式について
    1. 整っていた 2. やや整っていた 3. どちらともいえない 4. やや整っていない
    5. 整っていない
  - ③質疑について
    1. 充実していた 2. やや充実していた 3. どちらともいえない
    4. やや充実していなかった 5. 充実していなかった
- IV. 「三重の文化と社会」のあり方について、コメントがあればお書き下さい。
- V. 「三重の文化と社会」の学内報告会のあり方に関して、コメントがあればお書き下さい。
- VI. その他、大学院教育全般に関することを含めて、お考えがあればお書き下さい。

2020年度「三重の文化と社会」現地報告会・アンケート (Moodle)

- I. ご所属をお答え下さい。 地域文化論専攻・社会学専攻
- II. ご指導の大学院生の報告がありましたか。 Yes・No
- III. この発表会の感想をお教え下さい。
  - ①発表の内容について
    1. レベルが高い 2. ややレベルが高い 3. どちらともいえない
    4. ややレベルが低い 5. レベルが低い
  - ②発表の形式について
    1. 整っていた 2. やや整っていた 3. どちらともいえない 4. やや整っていない
    5. 整っていない
  - ③質疑について
    1. 充実していた 2. やや充実していた 3. どちらともいえない
    4. やや充実していなかった 5. 充実していなかった
- IV. 「三重の文化と社会」のあり方について、コメントがあればお書き下さい。
- V. 「三重の文化と社会」の現地報告会のあり方に関して、コメントがあればお書き下さい。
- VI. その他、大学院教育全般に関することを含めて、お考えがあればお書き下さい。

## 2020年度 修士論文発表会・アンケート (Moodle)

- I. ご所属をお答え下さい。 地域文化論専攻・社会学専攻
- II. ご指導の大学院生の報告がありましたか。 Yes・No
- III. この発表会の感想をお教え下さい。
  - ①発表の内容について
    1. レベルが高い 2. ややレベルが高い 3. どちらともいえない
    4. ややレベルが低い 5. レベルが低い
  - ②発表の形式について
    1. 整っていた 2. やや整っていた 3. どちらともいえない 4. やや整っていない
    5. 整っていない
  - ③質疑について
    1. 充実していた 2. やや充実していた 3. どちらともいえない
    4. やや充実していなかった 5. 充実していなかった
- IV. 修士論文／修士論文指導の在り方に関して、コメントがあればお書き下さい。
- V. 修士論文発表会のあり方に関して、コメントがあればお書き下さい。
- VI. その他、大学院教育全般に関することを含めて、お考えがあればお書き下さい。

### 〔巻末資料3〕2020年度FD活動に関するアンケート (Moodle)

所属： 文化学科・法律経済学科・その他

#### 1. 7月FD研修会について

7月FD研修会について、以下の質問にお答えください。

テーマ：「2019年度授業アンケートの自己分析と、それにもとづく授業の改善方法」

(1) 興味をもてましたか。

1. 大いに興味をもてた    2. やや興味をもてた    3. あまり興味をもてなかった  
4. 全く興味をもてなかった    5. わからない    6. 不参加

(2) ご自身のFDに役立ちましたか。

1. 大いに役立った    2. やや役立った    3. あまり役立たなかった  
4. 全く役立たなかった    5. わからない    6. 不参加

(3) 研修会の内容、運営の仕方などについて、ご意見があればお書きください。

#### 2. 今後の大学院FD活動について

(1) 今年度も大学院FD活動として「三重の文化と社会」学内報告会、同・現地報告会、修士論文発表会でのアンケートを予定していますが、この点についてのご意見があればお書きください。

(2) 研修会や講演会で取り上げて欲しい大学院FDに関するテーマがありましたらお書きください。

#### 3. 学生授業アンケートについて、ご意見があればお書きください。

#### 4. 教員アンケートについて

学生授業アンケートと同時に実施している教員アンケートについて、ご意見があればお書きください。

#### 5. 今年度のFD活動全般について

今年度はこれまで、7月研修会（昨年度の授業アンケートの自己分析）、9月講演会（シンポジウム「大学教育におけるオンライン授業が提起したもの」）、11月研修会（大学院FD「コロナ禍と大学院教育」）、コロナ禍における人文学部教員間の情報交換のためのオンライン交流会（9月～、不定期）を行ってきました。評価できる点、改善すべき点、また今後のご要望など、ご意見がありましたらお書きください。



## 2020 年度人文学部 F D 委員会 年間活動

### 一、委員会の構成

委員長：川口敦子 委員：安食和宏、前田定孝

### 二、委員会の開催

※第 2 回以降はオンライン会議

第 1 回 F D 委員会 4 月 15 日（水）

0. F D 活動についての考え方
  1. 年間計画について
  2. 予算について
  3. 議事録について
  4. 次回開催
  5. その他

第 2 回 F D 委員会 5 月 20 日（水）

1. 7 月 F D 研修会について
2. 9 月（または 10 月）F D 講演会について
3. その他

第 3 回 F D 委員会 6 月 17 日（水）

1. 7 月 F D 研修会について
2. 9 月 F D 講演会について
3. 大学院 F D について（11 月教授会前）
4. その他

第 4 回 F D 委員会 7 月 15 日（水）

1. 7 月 F D 研修会
2. 授業アンケート・教員アンケートについて
3. 9 月 F D 講演会について
4. 大学院 F D について（11 月教授会前）
5. F D 活動報告書の内容について
6. その他

第 5 回 F D 委員会 9 月 16 日（水）

1. 7 月 F D 研修会
2. 教員アンケート（前期授業）について
3. 9 月 F D 講演会の報告

4. 大学院FDについて
5. 教員同士の情報共有の場について
6. FD活動報告書の内容について
7. その他

第6回FD委員会 10月21日(水)

1. 7月FD研修会
2. 大学院FDについて(11月教授会前)
3. 大学院FDアンケート
4. FD活動報告書の内容について
5. オンライン交流会の今後について
6. その他

第7回FD委員会 11月18日(水)

1. 後期授業アンケート(学生・教員)について
3. 「FD活動に関するアンケート」について
4. 「三重の文化と社会」報告会(学内・現地)、修論発表会の教員アンケートについて
5. FD活動報告書について
6. その他

第8回FD委員会(メール審議) 12月24日(木)

1. 1月に実施する各種FDアンケートの確認
2. 1月教授会資料の確認
3. 人文学部オンライン交流会について
4. その他

第9回FD委員会(メール審議) 2月17日(水)

1. 修士論文発表会(3月1日)のアンケート実施について
2. 7月FD研修会の報告書未回収分の督促(報告)
3. FD活動報告書の分担について(確認)
4. その他

第10回FD委員会 3月17日(水)

1. 7月FD研修会
2. 今年度のFD活動の総括・反省
3. FD活動報告書について
4. 来年度のFD活動について(引き継ぎ)
5. その他

### 三、FD研修会の開催

7月FD研修会 7月8日(水) 14:00～15:00

両学科のカリキュラム・プログラム単位を元に学科ごとに2グループ、合計4グループにして実施。

テーマ：2019年度実施学生アンケートの自己分析と改善方法

内容：報告に基づく質疑応答と意見交換

### 四、FD講演会の開催

9月FD講演会 9月9日(水) 14:00～15:00

会場：オンライン (Zoom)

講師：森脇由美子氏 (文化学科)

田中亜紀子氏 (法律経済学科)

鈴木英一郎氏 (学生なんでも相談室)

テーマ：大学教育におけるオンライン授業が提起したもの

### 五、FDアンケートの実施

#### (1) 授業アンケート (前期・後期) の実際

ユニバーサルパスポートにより実施

#### (2) 教員授業アンケート (前期・後期) の実施

学生による授業アンケート期間に Moodle で実施

講義・演習のあり方や工夫等に関して尋ねるアンケート

#### (3) FD活動総括アンケートの実施

年間を通じたFD活動(研修会、講演会、授業アンケート等)に関して教員に意見を求めるアンケート。

### 六、大学院関係FD活動

#### (1) FD研修会 11月11日(水)

会場：オンライン会議 (Zoom)

パネリスト：豊福裕二氏 (法律経済学科)・岩崎恭彦氏 (法律経済学科)

テーマ：コロナ禍と大学院教育

内容：報告に基づく質疑応答、討議。

#### (2) 大学院授業アンケートの実施

前期・後期アンケート (ユニバーサルパスポート) 期間に実施

当該大学院生が履修した授業科目全体に関するアンケート

(3) 授業科目「三重の文化と社会」院生報告会（学内・現地）でのアンケート実施

1月18日（月）学内発表会（オンライン）終了後に Moodle で実施

1月23日（土）現地報告会（オンライン）終了後に Moodle で実施

(4) 修士論文発表会でのアンケート実施

3月1日（月）修士論文発表会（オンライン）終了後に Moodle で実施

七、人文学部オンライン交流会の実施

コロナ禍における人文学部教員の孤立を解消するために、自由参加のオンライン交流会を実施。

第1回：9月23日（水）18：00～19：00

第2回：9月30日（水）12：00～13：00

第3回：9月30日（水）18：00～19：00

第4回：10月7日（水）12：00～13：00

第5回：10月7日（水）16：30～17：30

第6回：11月18日（水）12：00～13：00

第7回：12月16日（水）12：00～13：00

---

2020 年度三重大学人文学部における FD 活動報告書

発行 2021 年 12 月 31 日

編集 三重大学人文学部 FD 委員会

(川口敦子、安食和宏、前田定孝)

印刷 合資会社 黒川印刷

---